高原町告示第5号

令和4年第1回高原町議会定例会を次のとおり招集する

令和4年2月16日

高原町長 高妻 経信

1 期 日 令和4年3月9日

2 場 所 高原町役場議場

○開会日に応招した議員

陣 圭介君

反田 吉巳君

松元 茂春君

中村 昇君

温水 宜昭君

福澤 卓志君

末永 充君

入佐 廣登君

前原 淳一君

温谷 文雄君

令和4年 第1回 高原町議会定例会会議録 (第1日)

令和4年3月9日 (水曜日)

議事日程 (第1号)

令和4年3月9日 午前9時00分開会

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

陣 圭 介 議員

福 澤 卓 志 議員

温 水 宜 昭 議員

末 永 充 議員

前 原 淳 一 議員

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

陣 圭 介 議員

福 澤 卓 志 議員

温 水 宜 昭 議員

末 永 充 議員

前 原 淳 一 議員

出席議員 (10名)

1 番 陣 圭介君

2 番 反田 吉巳君

3 番 松元 茂春君

4 番 中村 昇君

5 番 温水 宜昭君

6 番 福澤 卓志君

7 番 末永 充君

8 番 入佐 廣登君

9 番 前原 淳一君

10 番 温谷 文雄君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局長	中嶋 秀一君	書記（事務局次長）	中嶋 雄二君
		書記（副主幹）	古川 裕子君

説明のため出席した者の職氏名

町長	高妻 経信君	副町長	横山 安博君
教育長	西田 次良君		
総合政策課長	馬場 倫代君	総務課長	内村 秀次君
税務課長	平川 昌知君	町民福祉課長	水町 洋明君
環境保全対策監	高原 寿志君	ほほえみ館長	久徳 信二君
産業創生課長	森山 業君	農政林務課長	上村 洋二君
農畜産振興課長	田中 博幸君	建設水道課長	入佐 和彦君
会計管理者兼会計課長	酒匂 政利君	教育総務課長	末永 恵治君

◎ 開会・日程

午前 9時00分 開会

○議長（温谷文雄君）

ただいまから令和4年第1回高原町議会定例会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

会期日程案及び本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程に入るに先立ち、諸般の報告をいたします。

派遣議員等の決定を含め、諸般の報告は、その概要をお手元に配付しておりますので、御参照のほどをお願いいたします。

報告の中で、高原町議会会議規則第74条の規定による委員派遣及び第127条の規定による議員派遣を行っております。これについては、全員協議会で報告のとおりです。

○

◎ 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（温谷文雄君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第125条の規定により、3番、松元茂春議員及び4番、中村昇議員を会議録署名議

員に指名します。

○

◎ 日程第2 会期の決定

○議長（温谷文雄君）

日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から3月23日までの15日間にしたいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

異議なしと認めます。よって、会期は本日から3月23日までの15日間に決定しました。

○

◎ 日程第3 一般質問

○議長（温谷文雄君）

日程第3、一般質問を行います。

通告がありますので、順次発言を許します。

まず、1番、陣圭介議員。

○1番（陣圭介君）

〔登壇〕

おはようございます。質問通告書に基づき4点質問いたします。

まず、新型コロナウイルスに関し、各種検査について質問いたします。

陽性または陰性の判定を行う各種検査について、陽性判定が出た場合の対象者の取扱い方について説明を頂きたく存じます。

宮崎県の発表においては、新型コロナウイルス陽性判明者と感染者という文言を同義的に用いているようですが、この取扱いが正確であるかについて、当局の見解を求めます。

次に、職員のハラスメント対策に関し、壇上からは、パワーハラスメントへの対応等について質問いたします。

職員がパワーハラスメントに起因して職務を継続し得ない状況となった場合、または、継続し得ない状況になる可能性がある場合の当局の対応についてお伺いいたします。

パワーハラスメントを受けたと認識している職員の存在を確認した場合に、例えば、外部の人間を交え公平に聞き取りを行える体制が構築できているか否かについての答弁を求めます。

次に、放課後児童健全育成事業に関し、昨年6月に一般質問いたしました。壇上からは、その後の進捗も含め、本事業の現状についてお伺いいたします。

次に、学校教育に関し、壇上からは、休校期間を経験した児童生徒の学力について質問いたし

ます。

内閣総理大臣による全国一斉臨時休業要請を受け、本町においては令和2年3月2日から26日までが公立学校が一斉休校となりました。長期間の休校期間を経験した児童生徒の中には、コロナ禍における新たな生活習慣への対応の要請から、一部学習に対する意欲が不足している生徒も見受けられるように感じます。また、中学校においては、令和3年度に教科書改訂があり、学習内容の変遷期が重なったことから、学習内容の習熟度に疑問が残ります。

令和2年6月定例会において、私からは、学校再開後のスケジュールリングや教育内容等について質問し、教育長からは、各種対応策を講じる等の答弁を頂きました。しかしながら、各種の対応策がどのような効果を及ぼしたのか不明のままで、検証されていないと考えます。当局の見解をお伺いしたく存じます。

以上で、壇上からの質問を終わります。

[降壇]

○町長（高妻経信君）

[登壇]

おはようございます。今回の議会で5名の議員から一般質問の通告がございましたので、ただいまから答弁をさせていただきます。

まず、陣議員の御質問にお答えいたします。

大きく4点にわたる御質問を頂きましたけれども、4項目めの学校教育につきましては教育長のほうで答弁をいたさせます。よろしくお願い申し上げます。

まず、感染症対策についての御質問でございます。

新型コロナウイルス関連でございますけれども、県の発表においての新型コロナウイルス陽性判明者と感染者という文言についての同義的な使い方の見解でございますけれども、陽性と感染について調べてみますと、「陽性」については「医学で検査の反応がはっきりあること」となっており、また、「感染」とは「病原体が身体内に侵入し、寄生状態が成立したことをいう」となっております。

そのような中、県におきましては、PCR等の検査において陽性が判明した方に対し、医師が医学的知見に基づいた上で新型コロナウイルス感染症の確定を行っているということから、県が発表している新型コロナウイルス陽性判明者については、感染者と同義的な使い方をして問題ないものと考えております。

次に、ハラスメント対策についての御質問でございました。

パワーハラスメント対策につきましては、役場におきましては、令和3年10月に、高原町職員（国民健康保険高原病院職員を除く）のハラスメント防止に関する要綱を策定いたしまして、相談窓口を総務課長と行政係長と定めております。

また、病院におきましては、令和3年4月に、国民健康保険高原病院職員のハラスメント防止

に関する要綱を策定いたしまして、相談窓口を看護総師長と事務長と定めております。

外部の人材を交えた相談体制は現在設置いたしておりません。また、相談者に対しては、公平な聞き取りができているものと認識いたしております。

次に、放課後児童健全育成事業についての御質問にお答えいたします。

令和3年度におきまして、高学年を中心に待機児童が発生しております。これまで学校の空き教室の確保や民間事業者等への相談等を行ってきておりますが、待機児童の解消には至っていないところでございます。

しかしながら、令和4年度におきましても、待機児童の発生が見込まれる状況であることから、令和4年度におきまして、高原小学校の空き教室を利用した放課後児童クラブの設置を計画いたしているところでございます。

以上でございます。

[降壇]

○教育長（西田次良君）

[登壇]

私からは、学校教育の休校期間を経験した児童生徒の学力分析についてお答えをいたします。

本町の学校教育の対応としましては、「学びの保障」をキーワードに、学校行事の精選を含む主要教科に重点を置いた教育課程の見直しや、臨時休業等の家庭学習の課題準備、学習内容の定着が不十分な児童生徒に対しての個別指導の徹底、管理職や学力向上担当を対象とした学力向上ミーティングの実施など、多岐にわたり対策を講じてまいりました。

各対策の検証につきましては、3点にポイントを絞ってお伝えいたします。

1点目は、教育課程の見直しについてであります。どの学年においても未履修の学習内容がないよう、授業が実施できたと学校から報告を受けております。また、学習内容の定着が不十分な児童に対しては個別指導を行い、毎時間の授業の積み上げを大切に組み込んでおります。

2点目は、家庭学習の課題準備についてでございます。学級担任、専科の教員、スクールサポートスタッフが協力して課題の準備をしてまいりました。準備された課題は、御家庭の理解を得て学校に取りに来ていただいたり、学級担任が持って行ったりして、学びを止めない一助とすることができたと捉えております。一方、タブレットを家庭へ持ち帰り、ドリル学習などに取り組むことができるよう、ICT環境整備をより進めていきたいと思っているところでございます。

3点目は、学力向上ミーティングであります。学力向上を目指して、各学校の管理職、学力向上担当が集まり、学力の現状と今後の対策について協議を行ってまいりました。その結果、町内学校一斉に、各学校の実態に応じた学力向上への分析に対する補充や、授業改善に取り組んでまいったところであります。

これらの取組を通して学力について申し上げますと、令和3年12月に実施しました町学力テ

ストでは、経年比較により、コロナ禍前の令和元年12月と比較しますと、小学校3年生以上で国語と算数で向上をしており、中学1年生が国語・数学・社会・理科、4教科の中の3教科、中学2年生におきましては同様に3教科が向上をしております。また、中学3年生はテスト時期が5月であったために令和2年度の比較となりますが、4教科中の3教科が向上をしております。現在、この分析結果を基に、今年度の復習や補充、併せて授業改善に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

[降壇]

○1番（陣圭介君）

陽性判定の検査については理解しました。

次に、陽性判定者への対応についてなのですが、私、個人的に、2月初旬に職場感染された方の支援に入ったのですが、その方はPCR検査を受けまして一旦陰性が確認されたものの、検査の3日後に発症して抗原検査、PCR検査ともに陽性となり、保健所の管理下に入りました。宮崎市の場合は、入院を要しない場合、保健所から行動制限等について電話で指示があつて、生活必需品については置き配で対応しているとのことですが、陽性判定者に対するこれらの対応について、小林保健所管内における対応について説明をお願いします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

お答えいたします。

宮崎県におきましては、自宅療養されている方が希望する場合は、自宅療養期間中、約10日分でございますけれども、食料や生活用品の支援が行われているようでございます。

具体的な支援の申込みについて、方法でございますが、管内の保健所から、高原町で申し上げますと小林保健所から、療養方法について自宅療養というような連絡があつた場合に、保健所のほうが食料支援希望の確認の有無を取られているようでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

分かりました。

次に、濃厚接触またはその可能性がある方への対応についてなのですが、感染が確認された方と濃厚接触した方、またはその可能性がある方について、陽性判定検査の実施の現状についてお伺いしたいと思います。

濃厚接触の疑いにより、保健所から仕事を休むように指示されたものの、陽性判定の検査の実施が四、五日遅れてからであったとの現状を本町内の方からお聞きいたしました。

さきの宮崎市の知り合いについても、家族の検査実施は5日後であったと聞きました。

行動制限が課されているものの、検査実施がこれほど遅い理由について、分かる範囲で説明を

お願いいたします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

お答えいたします。

保健所のほうでは、新型コロナウイルス感染症というように診断された患者に対しまして、さらなる感染拡大防止のため、積極的疫学調査、いわゆる患者への行動歴等の聞き取りを行うわけでございますけれども、濃厚接触者の検査の実施時期につきましては、接触状況、発症の有無、感染拡大の可能性などから、その実施時期を検討いたしまして、適切な時期に検査を実施していると伺っているところでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

宮崎市の例ですと、私の知り合いが感染したというのが判明して、もう明らかに家族が濃厚接触していることが分かっているにもかかわらず、四、五日遅れてのPCR検査だと伺ったのですけれども、それでも適切と言える理由がはっきり分からないのですけれども、保健所の判断でしょうから、なかなかほほえみ館に聞いても分からないとは思うのですけれども、そういった実態があるところは理解していただきたいと思います。

次の質問に移ります。

宮崎市の例においては、濃厚接触の可能性のある方々の生活必需品については置き配等の対応はないと。買物客が少ない時間帯に自ら調達に出るように保健所から指示されたとのことでした。

濃厚接触の疑いがあるにもかかわらず、あるので、行動制限がある程度、一定程度は課されているにもかかわらず、それに矛盾する指示だと考えるのですけれども、小林保健所管内での対応について、分かる範囲で説明をお願いします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

お答えいたします。

小林保健所においても、宮崎市と同様、濃厚接触者の可能性がある方への生活必需品の置き配の対応がなされていないところでございますが、健康観察自宅療養期間中の過ごし方については、不要不急の外出はできるだけ控えていただくよう、そして、やむを得ず外出する際には公共機関等の利用は避けるようお願いしているとお聞きしております。

また、外出時におきましては、必ずマスクの着用と手指衛生の徹底をお願いするという感染予防対策を指導されているとお聞きしておるところでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

感染症予防対策を講じるのは当たり前の話なのですが、そういった濃厚接触の可能性のある方々に対して、外出については保健所から行動制限が一定程度課されているので、外出については消極的であることが想像されます。そうすると、交通機関の利用については制限が課されているわけですから、当面の生活必需品の調達に困窮する可能性があります。町独自にそういった方々に対する置き配とか買物支援など検討できないか、答弁をお願いいたします。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者及び濃厚接触の可能性のある方々については、県より情報提供がされておらず、その方々を特定することは困難である状況でございます。

なお、濃厚接触者についての人数は情報提供がありますが、その提供についても数日後に連絡があつたりするような状況となっております。

このようなことから、誰が濃厚接触者であるかの情報が町にはありませんので、町独自に置き配または買物支援等についての実施を検討したくてもできない状況でございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

内情は分かりましたけれども、県に対するそういった内容の声かけというのもできないものでしょうか。

○町長（高妻経信君）

私のほうからお答えさせていただきます。

確かに濃厚接触が疑われると、それで保健所から連絡があると。当然、今、陣議員の御質問にありましたように、その当事者の方も外出を控えるだろうと。そうなりますと、生活必需品を含め、買物等、お困りになるであろうということは十分考えられます。この件につきまして、県とのウェブ会議等がございますけど、このことがまだ話題になったことはございませんので、町のほうでも機会があればそういったことを県のほうに要望してみたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

○1番（陣圭介君）

ありがとうございます。

それでは、次の質問なのですが、町内の方から相談を受けた内容です。感染者に濃厚接触した疑いがあるとのことで、その方は保健所の指示で5日間仕事を休めということで、その間の収入がなくて困っているとのことでありました。

感染された方の休業期間中の所得については、国をはじめ、国保等にも各種の救済策が規定されています。しかしながら、濃厚接触の可能性のある方々については、さきに述べたように、

行政の権限で強制的に休業を指示されているにもかかわらず、職場から休業を命じられ、その間の所得補償がされない限り、公的にも所得に関する救済策は一切ないのですが、感染症対策の交付金を活用する等によって救済策を検討できないかについて、答弁をお願いいたします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

議員からありましたとおり、感染者につきましては、本人の加入している健康保険制度から傷病手当金が支給されることになっているようです。

一方、事業主が労働者に支払った休業手当等への一部を事業主に助成する雇用調整助成金や労働者に対する支援として、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金などの国の保障制度が確立されており、対象事業主や労働者からの申請・受付が既に開始されております。

ただいま例示いたしました2つの制度は、どちらも濃厚接触者も対象となっております。厚生労働省のホームページに申請手続等が掲載されておりますので、御確認いただければと存じます。

なお、町といたしましては、まずは国の支援金等の利活用をお願いさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

相談があった方には、その旨お答えしたいと思います。

続きまして、今度は感染拡大防止及び災害対応備蓄の啓発関連に移ります。

宮崎市の知り合いの例においては、日常的にマスクを着用しない方が職場にいらして、その方が発症する以前の潜伏期間に一度だけ、ごく短時間、50センチメートルほどの距離で会話したことによりうつされたとのことでありました。

このように、感染者が症状を自覚していなくとも、潜伏している場合には他人に感染させる可能性もあることが分かります。引き続き、日常的にうがい、手洗い、消毒等の感染予防対策に努めるとともに、人と接する際にはマスクの着用が望まれるところであります。

町内にもマスクを着用せずに他人と接する方が散見されますけれども、改めて感染拡大防止の啓発が必要ではないかと考えますが、見解をお伺いしたいと思います。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

お答えいたします。

陣議員がおっしゃいますように、感染症の発生をさらに抑えるためには、一人一人が最新の知識を身につけて、正しく対策を取ることが何よりも重要であると考えているところでございます。

そのようなことから、基本的な感染対策として3つの密、これを避けること、そして、室内の換気を適宜取ること、さらには、質問にもございましたマスク着用につきまして、適切に着用することが有効であることから、今後、区長会回覧、広報紙、そしてホームページ、LINE等を活用いたしまして啓発、広報のほうをしてまいりたいと考えておるところでございます。以上でございます。

○1番（陣圭介君）

これは、ある町民の方からお伺いした話なのですが、対外的な業務を抱えている一部の職員が、日頃から庁舎内でマスクを着用していなかったり、マスクを顎にかけた状態で他人と接することがあるという話を耳にしたのですが、どのようにお考えになりますか。

○町長（高妻経信君）

私のほうからお答えさせていただきます。

そういった事案があったということは私も聞いておりまして、私もそういった職員を見かけたときに注意をしたことがございます。これ、やはり無意識のうちにそういう状況にその職員がなっているのか、あると思いますけれども、やはり町のほうからも町民にこの感染防止を訴えているわけですので、一層この職員、それぞれの感染防止対策、一層徹底をしてまいるように考えております。よろしく願いいたします。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

もう職員さんが特定されている方から観察されているみたいなので、その点、ちょっと注意をお願いします。

次に移ります。

十分な感染拡大防止措置を図っていても、日常生活を送る上で、ウイルスの侵入を完全に防止することは不可能であると考えております。しかしながら、クラスターが発生した施設に対して、例えば、繰り返し抗議の電話があるなどとの話を耳にいたしました。このような心ない行動を抑止できるよう周知を図っていただきたいと考えますが、お考えについて答弁をお願いいたします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

お答えいたします。

感染された方やその家族、そしてまた、医療、介護の関係者に対します不当な差別や偏見、そして、いじめ等は決して許されるものではないと認識しているところでございます。

これまでも、人権の配慮につきまして広報等で啓発してまいりましたが、なかなか、正しい情報に基づいて人権意識を持って冷静に行動をしていただけるよう、また今後も継続して広報の

ほうをやっていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

ウイルス感染または濃厚接触の可能性等により保健所の管理下に置かれますと、ずっと述べてきたように、買物などであっても日常生活が制限されてしまいます。そういった場合に、備蓄品がないと食事等にも困窮する場合が想定されるわけですが、感染症を一つの災害と捉え、各家庭において3日分程度の食材等の備蓄に努めていただくと、いざというときにも対応できます。啓発をお願いしたいと考えますけれども、見解をお伺いしたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者等につきましては、日常生活が制限され、外出等も自由にできない状況となります。町では、令和4年2月号、3月号の広報たかはるにおきまして、災害備蓄についての啓発を行っておりますが、今後、様々な機会を通して、災害備蓄の啓発を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

以上で、感染症対策についての質問を終わります。

続きまして、ハラスメント対策についてですが、役場庁舎内、また、病院も含めてなのですが、要綱を整備して相談窓口も設置したということなのですが、稼働状況についていかがですか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

現在、要綱設置した後に1件の事案がございまして、聞き取り等を行っているところでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

この窓口設置の話については、全職員に対して周知は図られていますか。

○総務課長（内村秀次君）

町長の答弁にありましたとおり、令和3年10月に要綱を設置しておりまして、その後、全職員を対象にした研修会も実施しております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

分かりました。そういったハラスメントの事案が発生した場合に、当事者双方からの聞き取りの手法について、現状の説明をお願いいたします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

聞き取りの手法につきましては、相談担当者が当事者双方及び関係する周囲の職員から聞き取りをする際、事前の説明といたしまして、真実を述べるように促しております。また、虚偽の発言をすれば、当然、懲戒処分等の可能性があることを説明いたしております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

パワーハラスメントの事実確認の過程において、加害側の当事者が自ら周囲の職員を巻き込んで組織ぐるみで証言を偽る場合、考えたくないのですが、そういった場合が想定し得るわけですが、事実認定の聞き取りの手法について、公平性、どのように担保しているかについて答弁をお願いします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

組織ぐるみで証言を偽る場合は、当然想定されるものでありまして、対策といたしましては、できるだけ多くの職員からの聞き取り調査を行う必要があると考えております。調査の際には、職員間同士の証言につじつまの合わない矛盾点がないかなどの確認を行い、業務上報告書あるいは通信記録等を照合するなど、細心の注意を払いまして事実確認を行う必要があるものと認識しております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

今度は現状についてお伺いしますが、そういった事実確認の過程において、総務課または副町長が主体的に調査を行わず、まず、一旦当事者が所属している課内で確認作業を処理させているような現状はないでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

所属している課内だけで確認作業をさせている事実はありません。病院におきましても、要綱上は看護総師長と事務長が相談窓口となっておりますが、実際には総務課職員も関わっている状況でございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

先ほど一部答弁いただいたのですが、そういったハラスメントの当事者のみならず、そういう調査を実施するその他の対象者がハラスメントの証拠を隠滅、偽造、また変造したり、口頭での証言を偽った場合については、間接的にハラスメントに加担していることになりまけれども、そういった行為を行った職員について処分の対象となり得るかについて答弁をお願いします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

事実確認等の調査におきまして、当事者以外のその他の対象者が証拠を隠滅、偽造または変造、口頭での証言を偽った場合には、本町の懲戒処分に係る基準により処分の対象となるものでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

あつてはならない話ですけれども、これを組織ぐるみで事実を隠し切った場合に、ハラスメント自体の事実確認は不可能であるし、公文書の偽造も不可能ではないと考えますけれども。どのような見解でしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

組織ぐるみの隠蔽はあつてはならないものと考えております。全ての職員は全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、法令、条例、規則、規程に従う義務が大原則であることを職員へ周知徹底し、公務員倫理の環境を行っていくことが重要であると考えております。

議員御指摘の組織ぐるみで事実を隠すことはあつてはならないものであり、事実確認等の調査に際しては、虚偽のほころびを見逃すことのないように細心の注意を払って調査に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

分かりました。

次に、過去に文書管理規程の改定について質問したことがありますけれども、対峙する相手方がいる場合に、ハラスメントの案件もそうなのですが、そういった、私は、ある職員が自らに不利に働かないように都合のよい表現で、公文書を作成したというあるまじき事実を実際に目にしたのであまり信用していないのですが、そういったことを可能性として否定できないと考えていまして、だから、ハラスメントに係る当事者双方からの聞き取りも、一方が、大体加害者側が強くなりがちだと思うのですが、そういったことを配慮しながら双方の間

き取りができていないかについて、私は疑念を感じています。

ハラスメントに関し、こういった一部のこの主観の入った、偏った公文書作成が行われている疑いは一切ないと言い切れますか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

ハラスメントに対し、自らに不利に働かないよう都合のよい文書作成はあってはならないことでもあります。それらをチェックするためにも、周りの職員からの聞き取り調査や、客観的な事実を収集することは大変重要な作業であります。この調査結果と作成されました文書との整合性を慎重に行う必要があるものと考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

パワーハラスメントが疑われる事案を把握した場合に、直属の管理職についてはどのような対応を取るべきでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

ハラスメント防止に関する要綱第3条に、所属長の責務が規定されておりまして、「ハラスメントに起因する問題が生じた場合には、迅速かつ適切に必要な措置を講じなければならない」となっておりますので、まず、総務課長等への報告が必要でございます。把握しました事案につきましては、必要な措置が講じられております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

今、相談窓口も含めて、その管理職が直接パワーハラスメントの加害側の当事者である場合の対応はどういう対応でしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

管理職がパワーハラスメントの加害者当事者である場合は、地方自治法及び高原町行政組織規則にのっとり、副町長及び総務課長において必要な措置を講じなければならないと考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

過去の質問でも、衛生委員会の稼働について、私、聞いたことがあるのですがけれども、今、話を聞いていると、直接総務課が全て負ったりとか、副町長に直接話が行ったりとかいった内容

になっていて、衛生委員会について一切触れられていないのですけども、どのような考えで
しょうか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

ハラスメントにつきましては、要綱を設置しましたので、その要綱に基づいて実施している
ところでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

ハラスメント関連の処理というのは、衛生委員会の職務ではありませんか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

ハラスメントにつきましても、段階があると思うのですよね。実際どのようなレベルのもの
あるかとか、それに応じての使い分けが必要かと思えますけども、実際にそういった情報等が
寄せられた場合には、要綱に基づいて、まずは総務課のほうで動くということで進めておりま
す。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

要綱の中には、衛生委員会、どのように規定されているのでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

要綱の中では、衛生委員会の記載はないところでございます。

○1番（陣圭介君）

記載がないのはなぜですか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

昨年10月に設置した要綱につきましては、ハラスメント防止に関する要綱でございます。こ
れを作成する際にも、他の自治体の同様の要綱の研究をさせていただいて設置したものでござ
いまして、参考にさせていただいたものの中に、そのようなものがなかったということで、現
在の要綱の中には、ないということでございます。

○1番（陣圭介君）

衛生委員会の職務として、そのハラスメント対応の業務があるのであれば、要綱にはもちろん
明記すべきであるし、そうでないなら書かなくてもいいわけなのですけれども、どうもその何

らかの事案が生じた場合に、総務課がその各職員に対する対応であるとか、例えば争いが起こった場合の対応であるとか、全てを一つの部署で対応せざるを得ない状況が生まれてくると思うので、そうすると、各その担当職員が、相反する業務を一人で抱えていることになる、非常にやりにくいと思うのですよね。

だから、例えばその外部の委員会なりの設置があるのであれば、そっちに業務を分担するなどしないと、総務課で一気に受けると、どちらも中途半端になるというか、かえってそのハラスメントの当事者に対して、不利益を及ぼすような気がしてならないという話をヒアリングの際にもしたのですけれども。その辺りをもう一度整理して、必要な要綱の内容に変えていただきたいなと感じております。

そういった今までの現状がそうだったからということで、いろんな方々から苦情も私は受けているので、できるだけ誰に対しても公平な、加害者側と言われている方にも、被害者側と言われている方にも公平性が担保できるような組織にしないと、私は駄目じゃないかなと思うので、検討をお願いします。

続きまして、副町長の関与について説明をいただきたいと思います。

実際にパワーハラスメントの被害に遭っている職員は、職場での環境を報復があることを恐れるあまり、実態を誰にも報告できずに、ひたすらハラスメントに耐えているというような現状もあるかと考えます。

こういった実態は、できるなら副町長が直接把握できるような体制、誰かしらのその働きかけが生じないで、副町長が直接把握できるような体制を作っていただきたいと考えております。

例えば、職員の所属部署だけを特定するような形で、無記名のアンケート調査を実施することが考えられます。

調査対象は、外郭団体も含む全職員とすればよいかと思います。

手法については、先日のヒアリングの際、直接、副町長にもお伝えしましたがけれども、副町長のお考えについて答弁をお願いします。

○副町長（横山安博君）

ただいま御質問を受けたところでございますけれども、私の職務につきましては、単に町長の補佐だけでなく、いわゆる職員を指揮監督するという立場ということで認識をいたしております。

そういった中で、やはり職場環境の保持といたしまして、快適な職場環境をつくるということが一つの任務であると思っております。

ただいま議員より提案がございましたけれども、やはりこのハラスメントにつきましては、あってはならない、そのように思っておりますし、この防止につきましては、先ほど町長のほ

うからございました、昨年10月に設置しましたこの要綱、これに基づいて基本的には進めていくのだらうと思います。

しかしながら、ただいま申されましたように、直接この私の権限で実態を把握するということにつきましては、それも必要であらうと思っています。

厚生労働省が出しておりますアンケート、いわゆる職場環境実態調査といいたいでしょうか、こういった実施マニュアルもございますので、そういったものを参考にしながら実施に向けて検討してまいりたいと考えているところでございます。

○1番（陣圭介君）

アンケートに回答いただく職員に対しては、何らペナルティーを課されることもなく、正直にありのまま、事実のみを書いていただけるような配慮をお願いしたいと思っています。よろしくお願ひします。

それから、1点、意見なのですけれども、議会でこういう質問をしたことをきっかけに、おもしろがって、私とか、ほかの議員のことを書く職員が出てくることも想定されますけれども、その点は御了承ください。きっと出てくると思っていますので。

次の質問に移ります。

職場での上司の言動について、日頃から表現や口調等に問題がある場合に、部下への指導の度合いによっては、パワーハラスメントと受け取られる場合があると考えますけれども、そのようなケースについては、どのように判断すべきでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

パワーハラスメントの判断基準は、3つございまして、まず1つ目ですが、優越的な関係を背景とした言動である。2つ目、業務上、必要かつ相当な範囲を超えたものによるもの。3つ目、労働者の就業環境が害されるものでございまして、これらの要素を全て満たすものが該当するというふうに考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

感覚的にその要素を、被害を受けたという方が立証するのがなかなか難しいところがあるとは思うのですよ。結局、その度合いというのを推し量ることというのは、当事者にしか分からないようなところがあるので、なかなかこの認定というのも難しいところがあるように考えますけれども、まあ、分かりました。

続きまして、パワーハラスメントを受けたと認識している当事者についてですが、相談に先立って、そういったハラスメントに起因した休暇の取得などがある場合に、事実認定の前提と

しての当局から本人への聞き取りというのは、行われるのでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

パワーハラスメントが原因で、休職した職員がいると判明した場合は、原則として、休職者本人への聞き取りが行われます。

なお、休職者本人から文書で意見が述べられている場合には、これをもって休職者からの聞き取りに替えることがあります。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

分かりました。当該当事者が長期休暇を取得し、それがパワーハラスメントに起因するとふう医師から診断を受けた場合の対応についてお伺いします。

例えば、精神的な病気療養を要すると診断されている場合においても、当事者に不利益とならないような対応が行われているのかについて答弁をお願いいたします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

現在、係争中の案件もあるため、答弁は差し控えさせていただきます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

一般論としてです。不利益とならないような取扱いになるべきであって、そうしますと言えば済む話だと思うのですが、答弁を差し控えるということなので、これ以上聞きませんが、そういった今、話がありましたけれども、パワーハラスメントに起因して当事者間に争いがある場合に、間に代理人を入れて協議を諮るということが考えられますけれども、当事者のいずれかの代理人が、争いが生じる以前に、本来であれば、両者間の調整を図るべき代理人と同一になってしまうと、どちらかに偏った判断が最初からされることになるのではないかと感じるので、例えば、本来であればその当事者間の両者の調整を図るべきなのは、本町の顧問弁護士が考えられるわけですが、そういった方がこう争いが起こった場合に、いずれか加害者側、または被害者側の代理人となるようなことになると、その争い自体もどちらかに偏った判断しかされないということになって、公平性に疑問が生じるのですけれども、その間、その辺りの考え方についてどう整理されていますか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

現在、本町の要綱の中では、外部の機関は活用しておりませんので、今の質問のような現状は

ないかと思っております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

ハラスメントの事案が生じた場合に、例えば、顧問弁護士に相談するような場合というのは想定されないということですか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

案件によっては、顧問弁護士がおりますので、相談はあるかと思えます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

私、何でもこういうことを聞いているかというところ、そういった現状があるとすれば、争いが生じた場合のその公平性の担保がまだ不十分じゃないかなというところを感じ取ったので、今回質問しているのですけれども、内容をしっかりと吟味して下さい。

それから、続きの質問に移りますけれども、これは意見なのですが、過去には命に関わる重大な病気を抱えながらも、通院や治療を理由とした休暇の取得を上司から許可されずに、結果として病気が悪化した事例もあったと耳にいたしました。

この事例においては、早いうちに実態把握がされずに、本人が泣き寝入りすることになったと聞いております。

正当な理由がある場合に、職場の業務調整を行うのは、上司の仕事であって、休暇を取得する職員に責任を負わせるべきではないし、自ら管理を預かる部署の業務調整ができない管理職がいるとすれば、その方は管理職に就くべきではないと私は考えます。

その点、人事権を預かる方々には、ぜひ御認識いただきたく、そのように指導いただきたく考えます。

以上で、パワーハラスメント関連の質問を終わります。

続きまして、セクシャルハラスメント管理に移りますが、セクシャルハラスメントの防止等については、規則が制定されておりますけれども、規則第4条及び第8条の遵守について、現状、適切であるかについてお答えいただきたく思います。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

現在、規則に基づいて苦情処理等を行っておりますので、規則に基づいた対応をさせていただいております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

セクシャルハラスメントを受けたと認識している当事者について、相談に先立ってハラスメントに起因した休暇の取得がある場合に、先ほどと同様になりますけれども、当局から本人への聞き取りというのは、行われるのでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

セクシャルハラスメントが原因で休暇を取得した職員がいると判明した場合は、原則として休職者本人の聞き取りが行われます。

なお、休暇取得をした本人から文書で意見が述べられている場合には、これをもって休職取得者からの聞き取りに替えることができます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

そのほか、パワーハラスメントに関する質問と同様になりますけれども、当局の取扱いとしては、大体同様となるのでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

原則として対応につきましては、パワーハラスメントと同様であると考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

終わりになるのですが、これ実際に私が目にした事例をちょっと述べたいと思います。

飲酒している状態の男性職員が、嫌がられているにもかかわらず、数回にわたって自分の部下に当たる女性職員の体に触れているという行為は、セクシャルハラスメントに当たりますか。

○町長（高妻経信君）

私のほうからお答えします。

今の議員のほうから、今、質問にありましたけれども、それが高原町職員の件で質問されたのかわかりませんが、そういった事実はこちらでは確認をしておりませんし、この場で判断できるものではございませんので、回答はできないと御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

仮にその被害を受けた方から、そういった事実の相談を受けた場合には、当然その事実認定に入ると考えられるのですが、飲酒しているということが理由に覚えていない話というのは、日常的な民間の事案においても、よくありがちな話なのですけれども、そういった事例って、許

されるものでしょうかね。

○町長（高妻経信君）

先ほど申し上げましたように、そういったどういうケースであったのか、この場では、その内容につきましても、こちらでは質問の内容を把握できませんので、お答えはできないということと御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

そういったケースがある場合には、その職員の方に直接しかるべき手続を踏むように周知したいと思います。

続きまして、以上でハラスメント関連について終わります。

それから、放課後児童健全育成事業についてですけれども、現状、令和4年度に新規事業で、町の直営で実施するという事だろうとは思うのですけれども、それによって待機児童の解消につながるのでしょうか。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

現時点での令和4年度の状況でございますが、134名の利用希望者がございます。そのうち、127名の方が入会を承認する予定でございます。結果、現時点で7名の待機児童が生じている状況となっております。

この7名の待機児童につきましては、4年生以上の児童となっております。

質問の内容でございますが、令和4年度におきまして、直営で高原小学校におきまして放課後児童クラブを開設する予定としておりまして、この方々がその利用、ここの高原小学校の新たな放課後児童クラブを利用したいということであれば、解消するものと思われま。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

本町の直営の事業でやると思うのですけれども、もうずっと永続的に直営でやる方針でしょうか。それともどこかに委託に出すという考えはないのかについて、説明をお願いします。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

当初、4月からは直営ということで考えておりまして、現在、支援員等の募集も行っているところでございます。

また、民間団体につきましては、これまで、いわゆる宮崎市内で、放課後児童クラブを運営しております団体と接触をしております。

そういったところからは、委託状況に関しましていろいろ情報を取り入れているところがございます。状況としては、当面直営ではあるのですが、その支援員の確保とかそういった問題もございます。そういったものを加味して、今後検討していくものと思われま。以上でございます。

○1番（陣圭介君）

私は聞いていなかったのですが、公立の保育所での事業の実施について、どういう考え方なんでしょうか。公立の保育所でのその自主事業になると思うのですが、児童クラブについて検討されていたかと思うのですが、その後の進捗についてお伺いしたいのですか。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

現在、高原町社会福祉協議会のほうで、後川内保育園におきまして、自主事業といたしまして、児童の見守り事業として実施をさせていただいております。

これが現在伺っているところ、広原保育所でも令和4年度から、そのような見守り事業を自主的にやっていくことを伺っております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

ちょっと1点、疑問なのは、今おっしゃった134名の希望者に対して、127名、入会できるという話だったので、その人数というのは、新規に社会福祉協議会のほうで実施していただく人数も含めた人数ということでしょうか。それとも除外した人数ということでしょうか。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えします。

除外した人数でございます。

以上です。

○1番（陣圭介君）

どうして除外するのか分からないのですが、事業実施が見込めないという意味ですか。社会福祉協議会のほうでの事業実施が見込めないから除外したというのか、もし事業実施がはっきり確定できるのであれば、その残り7名の待機児童は、その時点で解消できると思うのですが。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前10時11分 休憩

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、一般質問を続行いたします。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

社会福祉協議会で実施しております自主事業につきましては、それぞれ後川内保育所につきましては後川内小学校、広原保育所につきましては広原小学校と限定的な事業となっておりますことから、7名の解消にはつながらないと思われま

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

社会福祉協議会のほうでやっていた見守り活動と、放課後児童健全育成事業との違いは、どのあたりなのですか。要は、本市としては、こういった事業をやるのは、結局、放課後に家に帰らずに学校なりそういった施設で子供を見守っていただいて、保護者さんが仕事に出やすい環境をつくるというところがまず原点にあると思うので、放課後児童健全育成事業であろうが、社会福祉協議会がやる見守り活動であろうが、内容は大体一緒だと思うのです。それを区別する理由というのがはっきり分からないので、その事業の違いについて説明頂けませんか。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

社会福祉協議会で実施されている見守り事業につきましては、あくまでも町が委託するものではなくて、社会福祉協議会独自の自主事業でございますことから、そういった観点で趣旨が違っているものと思われま

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

放課後児童健全育成事業に限らず、そういった各社会福祉協議会で自主事業としてやっているそういった見守り活動に入っていただくということで、待機児童をある程度解消されるだろうと当初の話を私思っていたのですけれど、なかなか理解できなかったみたいで、それは私の表現の仕方が悪かったので申し訳ないのですけれども。そういった案内はできないのですか。そうすると、待機児童を解消すると思うのですけれど。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

社会福祉協議会が行っております自主事業につきましては、あくまでも自主事業でございます。職員の対応が限られていることから勘案しまして、見守りをさせていただく事業数が限られておりますので、なかなか待機児童の解消にはつながっていないものと考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

引き続き、できるだけ私、ぜいたくを言うと、コスト面で有利なやり方を取っていただいて、待機児童が極力出ないような手法というのを選んでいただきたいと思いますので、今後御配慮ください。

以上で、放課後児童健全育成事業について質問を終わります。

最後ですが、児童生徒の学力分析について、しかるべき対応をされているという答弁だったので理解しました。

続きまして、県立高校の推薦入試制度の改定による影響について質問いたします。

本県の県立高校の推薦入試において、従来の学校推薦方式が令和4年度、先日あったのですが、令和4年度から自己推薦方式に変更となりました。県内の他の自治体においては、従来、高校1校当たりの推薦人数を事実上限定的に捉える中学校が多数を占めていた一方、本町においては、できるだけ本人の希望に沿って学校推薦してきたこともあって、毎年多数の推薦方式の合格内定者が出ておりました。

令和4年度の推薦入試制度改定による合格内定者数への影響について、説明をお願いします。

○教育長（西田次良君）

お答えいたします。

今回の県立高校推薦入学者選抜における制度改革のポイントは、中学校長の推薦が不要となりました。生徒が希望すれば、誰でも出願できる自己推薦型となったことでございます。

町内中学校の推薦入試におきましては、昨年度まで、各学校の推薦要件をもって学校推薦を行っており、その年度の生徒の希望や様々な生徒の状況等で異なり、学校推薦の人数につきましては、年ごとに増減がございました。昨年度につきましては、学校推薦の数が多く、内定者数もその分多い結果となっておりますが、それ以前と比較いたしますと、今年度はほぼ同等の結果となっております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

ちょっと数字で示されていないのでよく分からないのですが、従来から他の自治体とは異なる考え方で、本町においては学校推薦を実施してきたと思うのですが、要するに、あまり基準を満たせば人数としては限定的に取らない考え方でやってきたので、前の教育長のと

きにもお話したのですけれども、ほかの自治体の中学校に比べて推薦する人数が多過ぎるということで、不公平じゃないかという声が大分上がっていたという話をしたことがあるのですけれども、そういった従来、他の自治体と異なる考え方で学校推薦を実施してきたことが、この制度改定で逆に裏目に出ていないか懸念を持っていたのですが、どうもそれはないようなので安心しました。

続きまして、次の質問に移りますが、推薦入試においては、受験科目がおおむね大体2科目なのですけれども、従来、本町の学校推薦においては、5科目を総合的に得点できる生徒とできない生徒と、両者を対比して後者のほうを優先し、前者に推薦希望を出さないように学校から促していたという話を生徒本人から私は耳にしました。そういう実情があったということです。そういった学校側の、さらに言えば、特定の教職員の主観に基づく偏った推薦者選定から脱却する可能性があるという意味で、今回の制度改定は、私は大いなる前進であると考えますけれども。しかしながら、本年は制度改定の初年度であったことから、その影響について受験生及び保護者からの不安の声が非常に大きかったのですけれども。学校現場で制度改定についてどのような説明がされたのかについて、説明をお願いします。

○教育長（西田次良君）

お答えいたします。

今年は生徒、保護者ともに、まず、あらかじめ推薦制度についての県教育委員会からの資料を配布いたしております。保護者には、その後、高校入試説明会、三者面談等で説明をし、さらに生徒には学級活動、総合的な学習の時間、朝の会などを利用して説明や指導がなされております。

高校入試説明会におきましては、詳細な資料を作成して入試制度についての説明のみならず、手続や書類作成、自己推薦書の書き方などの説明が実施されております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

そういった保護者や生徒に対する説明の際に、町立の学校として、従来と比較した場合に、制度改定されているので、推薦に当たっての方針の違い、学校側としての考え方の違いなど、十分に説明すべきであると思うのですけれども。そういった説明はされたのか否かについて、答弁をお願いします。

○教育長（西田次良君）

お答えいたします。

まず、従来から他の自治体と異なる考え方という御指摘でございますが、あくまでも各学校で推薦要件をもって学校推薦を行っておりますので、自治体の考え方ではないということを御理

解頂きたいと思います。

その上で、今年度につきましては、説明内容につきましては、まず、推薦入試制度が大きく変わること。それから、自分の意思で学校を選び、学力に加えて個性を生かした受験をしやすいするために、これまで中学校長の推薦を必要とするものから、それをしない自己推薦に改善されたということ。したがって、希望すれば全員が受験できると説明をいたしております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

最後の質問になるのですが、制度改定前と比較すると、当然、自己推薦になるわけで、新聞などを見ても希望者が多かったことは、もう容易に分かるわけで、当たり前のお話なんですけども。そうすると、当然、合格内定がかなわない生徒の人数が増加することが、事前に予想できるわけですけども。そういったこともありますよという進路指導の内容について、十分に説明があったのか。あったのであれば、従来と比べてどのように変化したのかについて、説明をお願いします。

○教育長（西田次良君）

お答えいたします。

今回の制度改革で、中学校長の推薦が不要になり、先ほど議員からもありましたが、生徒が希望すれば誰でも出願できる自己推薦型になったということで、出願者が増加し、その結果、内定をもらえない生徒が増加することは、生徒、保護者にも周知をいたしております。そのような中で、本人の希望や適正、あるいは目的意識に合致した志望校を選択しまして、その後、内定に向けて学習指導や面接指導を行っております。

また、特に今年度につきましては、自己推薦書の作成につきましては、特に事前指導を割いたという報告を受けております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

最後、意見述べて終わるんですけども。内定がかなわない子たちの考え方なんですけども。従来の推薦方式だと、大体もう合格をする子が多数を占めていたわけで、それが今回の制度改定でかなわない生徒というのが増えたわけです。そうすると、子供たち一人一人の心理的な負担というのが大きいと、内定をもらえなかったという負担。それに対する心理的なケアであるとか、こういう制度の下で内定をもらえないかもしれないよとそういう想定の下で自己推薦でもチャレンジするのだというような指導というのを適切にやるべきだと思うのです。そういったところを、声をちゃんと学校のほうに伝えていただいて、そういった心理面での負担というのが軽減できるような教育がなされることを希望して、私の一般質問を終わります。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

10分ほど休憩したいと思います。

午前10時26分 休憩

午前10時37分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、一般質問を続行いたします。

次に、6番、福澤卓志議員。

○6番（福澤卓志君）

[登壇]

通告に従い、大きく5つの内容で質問します。

住民サービスについて。

庁舎入り口にあった公衆電話撤去によりお困りの町民がおりますが、現在の対応とタクシー直通電話の設置の考えがあるか伺います。

防災行政無線の重要性を再三訴えてまいりましたが、今回は他の自治体のように防災行政無線で発信された情報を専用フリーダイヤルやメール、ホームページなどで確認できるような考えがあるかを伺います。

3回目の接種券発送について、壇上からは3月9日現在の接種券発送の現状と2月26日、27日に本町で実施された集団接種の状況を伺います。

教育行政では、小中学校で学級・学年閉鎖になったときの状況と、児童生徒に対する学習支援やケア、保護者対応について伺います。

また、ボランティア更新の案内を頂きました。現在登録されている約180名に対し、コロナ禍でも活動に協力していただけるような工夫や情報発信、ボランティア内容の見直しなど、現在の対応について伺います。

部活動やスポーツ少年団などのクラブ活動について、これまで幾度目かの自粛、または活動停止要請などお願いしたかと思いますが、本町におけるガイドラインにのっとり要請を行ったかを伺います。

総合政策行政では、本町のホームページについて、令和2年6月に質問したときよりも改善が図られているものの、内容の充実までに至っていない印象にあり、リンク切れも散見されるなど、更新、さらなる改善の余地があるものとして、再度質問します。

町報の「町民の声」については、数名の町民から、匿名ではいけないのか。いろいろ言いたいことがあるけれど、町報を切り抜いて送るのは手間がかかる。聞きたいことがあるならば、直

接聞いてほしいなどの声を伺いましたが、町報による「町民の声」は届いていますでしょうか。町民等への特別表彰については、活躍されている方々に注目が集まることは大いにすばらしいことではありますが、本町のために見えないところで御尽力を頂いている方々や、景観維持などに努められている方、御長寿動物や作品など。本町のすばらしい方々にも表彰の機会が得られないか伺います。

着手を始めた高原町定住促進住宅については、残り4棟を残し進んでおりません。町長の考えを伺います。

農林行政の森林環境譲与税の使途について、各自治体が取り組む環境保全、集積・集約化、林業従事者の育成や自治体間連携など、あらゆる手段で利用がされておりますが、本町でも環境保善に関する取組の強化や、長年林業に従事され、技術に秀でた町民から次世代への技術継承の機会創出が必要だと考えます。今年度の計画と工夫のポイントを伺います。

主要作物の現地調査では、本町ではピンクの用紙にて行われており、検査についても他の自治体と違って手間、暇、人件費がかかっているように見受けられます。小林のように合理化、簡素化する考えがないか伺います。

農業用水路や舗装など修繕等が必要な箇所に関し、個人や組合などで行う考えがある際、本町では資材等材料の支給をしていただけるか。手続なども含めて伺います。

環境行政の環境保善対策全般について、壇上からは、町内の不法投棄やごみのポイ捨て、ペットボトルや空き缶、またペットの排せつ物の問題に関する苦情や、情報提供などがあるか伺います。

また、ごみステーションの老朽化や掲示物の改善などについて伺い、前回は質問しましたが、未回収のごみがいまだに処理されずに残されているばかりか、いろいろな場所で散見される問題について、どのように考え、どう対処されたかを伺い、壇上の質問を終わります。

〔降壇〕

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

福澤議員からは、大きく5つの御質問をお受けしたところでございます。

初めに、住民サービスについてお答えいたします。

これまで庁舎入り口に設置してありました公衆電話の件でございますが、この公衆電話、月の利用が非常に少ないということで、月によっては利用料が50円というような月もあったようでございます。このようなことから、NTTとして、利用頻度が低い公衆電話の廃止の対象になったことで、この電話につきましても、令和3年5月24日に撤去されております。

この撤去に関しましては、NTTと本町との契約上、やむを得なかったと理解をいたしているところでございます。

現在の対応としましては、窓口等で公衆電話に関するお尋ねがあった場合、病院との間の駐車場内にありますけども、こちらのほうの電話ボックスを案内いたしているところでございます。また、タクシーの直通電話の設置につきましては、設置につきまして業者のほうに費用負担ということになっておりますし、町といたしましても今のところ設置の考えはございません。以上でございます。

続きまして、防災行政無線についての御質問でございます。

本町の防災行政無線に付随する情報伝達手段につきましては、屋外拡声器及び戸別受信機のみとなっております。

福澤議員から御提案いただきました専用フリーダイヤルにつきましては、現在のところ導入の予定はございません。

現在、防災無線で発信した防災情報等につきましては、同様にメール、ホームページで確認できるような仕組みになっております。

以上でございます。

次に、新型コロナウイルスワクチン接種に関します御質問でありましたけども、今3回目の接種状況でございますが、接種券の発送状況と集団接種の状況についてお答えいたします。

本町では、厚生労働省の令和4年2月18日付事務連絡における「追加接種の速やかな実施のための接種券の早期発行等について」に基づき、2回目の接種の完了から6か月が経過した方に、接種券の配布をいたしております。

直近の接種券発送は、3月1日に1,326人の方に発送いたしております、これまで合計で4,797人の方に発送済みでございます。

集団接種につきましては、2月26日土曜日、2月27日日曜日の2日間に行われまして、972人の接種枠を準備いたしておりましたが、最終的には858人の方が予約されまして、全員858人の方が3回目の接種を終えられております。

以上であります。

次に、総合政策行政につきましてでございますが、まず、ホームページについてお答えいたします。

令和2年6月議会におきまして、福澤議員から、シンプルで分かりやすいホームページを検討するよという内容の御質問を頂いたところでございました。

このことを受け、分かりやすいホームページになるように、他の自治体のホームページ等も参考に検討を重ね、今年度中にフロントページとトップページをリニューアルすることといたしております。

また、リンク切れ等につきましては、速やかに確認し、更新することとし、掲載内容につきま

しては、各課等に配置しております情報化推進担当者を中心に、充実した内容となるよう見直しを行い、分かりやすいホームページとなるよう更新してまいりたいと考えております。

以上でございます。

次の御質問は、「町民の声」についての御質問でありました。

「町民の声」につきましては、平成18年5月から募集を開始しており、町政に対する町民の御意見等をお聞きし、町政運営の参考とさせていただいているところでございます。

令和3年度は、広報たかはるに4月号、9月号、2月号の3回掲載しておりまして、延べ10名の方から御意見等を頂いております。

内容につきましては、プライバシーに関するものも含まれており、個人情報の保護の観点から詳細の説明は控えさせていただきますが、主に防災に関する事、あるいは新型コロナに関する事、そして生活の利便性に関する事、近況報告等が主な内容でございます。

頂いた御意見等は、内容を確認した上で、私の指示により、担当課が対応方針等を作成して、提言された方に対しまして回答をさせていただいているところであります。

以上でございます。

次に、特別表彰についてお答えいたします。

町では、5年に一度の節目ごとに、町制施行日である10月5日の町制施行記念式典におきまして表彰式を開催いたしております。

その式典の中で、町政発展に貢献された個人や、団体への功労者表彰を行っており、対象者については、様々な分野から、これまでの功績に照らし合わせて選定を行っております。

表彰の対象を、個人や団体以外に広げていく考えは、今のところございませんが、対象者の選定基準については、今回の福澤議員の御提案も参考に、より幅広く柔軟な視点で情報を収集し、できる限り多くの方々の功績や貢献に光を当てることができるよう検討をしてみたいと考えております。

以上でございます。

続きまして、高原町定住促進住宅についてお答えいたします。

広原定住促進住宅につきましては、令和3年9月議会の中で、福澤議員から御質問を頂いております。

その中で私のほうから申し上げましたとおり、昨年度、新築した2棟に対する応募数、入居希望が少なかったことや、入居に関する直接的な問合せ等も伺っていないこと。あるいは財源確保等、こういったものを含めまして、残り4棟の建設につきましては、当面の間は見合わせたいと考えているところでございます。

以上でございます。

次に、農林行政についてお答えいたします。

まず、森林環境譲与税の用途についてお答えいたします。

森林環境譲与税は、喫緊の課題である森林整備に対応するため、市町村や都道府県に令和元年度から譲与が開始をされており、市町村においては、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などの森林整備及びその促進に関する費用に充てることとされております。本町におきましては、まず手入れの行き届いていない森林の整備に着手することを目標に、森林管理システムの導入や意向調査に取り組んでまいりました。

本年度は、後川内地区で実施した意向調査の集計作業を行いました。この集計結果を基に、専門的知識を有する地域林政アドバイザーを雇用し、現地調査で経営の適否の判断等を行う計画でありましたが、アドバイザーの人材の確保が困難ということで、集計作業までとなったところでございます。

来年度は、森林整備に向けた集積計画の策定などを予定していることから、関係機関等にアドバイスを頂きながら、進めてまいりたいと考えております。

また、間伐などの森林整備以外の用途についても、来年度以降に検討会議を設置し、幅広く用途の検討を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

続きまして、飼料作物の現地調査の御質問にお答えいたします。

水田活用の直接支払交付金に係る飼料作物やWC S用稲については、米政策改革の定着と水田フル活用の推進に向けた戦略作物として、畜産の盛んな本町では積極的に作付されております。これらの飼料作物等の現地調査については、確実に粗飼料としての品質保持ができる適切な肥培管理により作付されているかを現地で確認する重要な業務でございます。

本町の現地確認の際は、地域の実情に詳しい区長等に同行を依頼して実施しているところであります。

現地確認の手法や使用資材については、それぞれの水田事務を行っている農業再生協議会が、毎年の現地調査で蓄積した経験と地域の実情に応じた方法で取り組んでおり、他の農業再生協議会の合理的で簡素化できる事例があれば、本町としても取り入れて改善をしていきたいと考えております。

以上でございます。

次に、資材等の材料支給についての御質問にお答えいたします。

高原町にあります農道、水路等は、土地改良区、水利組合及び農地所有者等の維持活動により、現在管理をされているところであります。

しかしながら、賦課金や負担金のみでの対応が困難な箇所もあるものから、水利組合等から資

材等材料支給の要望があった場合、現地調査を行い支給の判断を行っております。

また、支給が可能となった場合の事務手続きにつきましては、原材料支給申請書に必要な事項を記載していただいた後、資材等の引渡し日等を決定いたしております。

施工については、施工日の報告、施工完了の報告を頂き、職員が現地で使用完了の確認をもって事務作業の完了となるところであります。

以上でございます。

続きまして、環境行政についての御質問にお答えいたします。

まず、不法投棄やごみのポイ捨てにつきましては、人目につかない場所や時間帯を狙って行われており、その現場を押さえ正すということは、かなり難しいのが現状でございます。

不法投棄等の撲滅は、多くの自治体でも問題となっており、大変苦慮いたしているところでございます。

そのような中、本町が受けた情報提供につきましては、本年度2月末時点で90件弱の通報等があり、対応いたしたところでございます。

このうち、1件の案件につきましては、廃棄物の中から違反者を特定する証拠品が見つかり、警察の捜査によって違反者が判明し、嚴重注意がなされたところであります。

さらに、そのほかにも、情報提供を兼ね、発見したごみを毎回、拾って届けてくださる方もおられ、快く御協力くださる活動に対し感謝を申し上げる次第であります。

続きまして、ごみステーションの老朽化や掲示物の改善につきましては、リサイクル集積所を含む町内集積所は約250か所あり、これら全ての集積所は、区・班といった住民組織や集合住宅管理運営者の下で設置をしていただいております。設置当初に管理者を届け出ているところでございます。維持管理につきましても、相互協力の下で運用をいただいているところであります。

また、今年度は集積所の掲示物が老朽化し、ごみ出しの曜日が見づらくなっているという御相談もございました。このような御相談には、新しい掲示物を用意し、提供しているところでございます。

集積所の改修等に関する助成等は難しいところでございますが、今後も集積所のごみ出し曜日の掲示物等の御要望につきましては、善処してまいりたいと考えております。

以上でございます。

続きまして、集積所の未回収ごみの対応についてお答えいたします。

分別がされずに置かれたままになっているごみにつきましては、再度分別してから出し直していただくことを基本的なルールとして守っていただくようにいたしております。

そして、可燃物、不燃物、廃プラの処分につきましては、ごみ分別を前提として、えびの市や

小林市での処理が成り立っておりますので、このような広域連携のごみ処理構造を踏まえますと、今後も分別できないものを回収するという事は難しいと考えております。

集積所によっては、分別を守っていただくために各家庭に番号を付与し、その番号をごみ袋に記入するようにして誰のごみなのか管理するルールを実行し、また未分別者などを特定するために、独自で監視カメラの設置を検討しておられるところもあるようでございます。

今後は、未分別のごみの対処で困っているところにつきまして、このような事例を紹介しながら分別強化に御協力をお願いしてまいりたいと考えております。

また、昨年9月以降にごみ分別と再資源化の周知をするための広報活動を行ったほか、霧島美化センターでの分別指導の徹底や、ごみ分別の問い合わせについてきめ細かな対応に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

なお、教育行政につきましては、教育長をもって答弁を致させます。よろしくお願ひいたします。

[降壇]

○教育長（西田次良君）

[登壇]

私からは、教育行政について3点お答えいたします。

まず、小中学校で学級学年閉鎖になったときの状況と、児童生徒に対する学習支援や保護者対応についてお答えいたします。

小中学校では、令和2年3月2日から全国一斉の学校臨時休業の措置が取られ、本町の小中学校も令和2年3月26日まで臨時休業といたしました。また、令和2年4月16日には緊急事態宣言が全国に拡大され、本町では令和2年4月22日から令和2年5月24日まで小中学校を、分散登校を含む臨時休業といたしております。

休業期間中は、先生方が自宅学習のための対応を図るとともに、休業明けの学校では学校行事との精選による授業時数の確保、夏季休業期間の短縮等を行い、児童生徒の学びの保障を図ってまいりました。

その後、本町におきましては、学校の臨時休校や学年閉鎖等を行った学校はなかったところでありましたが、令和4年に入り本町の学校で1校が1日間の臨時休校、2学年で3日間ずつの学年閉鎖を実施いたしております。

この間、学校では子供たちの心理面のケアに努めるとともに、自宅学習のための対応を行い、また学童保育の担当課であります町民福祉課とも連携を取り、情報の共有化を図ってまいりました。

次に、ボランティアにおける対応についてお答えいたします。

現在、教育委員会におきまして、登録いただいているボランティアの皆様につきましては、朝

の街頭指導をはじめ、あいさつ運動、読み聞かせ、学習支援など、地域と学校の連携を基盤として幅広い層の住民の皆様にご協力をいただいております。

しかしながら、一昨年より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な学校行事が中止や延期となり、ボランティア活動につきましても平常時のような活動ができていないところでございますが、マスク着用や距離を置くなどの対策を講じながら活動するなど、御協力をいただいたところでございます。

このような活動につきましては、教育委員会広報紙におきまして、年4回情報発信を行っております。また今年度は、これまでの活動を継承しつつ新たな活動につきまして検討するための準備会を設け、次年度以降の体制について協議を進めたところでございます。

今後は、学校と地域活動の連携はもちろんであります。ボランティアに御尽力いただいております皆様同士の交流や、新たな人材の発掘・育成に向けました講座や研修会につきましても対応していくこととしております。

最後に、部活動やスポーツ少年団などの活動について、お答えいたします。

コロナ禍におきましては、これまで部活動やスポーツ少年団につきましては、活動の中止や縮小の要請を行ってきております。

この制限等につきまして、本町の独自のガイドラインは設けておりませんが、県立高校の対応をはじめ、国・県及び西諸管内の感染状況や近隣自治体との情報交換等、連携を取りながら方針を協議して決定しているところでございます。

以上でございます。

[降壇]

○6番（福澤卓志君）

では、順次自席よりお願いいたします。

まず、住民サービスのタクシー直通電話。これに関しまして私の方で、あるタクシー会社に問い合わせをしましたところ、その設置にかなり費用がかかるということで、ちょっと考えはないけれども、病院や薬局のほうで御要望があるという旨をお聞きし、そこについては検討しているところだとありました。

そのタクシー会社においても1社ではなく数社ありますので、直通電話と言う大胆な発想と言うのは置いておいて、窓口を利用された町民の方々に、特に雨のときや、また足の不自由な方々が、タクシーや家族に連絡を取りたいといった場合に、子機等を準備して、子機で通話——専用回線でもいいのですけども——そういったものを、利用できたらいいなという考えからこの質問に至ったわけですが。そういった対応をしていただけるかどうか、そういう考えがあるかどうか伺いたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

現在、業務上使用する目的で契約している携帯電話が3台ございますけれど、現在全てを使用しておりますので、貸出での利用は難しい状況でございます。

しかしながら、お困りの方への対応につきましては、今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

窓口を利用されている方々が不便なく来庁されて、また御帰宅されるように配慮等をお願いしたいと思います。

次に、防災行政無線の確認について、えびの市では実際にフリーダイヤルで確認できることで、SNS等で拡散いただきながらその災害のとき、特に聞こえづらい状況、シチュエーションにおいてダイヤルで確認することができる処置を取られております。

こういった動きは全国各地の自治体でやっておられるのですが、現在本町ではメール、ホームページ等で確認できるとされていますけれども、専用ダイヤル等を活用する考えはあるかを伺いたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

防災行政無線の重要性については、これまで答弁させていただきましてとおり、特に災害時に有効な情報伝達手段として私も認識しております。

御質問いただきました「防災行政無線で放送した内容を、指定の番号に電話をかけることで再度聞くことができるシステムの導入」につきましては、過去に検討を行っており、結果として現在の登録型のメールシステムを導入し、運用しているところでございます。

理由といたしましては、台風、大雨等の際に音声がかえなかったり、防災行政無線が鳴ったことを認識できなかった場合には問い合わせができないこと、また聴覚に障害を持たれた方については視覚的な情報伝達が必要なことなどが考えられ、聴覚、視覚の両面から考えて登録型メールシステムを採用したものでございます。

メール配信サービスにつきましては、現在、えびの市と同様に情報発信を行っており、特に緊急的にお知らせしなければならない内容につきましては、緊急速報メールを運用してお知らせしているところでございます。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

私もメール等で確認させていただきますので、大変便利なのですが、多くの方々にあらず

る手段で伝達することが義務だと思っております。

メールの登録数、ここについても伸びているか、またその努力もされている、広報等で載っておられるのも確認するのですが、全員の方々が残念ながら登録されていないのではないかと懸念しての質問に至りました。あらゆる手段でその情報の伝達、またその確認ができるようにしていただきたいなという思い。

今回、高原町公式LINEのほうがりリースされました。そのLINEのほうでも今回の本議会の開始、この間防災行政無線で案内がありましたけれども、瞬時に通知されました。ただ、防災行政無線からの案内とか、そういった町からのただの案内なのか区別が難しい状態ですので、例えば「防災行政で先程お流ししました情報についてはこちらです」ということでリンクなり情報提供の活字なり行っていただくほうが、より何の情報が伝達されて何の情報を今受信しているのかということが分かるということがありますので、そういったすみ分けというか配信の工夫を今後も検討していただきたいと思います。

また併せまして、各種イベントの情報なども防災行政無線を使って、乱発するのは失礼かと思えますけれども適宜、隔週または隔月に1回ほどは行いながら、防災行政無線を拾う訓練というものも実施されたほうがいいかと思えますが、そういった考え、そういった内容についての考えがありましたら伺いたいと思えます。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

防災行政無線の主な発信内容につきましては、災害情報、議会情報、選挙情報、予防啓発等の情報など多様な発信をしているところでございます。

現在でも台風などの接近による注意喚起や水道管凍結防止などの注意喚起を行うとともに、災害時の避難情報や各種大会についての案内等を実施してきたところでございます。

御承知のとおり新型コロナウイルス感染症の感染拡大により多くのイベントが中止となっており、積極的な活用ができていない状況でございます。

今後、さらに情報の発信について積極的な運用を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

防災行政無線のアナウンスをされるのが機械かと思えます。文章を入力したのが自動音声になっているのではと思うのですが、生の声でぜひ、役場職員の方々が、実際に緊急時に配信しないといけない訓練も併せて御検討いただければと思えます。

聞きづらいなというところがありますので、速度なり、女性の声、男性の声それぞれあるようですが、そういった工夫も町民、ヒアリングも含めて検討のほうもお願いしたいと思います。

では、3回目の接種券発送について、現在6か月たてば発送を随時行っていることでもありますけども、今回この質問に至った経緯は、県が独自でワクチンの接種をできるように広く募集をかけていることで、町も単独で集団接種のほうを計画していただいているのですけども、より早く行いたいと思っても、また病院でなかなか予約が取れない、また家族を当てにされている方々からするとどうしても難しいような声があったものですから、確認をさせていただきました。

こういった工夫もされているかと思えますけども、希望されている方々に対して接種券を送ったけども予約が難しいとか、その予約が滞っているとか、そういった情報等がありましたら伺えればと思います。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

予約についてでございますけども、先程町長の答弁にありましたとおり、まだ集団接種につきましては接種枠に至らなかった経緯はございました。実際のところ。そして、医療機関におきましては、ほぼほぼ順調に予約のほうは埋まっております。

そして3月に予定しております集団接種、4日間準備しているわけでございますけども。こちらのほうが、モデルナ社のワクチンということで、予約のほうは、正直申し上げますと伸び悩んでいる状況でございます。初日については、ほぼ埋まったわけでございますけれども、そういうことを鑑みまして、接種券の前倒しの発送とかも検討をしたいと考えておきまして、2月におきましても約1週間ごとに接種券の発送をいたしておりますので、適宜、接種券の発送を行いまして、予約がある程度埋まるように対応していきたいと思っておりますので、議員の皆様におかれましてもPRのほうと、集団接種のほうをお願いしたいと考えているところでございます。以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

今回、私もネットでの受付をしまして、大変便利な印象にありました。

公式LINEのほうもリリースされておりますので、ワクチンの予約、専用ホームページです、そのまま直リンク、クリックすると入って申込みができるような工夫も、まだ三百数名ぐらいしか登録がないかと思うのですけども、随時これから増えてくることも考えて、そういったこともできるように。

また、ホームページのほうも直接リンクです。すぐクリックすると、もうそこに登録する画面に直接行く。そういったダイレクトな部分も必要かと思っておりますので、そういった工夫も含めてお願いをしたいと思います。

なかなかインターネットを活用できる世代ではない方々は、直接電話等になるかと思えますけ

ども。大変御苦勞をかけますが、そういった方々の漏れがないようお願いしながら、努力義務でありますので、できる限り間髪入れずに行えるような処置の方もお願いをしたいと思います。

ちょっと話は変わりますが、昨年移住されて本町に来られた方が、ワクチンを接種希望した場合に、実際どこで登録したらいいのか。後から通知が来ると思っていたけど、なかなか来なかったことでホームページを見たところ、下の方にずっと埋もれていて対応がちょっと遅くなってしまったという声を伺いまして。今後、転入される方々、または転出をされる方々について、3回目の接種が来ている方々については、その登録とか手続のときに、書面でも構いませんけども、担当の方が直接話していただければ一番なのですが。そういった方々にもそのワクチン接種についての登録であったり、方法の周知のほうも考えていただけないかと思っております。

この3回目の接種もスムーズにあって、町民含めよりコロナに対する恐怖等がなくなるような形で願ってやみません。

そのワクチン接種が5歳から11歳までの接種になる計画になっていますけども、本町の計画のほうを伺えればと思います。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

5歳から11歳までのワクチン接種の計画についてでございますけれども。本町におきましては、3月4日に503名の対象者の方に接種券を発送いたしました。そして既に3月7日から接種が始まっておりまして、接種の実施医療機関でございますが、町内に1か所、そして西諸と協力いただきまして西諸管内に4か所の小児科等で接種できる体制を整えているとのことでございます。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

現在の町民の503名に発送されたということですけど、接種状況を伺えればと思います。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

3月7日に今のところ始まったばかりでございますので、状況の方はこの1週間の状況をまた来週、把握したいと考えております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

副作用も含めて、不安と感じられている方々が、予約を躊躇されていたり、その子どもが痛が

るというか、やっぱり先端恐怖も含めて、恐怖からなかなか親が二の足を踏むようなことも考えられますので、そういったことも含めて、ケアなり情報の発信、デリケートな部分もありますので、そういった考え方も併せて、電話予約された方々のフォローもお願いしたいと思っております。

ワクチン接種が、低年齢化も含めてなのですけども。保育所であったり、小中学校で副作用も含め身体的にきつい状況が生まれるかと思えます。そういった欠席に至ったときに、保護者が急に休まざるを得ないということも考えるわけですが。そういった児童生徒を含め保育所の園児たちの欠席に関する取扱いや、考え方について伺えればと思います。

○教育長（西田次良君）

お尋ねの対応につきましては、県を通じて文部科学省より通知が来ております。新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の幼児児童生徒に対する実施についての学校等における考え方及び留意点等についてというのが来ております。

その通知の中で、ワクチン接種に伴う出欠等の取扱いや、副反応が出た場合の出欠の取扱いについて記載があり、いずれの場合も出席停止の措置を取ることができるとあることから、本町におきましても、いわゆる欠席とはならない出席停止の措置を取っているところであります。

以上でございます。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

厚生労働省等によりますと、幼児などがワクチン接種を受ける場合の出欠等の取扱いにつきましては、先程、教育長が答弁いたしました内容のとおり、学校等での取扱いに準じた取扱いとすることで、欠席としないなど柔軟な対応をすることが可能とされております。

また、接種後に副反応が出た場合の取扱いにつきましても、保育所等が保護者等から状況を聴取し柔軟な対応をするなど、その考え方が示されております。

本町におきましては、令和4年3月7日付で各保育所等に対しまして、ワクチン接種に伴う出欠等の取扱いについての文書を通知しております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

ワクチン接種によって苦痛や身体的な状況が緩和され、何か学校に来ることをためらわれている方々にケアができたらと思っておりますので、引き続き、情報発信も含め、対策等を講じられていただきたいと思いますと思っております。

ボランティア登録について移りたいと思っておりますが、今回、更新月でありまして、様々なボランティアに登録されている方々が、このコロナ感染、またコロナ禍において、なかなか児

童生徒も含め、町のために動きたいという方々が躊躇される部分もあったかと思えますけども。この間だからこそ、例えば勉強会であったり、研修会であったり、様々な対応策含めてスキルアップできるような期間であったのじゃないかなと思っております。

登録頂いた方々に対して、直接的、または学校がこういう方々が欲しいという方々、内容について再度募集したりとか、見直ししたりするいい機会ではあったかとは思いますが、現在、ボランティア対応について、感染防止をしながら行っているということですが、こういった形で、今後、計画されているか詳しく伺えたらと思えます。

○教育総務課長（末永恵治君）

登録いただいている方々へのサポートという面では、まだまだ不足していると認識しております。今後、充実させていかなければならないと考えているところでございます。

直接、支援依頼や協力依頼につきましては、各学校との対応となろうかと思えますが、学校現場において負担にならないよう、教育委員会といたしましても、社会教育係にコーディネーターを設置しておりますので、コーディネーターと学校が連携してやっていくこととしております。

交流等のことですが、来年度から、講座や交流等については計画していく考えでございます。ボランティアの皆様には紹介させていただきたいと考えているところでございます。あくまでもボランティアでございますので、活動が義務化しないように、できることをできる人ができるときに気兼ねなく参加できるような配慮も必要かと考えているところでございます。

以上であります。

○6番（福澤卓志君）

募集の方法ですけど、各項目があって何人とか、いついつどこでどういうことをしますというような形で御周知頂いて、参加できるときに参加するような内容というのをほかの自治体も行ってありますし、あくまでも志願ですので、そういったところ、されたい、してもいいよという方々のお気持ちがちょっと方向を失わないような形での前向きな発信等も含めてよろしくお願ひしたいと思っております。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前11時30分 休憩

午前11時32分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、一般質問を続行いたします。

○6番（福澤卓志君）

では続きまして、クラブ活動のガイドラインについてなのですが、今、ガイドラインはないということで、各地区、各自治体の状況を見ながら、または県とか国の動向を勘案しながらその要請等、努められているということなのですが、本町独自でも6波、次、7波があるかもしれないという状況の中で、今後、どのような活動に対しての自粛依頼、または中止の依頼を行っていくかというのは、筋書というか、そういったその指導者に共通の理解、納得いただけるような本町の対応というような計画をしていただいたほうが、よりこのガイドラインのっとして本町は動いているのだという姿勢が示せるかと思います。ひいては活動する子供たちや児童生徒たちを守るために、本規定があるのだということを示していただきながら、その活動について支援をする、そして子供たちの活躍を見守る、一般の町民の健康と福祉の増進に努めるということも併せて検討していただいたほうがいいと思っただけの本質問に至りました。特に各指導者、代表者を一堂になかなか会するのは難しいかと思いますが、今後の協議を含めた考えを伺う場であったり、機会の創出があったほうがいいのではないかと思いますけれども、この点についてお考えを伺えればと思います。

○教育総務課長（末永恵治君）

協議をする場につきましては必要であると認識しておりまして、スポーツ少年団の総会、本部会、本部の総会等で実施していきたいと検討はしているところでありますが、ここ2年、その本部の総会自体がなかなか一堂に会してできていない状況でありますので、議員がおっしゃいますような意識の統一、指導者に対してこういうときには活動中止しますというような統一したガイドラインとおっしゃいましたが、そういうのが共有できていなかったのだろうと考えたところでございます。

スポーツ少年団はもちろんですけど、中学校の部活動、そしてそういった施設を利用されない方々への配慮も必要ですので、そういったことも考えながら判断していくのですというような研修というか、協議の場を今後も設けていきたいと考えております。

以上であります。

○6番（福澤卓志君）

一堂に会するのが難しい場合には、アンケートなり書面にて文章のやり取りができるような工夫等もしながら、よりその活動に対して、活発な方はコロナによって引くところは引くみたいなどころの駆け引きも含めて、指導上の在り方についても御検討いただきながら、さらなる本町の活動、活躍を期待してやみません。

次に、総合政策のホームページについて移りたいと思います。

今月中に更新をされ、今後も検討していくというように伺ったところですが、この現在のホー

ムページについて課長会とかそういったところで議題、また、ホームページについてこういうようにしたほうがいいのではないかというアドバイスなり、協議がされたかどうか伺いたいと思います。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

課長会などで協議したことはございませんけれど、今回、ホームページのリニューアルに向けて、情報化推進担当者会議を3回ほど開催しまして、協議を行ったところでございます。以上です。

○6番（福澤卓志君）

各課課長におかれましては、御自身の担当課のホームページを再度閲覧いただいて、工夫改善がないか、果たしてこれで正しい情報が発信されているかを引き続き見ていただきながら、町民に、そして高原町を気になる方々に情報が発信されるような工夫改善等をしていただいて、その推進会議の方々の御苦勞もあると思いますが、よりよいホームページにリニューアルされることを切望しております。今回、公式LINEのリリースに伴って、リンク先、これも直、ホームページに行きます。ホームページの内容をそのまま見られているということを考えたときに、果たしてこの情報でいいのか。また、言葉の使い方も含めて掲示の内容をしっかりと見ていただきながら充実を図っていただきたいと思っております。ほかの方々に、ほかの方々とはい町外の方々に見ていただいて、どういうホームページかとか、この内容で果たしていいのか、何か少し評価をしていただくような機会があれば、さらに良いものになるのではと考えて本質問をさせていただいております。

毎月発行してくださる広報たかはるのクオリティーが大変良くて楽しみです。近隣の方々も大変良いねとのことで、いろんな高原の様子が伺えるとのことで聞いているのですが、こういったホームページ上ではデジタル版、そのままPDF化された状態でリンクされておりますけど、より書かれている掲載内容を細かく各課の情報に分担したり、お知らせ掲示板などはまたさらに別の場所で閲覧できるような、募集も含めて、このホームページのボリュームの検討も必要かと思いますが、この点、お考えについて伺いたいと思います。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

先程、議員からもございましたとおり、現在のところ、広報たかはるにつきましてはPDFのほうで掲載しております。今、御指摘ございましたその内容について、別のコンテンツのほうで提示したらということなのですが、現在のところはちょっとまだそこまでは考えておりませんが、閲覧しやすいようには改善してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

検討していただきながらプロポーザルも含めて、各種本町にとって大事な情報を収集する上で、ホームページ上でこういう案内がありますというようなことを細かく出したほうがいいのではということの質問でした。

「結netにしろ」をえびの、小林、高原が率先しておこなっている、こういった小林市とえびの市には直接リンクが張られているのですが、本町では張られておりません。そのリンクを張ったほうがいいなと思うのですが、担当課ではどのように考えておられるでしょうか。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

福澤議員の御指摘のとおり、本町のホームページにおきましては、この結netにつきましてリンクは張られておりませんでした。そのようなこともありまして、早速対応をさせていただきます。ホームページ中の各課の紹介をいたしております、ほほえみ館のコーナーに一応リンクを張らせていただいたところでございます。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

できましたらトップページのほうに張っていただいて、必要とされる方がトップページから進めるような配慮、技術的に難しければ何らかの配慮ができるような手続等もお願いしたいと思っております。2市1町が発信する、2市1町で動く内容については、みんな同等な対応等お願いしたいと思っております。

町民の声につきましては、延べ10名のほうで防災に関したり、生活の利便性とか、ワクチンだったりとかの声が寄せられているということですが、この町民の声についてもより多くの方々から拾っていただくように。今年は計画していただいていると思っておりますが、町政座談会も含めて直接声を伺うような機会も創出していただきながら、より声が収集できるような工夫等もお願いしたいと思っております。匿名にして多くの御意見をいただくことも必要ではないかと思うのですが、そういった考え方について伺えたらと思います。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

町民の声につきましては、御意見に対し回答を行っている関係上、氏名、住所等を記載していただくようお願いをしているところです。ただし匿名で郵送されてくることもございまして、その場合でも総合政策課のほうで受付を行いまして、全て町長が目を通して内容の確認を行っております。その後、回答が必要な場合には、町長の指示により担当課が対応方針等を作成し

まして、可能な限り広報誌、また、ホームページを通じて回答をお示しするようにしております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

今後もより多くの町民の方のお声を拾っていただけるように、工夫改善等をお願いしたいと思っています。

特別表彰につきましては、5年に1回であります。年次的に町長賞や、副町長賞、各課長賞みたいところで、町民の活躍を表彰いただける機会を検討いただきながら、より本町の豊かな幸せも実感できる部分でスポットライトを浴びさせていただきたいと思っています。御検討のほうをお願いします。

定住促進住宅については、やはり私個人では年次的に建設すべきだと思っております。検討のほうをお願いしながら、あと残り4回、一般質問ありますので、毎回、定住促進については必要だという旨を発信させていただきたいと思っています。

森林環境譲与税についての取組について、各自治体を取り組まれているのを国がまとめた令和元年、令和2年、それぞれの取組状況等を報告してもらっています。本町ではこういった取組を考えておられるか再度伺えればと思います。

○農政林務課長（上村洋二君）

お答えいたします。

市町村における森林環境譲与税の用途については、間伐や人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などの森林整備及びその促進に関する費用に充てることと示されており、これらの要件に合致するのであれば独自の取組も可能であると考えております。

他市町村の事例を申し上げますと、木材の利用の促進であれば、公共施設の木質化や幼児への木製玩具の贈呈など実施している自治体がございます。また、アイスクリーム販売店で配られるプラスチック製のスプーンを、地域材を利用した木製スプーンに転換するなど趣向を凝らした取組もございました。

町長答弁にもありましたとおり、森林整備以外の用途については、検討会議を設置し、幅広く用途の検討を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

○6番（福澤卓志君）

この森林環境譲与税の用途についてはかなり工夫がされておりますので、その人材育成も含めて本町独自の取組を検討し、予算化させていただきたいと思っております。

皇子原公園にできた木質遊具、こういったものを地元の木材屋さんを利活用しながら、保育所、

または小中学校等、あと、放課後児童クラブ活動等で木育教育を利用してもらい、様々なところで本町の山林が守られ、また、それに興味関心が向くような事業等の計画等もしていただきたいと思っています。特に秀峰高校で建築科とか、土木科がない関係で、地元企業が疲弊しております。こういった森林環境譲与税を使って小中学生に、一緒に森林関係の仕事、こういったのがあるのだということを直接レクチャーいただけるような機会というのも、こういった譲与税を活用しながら行えるのではないかと思いますけども。そういった取組内容についての考え方を伺えればと思います。

○農政林務課長（上村洋二君）

お答えいたします。

森林環境譲与税は、主に森林の整備や林業に関わる人材の育成、確保を目的としているため、御質問のような内容については使用できないと考えております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

またあらゆる機会で機会の創出をお願いしながら、本町独自の子供たちに次の目が向くような工夫の改善をお願いしたいと思います。

飼料作物の現地調査についての取組とその費用、その他、小林市も行った事例などを参考にし、費用効果、費用削減等の効果があるかと思いますが、考え方を伺えればと思います。

○農畜産振興課長（田中博幸君）

お答えいたします。

水田活用の直接支払交付金に係る飼料作物の現地調査は、夏作のWCS用稲以外の飼料作物については、水田担当職員が確認をし、WCS用稲と冬作の飼料作物については、地域の実情を熟知している区長等の地元案内者と、町職員やJA職員等により実施をしております。本町では、現地を確認する際には、半日単位で7日間、3班から5班構成で巡回をしております。

確認する職員につきましては、米担当以外の職員も動員するため、町内の水田に詳しくない者も多く、また、狭くて未舗装の農道も多いため、地域の実情を熟知した案内者がいることで、職員のみで確認するより、効率的でより安全な現地確認が可能になっております。特に、案内者になっていただく方は、区長、もしくは区長が推薦する地域の水田を熟知した方でありまして、長年現地確認に御協力いただいている方も多く、現地の実情を詳細に把握している方がほとんどであります。

また、小林市の現地確認について確認をしましたところ、旧小林市のエリアの現地確認の際には、職員2名の5班体制で1日フルに使い、7日間の年3回実施しているとのことでございます。

水田転作確認票につきましては、本町では、適切な作付け及び管理がされていれば、職員が回収しておりますが、小林市では、水田転作確認票に調査の合否を記入し、回収はしていないとのことでございます。

なお、小林市では、合否の記入をする際には、水田転作確認票を保定している竹などから一旦取り外してチェックをしております。また、野尻町では以前から回収していたことや、記入後、再度元のように固定をするのに手間取るために、現在も回収をしているということで、統一的な取扱いではないとのことでお聞きしております。

本町では、ピンクの水田転作確認票が回収されている水田は、調査に合格した水田であることが一目で分かることであり、再調査を職員が行う際にも現地を特定しやすいメリットがあります。

また、現地に詳しい地元の案内者がいることで、効率よく安全な確認が可能となり、職員のみだけでなく、地域の方の目を通して現況を確認していただいていることで、合否の信頼度も確保できているものと考えております。

このようなことから、費用削減効果につきましては、小林市の場合は職員のみでの現地確認であり、本町の農業再生協議会が支払っている謝金は発生しておりません。その分の小林市の場合は職員の人件費は発生しているものと思っております。また、現地確認をする職員の確保と現地調査に不慣れな職員の場合、小林市の場合、特に現地の特定に苦勞していることであります。

以上のようなことから、現地確認については町長答弁でもありましたとおり、それぞれの農業再生協議会が、毎年の現地調査で蓄積した経験と、地域の実情に応じた方法で取り組んでおります。ほかの農業再生協議会の実情をさらに詳しく調査検討し、合理的で簡素化できる点があれば取り入れて改善していきたいと考えております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

要旨の改善は早急にできるのではないかとと思いますが、その体制については今後様々なお知恵を拝借しながら検討していただきたいと思っております。

資材、材料等の支給について現在行われているということで、所定の手続を踏めばいただけるということですが、各組合で賦課金が違ったりしながら、大変御苦勞はあるかと思っております。そういったお声も拾いながら、水路の、または道路等の改善に努められるよう広く声も拾われて、材料等の支給についても柔軟に行っていただければと思っております。

災害に当たったときにはどうしても業者に頼まないといけないという発想ではなく、自分たちでできるところは自分たちでするところでの材料支給ができればいいなというところで本質問

に至りました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

では最後に、環境行政のほうに移ります。

ごみの問題については大変根深いものがあります。このごみの問題について、ぜひ積極的に検討、課題の解決について繋いでいただきたいと思ひています。

今回、公式LINEのリリースによってごみの情報が入っておりますけども、その掲載方法であつたり、ごみをPDFから豆辞典のほうにいくのですが、内容が全然載っていないものがあつたりする声もありましたので、内容の充実も含めて検討をお願ひしたいと思ひます。

未回収のごみについては、そのルールの明文化、各区ごとではなくて、町全体でそのルールを決めていただいて、ごみ出し未回収がないような工夫と改善のほうをお願ひしたいと思ひます。ごみ袋が有料であることもありますので、そのごみ袋についても有料化しているからこそ、その回収方法についても検討をお願ひしたいと思ひます。

ごみ袋に入る黄色いステッカー、こういったものについても、小さくしたり、その内容を見直すことはできるとは思ひますが、未回収ごみについて担当課で今考へておられる手だて、何かがありましたらお伺ひできたらと思ひます。

○環境保全対策監（高原寿志君）

長期放置の未回収ごみの開封対応の厳格化につきまして検討いたしました。長期放置数の増加の懸念やマンパワー不足等により、現在のことは断念いたしております。また、廃棄物の処理及び清掃に関する条例及び同条例施行規則において、ごみ集積所には管理者を置くように規定されており、その管理者の御協力をいただけるかについて検討いたしております。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

未回収がないごみステーションを目指して掲示をすつとか、そういった管理者を指定するのであれば、その管理者に未回収がないような御指導、また、その地区、その区ごとで出し方が変わるようなことがないようにルールの明文化等を併せて協議いただきながら、ごみゼロを目指していただきたいと思ひております。

以上で質問を終わります。

○議長（温谷文雄君） 暫時休憩いたします。昼食のため1時10分まで休憩いたします。

午前11時57分 休憩

午後 1時10分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、一般質問を続行いたします。

次に、5番、温水宜昭議員。

○5番（温水宜昭君）

〔登壇〕

私は通告に基づき、大きく2つのテーマで質問をいたします。

まず1つ目は、町内建設事業関係者の皆さんや高原町商工会さんからの御意見等を踏まえ、質問をいたします。いまだにコロナ禍が長引く中、本町建設事業関係者の皆さんからは、少なからずコロナの影響があったとの声が聞かれましたが、町当局は実態をどのように認識され、また、どのような対策等を講じられてきたかお伺いします。

2つ目は、高原町公共施設等の整備基本方針が決定し、町議会や町民への報告がなされました。計画では、学校、役場庁舎、中央公民館、保育所、体育館の整備を優先的に進め、その中でも高原の次世代を担う子供たちによりよい教育環境と学校教育の充実は欠かせないことから、小中一貫教育を見据えた小学校の建設を先に進めるとのことですが、町民の中には、耐震性の保たれていない役場庁舎や木造建物である保育所の耐久性などを心配される声も聞かれますが、町当局におかれましても、様々な角度から検討された上での大変重要な決定だろうと思しますので、再度、町長の御見解をお伺いします。また、2月10日、町議会特別委員会に報告のあった学校建設計画についてのその後の進捗状況も併せてお伺いします。

以上、壇上からの質問を終わります。

〔降壇〕

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

ただいま温水議員から大きく2つの御質問をお受けいたしました。

まず、地域産業の育成と振興ということで、建設事業者へのコロナの影響、こういったものについての御質問でございました。

コロナ禍における本町の建設事業者関係の実情についてでございますけれども、国外で生産されております住宅機器設備、こういったものが新型コロナの影響によりまして輸入、こういったものも含めまして影響が出てきていると。やはり通常サイクルの生産体制が取れていない状況。こういった特に住宅機器関係、納期が遅れているというような影響が生じているというようにお聞きいたしております。

町内業者の方から事前にそのような情報提供がありましたことから、納期のかかる製品を使用する予定の事業につきましては、本町では優先的に早期に発注を行ったこともありまして、町の事業自体には大きな影響は出ていないというように考えております。また、コロナの影響で建設関連事業所あるいは現場、こういったもの等の一部閉鎖、こういったものの現状はないというように把握をいたしております。

しかし、全国的には発注量が減っているというようなことで、特に民間からの建設業者、建築業者、こういったものへの発注が減っているというところでのいわゆる受注減というような影響

が出ているというふうに向っております。それと、私が伺いました業者の中では、いわゆる感染防止、職員同士の感染拡大防止のための様々な対策、こういったものに気を使うということで、いわゆる現場的にはそういった少なからず感染拡大防止への影響というふうにはあったのではないかと考えております。

また、こういった建設事業者関係へのコロナ禍におけます対策につきましてでございますけれども、これまで本町独自の支援策となります高原町事業者収入減対策緊急支援事業を講じてきております。この事業は、昨年1月に県が発令しました緊急事態宣言から今年1月の国のまん延防止等重点措置に合わせ、外出自粛など、経済活動の制限により影響を受けた町内商工業者を対象に支援するものであり、これまで計5回実施をしてきております。当事業におきましては、業種の縛りを設けておらず、建設事業者関係の方々への支援も行ってきております。

また、同じく本町独自の事業者支援対策として、高原町新型コロナウイルス感染症緊急対策利子補給事業も行っております。本事業は、国・県の新型コロナウイルス感染症に係る緊急対策貸付け等を利用した事業者に対し、10年を限度に高原町が利子補給を行うものであり、同じく建設事業者関係の方々への支援にもつながっているところでございます。

以上でございます。

次に、公共施設等整備の基本方針についての御質問でございました。

公共施設等整備基本方針につきましては、昨年11月に策定しまして、内容につきましては、議員の皆様には昨年12月13日の全員協議会にて説明をさせていただきました。また、区長会におきましては12月15日に説明をいたし、町民の皆様へは今年1月の広報たかはるで公共施設整備についての特集を組み、周知を行ったところであります。

議員からの御質問にありました小学校建設を優先したこと、いわゆる公共施設整備の順番、特に役場庁舎との建て替えと学校建設について様々な御意見があるということは存じております。公共施設等整備の基本方針にもありますように、役場庁舎の建て替えには、役場周辺施設を一体的に整備する必要があり、そのような中、公共施設整備の順番につきまして、役場内部や教育委員会、外部組織である学校のあり方検討委員会や高原町公の建物等整備検討委員会にて整備方針の検討を行い、決定をしたところでございます。

整備方針について再度申し上げさせていただきますが、小学校建設は令和7年度の完成を目標に進め、庁舎の建て替えは小学校建設後の令和8年度以降とする。その他の施設については、庁舎建設後に計画的に整備を進めるといった基本方針に変わりはないものでございます。

次に、現在の主に学校建設につきましての進捗状況でございますけれども、高原町立小中学校施設整備事業基本計画等策定業務につきましては、公募型のプロポーザル方式で業者選定を令和4年2月24日に行い、応募のあった6社から最優秀提案者を決定し、このほど契約を行っ

たところであります。

今後は、本年7月29日までの工期で学校施設の全体像を示す基本計画、内容としましては、予定教室数や規模、施設配置図及びイメージ図などを策定し、その後、この基本計画を基に、建築基準法等の関係法令に照らし合わせ、平面、立面などの基本設計図を作成し、建設に係る概算金額を積算する基本設計を行う計画であります。

庁舎の建設についてでございますけれども、昨年8月に役場内部の公共施設等検討本部会議におきまして、建て替え候補地につきましては現高原小学校を含めたほほえみ館周辺とし、建物は平屋もしくは2階建てが望ましいとした検討結果になったとの報告を受けております。

建設に向けての具体的な取組につきましては、今後検討を進めてまいります。

以上でございます。

[降壇]

○5番（温水宜昭君）

それでは、地域産業の育成と振興について質問をさせていただきます。

先ほど、建設業者への支援事業の説明がありましたけれども、私が把握している部分では、事業者収入減対策事業補助金、これが3件あったと理解しておりますが、間違いなかったでしょうか。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

事業者収入減対策事業でございますけれども、これまでの事業におきましては事業者の関係者、例えば、建物内で使ういろんな例えば畳とか、そういうものを含めると3件以上、今個数でいいますと、延べでございますけれども、11件の業者が対象として補助金等をこれまでに交付いたしているところでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

次に、本町の建設事業関係の登録数とクラス区分基準についてお伺いをします。また、クラスもAクラス、Bクラスということで理解しておりますけれども、その基準額の金額と上限の金額に制限があるのか、それについてお尋ねします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

本町におきましては、「指名競争入札参加者の資格、指名基準等に関する要綱」に基づき、事業者からの「指名競争入札参加資格審査申請書」、いわゆる「指名願」の提出、受付けを2年ごとに行い、入札参加者の決定を行っております。

本要綱におきましては、建設工事を土木工事、建築工事、舗装工事、また、その他の工事とい

うふうに区分しております。このうち、土木、建築、舗装工事に関しては1,000万円以上の工事をAクラス、1,000万円未満をBクラスに、水道施設、管工事に関しましては800万円以上をAクラス、800万円未満をBクラスというふうな等級の区分、発注の標準となる金額を定めております。

なお、水道施設管工事におきましては、現在、業者数の関係で格付は行っていない状況でございます。

このような中、令和3年度末までの種別ごとの業者数でございますが、土木につきましてはAクラスが6業者、Bクラスが6業者でございます。次に、建築につきましてはAクラスが5業者、Bクラスが4業者でございます。次に、舗装につきましてはAクラスが5業者、Bクラスが6業者でございます。ただいま申し上げました業者につきましては町内業者でございます。このほか、管工事は町内3業者、電気工事は町内1社と西諸管内2社の3業者、また、造園につきましては町内5業者となっております。

なお、先ほど質問がありました金額の上限については定めがないものでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

私が上限枠をお尋ねしたのは、工事内容によっては1億円とか建築関係については出てくると思うのですが、その辺がありましたので一応関連でお聞きをしました。

高原商工会の会員さんにおきましては、建設業関係者が44とこのことで理解しておりますけれども、そのうちの4分の1ぐらいが町内の「指名願」を出していると一応理解をいたしました。それでは、次に、町内の公共事業の発注状況、また、住宅取得支援金交付事業をされておりますけれども、町内業者が施工された件数、実績と今後の計画、また、県発注工事では不調あるいは不落があると聞きますが、本町の現状をお伺いします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

建設工事の直近3年の推移について、令和元年度から御説明いたします。まず、令和元年度は、発注・受注どちらも65件でございます。令和2年度は発注が69件、受注が67件となっております。令和3年度は発注が60件、受注が59件となっております。建設工事につきましては、ただいま紹介したとおり、年間約60件前後の入札で推移しているところでございます。ただいま件数の御紹介をしましたが、不調や不落について説明いたします。令和元年度はございませんでした。令和2年度は2件、令和3年度が1件の不調があったところでございます。不調につきましては、事前に辞退届が提出されている場合と、入札に応じるものの、入札書に「辞退」と記載し、応札されない場合がございます。

なお、直近3年間では、建設工事に関しまして不落はございません。

以上でございます。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

移住定住支援に係ります住宅等取得支援金の実績についてお答えいたします。

本町の住宅等取得支援金に係る町内業者の利用実績でございますが、令和2年度におきましては実績総数30件中、町内業者が12件、令和3年度におきましては、現在までのところ、総数17件中、町内業者が7件となっております。

また、この住宅取得支援金事業につきましては、令和8年3月31日までに登記または売買による所有権移転を行った場合までを有効としておりますので、計画としては令和7年度まで事業は続けることとなっております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

工事の実績、金額等が分かればお聞きをしたいのですが、それと、今の住宅取得支援金交付事業ですが、これは今後継続されていくのか。その2点をお伺いします。

○総務課長（内村秀次君）

発注しました落札金額について説明させていただきます。

まず、令和元年度でございますけれども、先ほど65件と申し上げましたが、合計の金額では約4億4,000万円でございます。令和2年度が67件で3億8,000万円、令和3年度が59件で約4億1,000万円でございます。

以上でございます。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

先ほど申し上げましたが、こちら住宅取得支援金交付事業につきましては、要綱上では令和7年度までと、継続につきましては、今回、この定例会で予算のほうを計上させていただいておりますが、継続する計画は持っております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

今、総務課長のほうから工事高についての提示がありましたけれども、公共事業自体は総額的には減っていないということで理解してよろしいですか。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

直近の3年間につきましては、大体60件程度で推移しており、金額のほうも少ない年で3億8,000万円、多くて4億4,000万円ということで、大体似たような金額で推移しているところでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

分かりました。それでは、次に、建設事業関係者の皆さんから、担い手や技術者育成に地域高校の土木科・建築科の再設置を望まれる声もお聞きをしましたが、これについて、町長の御認識と、教育長には中学校生徒さんや学校関係者の皆さんの現状というか、それについて併せてお伺いをしたいと思います。

○教育長（西田次良君）

お答えいたします。

町内中学校卒業生の動向でございますが、令和2年3月末及び令和3年3月末に本町の中学校を卒業しました生徒の進路状況でありますけれども、令和2年3月末の卒業生79名のうち、お尋ねの土木科・建築科へ進学した生徒は、都城工業高等専門学校の建築科が1名のみということであります。令和3年3月末の卒業生も同じく79名でありましたが、土木科・建築科へ進学した生徒はいない状況でありました。

普通科高校へ進学された生徒で、その後、土木科・建築科のほうへ進路を考えている生徒がいるかどうかについての把握はしておりません。

以上でございます。

○町長（高妻経信君）

私のほうからお答えいたしますが、まず、西諸管内、こういった土木・建築、そういった技術を学べる高等学校、今はない状態であります。これは、県立高校の再編・統合が行われた時期がありまして、町内にありました高原高校もその時期に統合・再編ということで、今の秀峰高校に統合されております。

そういう経過の中で、県内におきましても、こういった専門性の高等学校というのが少なくなっているという状況がございます。これは大きな要因というのはやはり子供の人口減ということであろうかと思えます。

しかし、本町といたしましても、土木・建築、こういった技術者が育っていないという状況は、将来的なことを考えますと、公共事業の発注、あるいは地域産業の振興、大きな影響がもう現状でもあるというふうに理解をいたしております。

そういった中で、ただいまの温水議員の質問にございましたように、業界の方からも子供たちが学べる場がないことが一つの技術者が育っていない現状じゃないかというような声もお聞き

をいたしております。しかし、先ほど申し上げましたように、県内でそういった専門性の学校が再編・統合されたというような経緯の中で、今後、またそういった学べる場をまた再度つくっていくかということになりますと、非常に難しい面があるかと思えます。

なお、この件に関しましては、2市1町、小林市、えびの市を含めて、私のほうからも今後のこの考え方について意見を申し上げていきたいというように考えております。

そのほかに、こういった土木・建築の技術者を育てていく方法があるかどうか、こういった内容につきましては、建設業者の方等と町との意見交換等をさせていただいて、町で方策を見出していければなというように考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

ただいま教育長の答弁で、需要というか、要は学校の生徒さんたちがそういうほうにあまり進んでいないということだろうと思えます。しかしながら、今、町長がおっしゃられたように、そういう場もつくっていただきたいというのは、業界からはやはりそういう声は出るのは当然ではと思っております。また、事業者の皆さん方も魅力ある職場づくりというか、そういう部分でも努力が必要なのではと感じました。

それでは、次に、去年の12月議会で陣議員の質問と重複する部分もありますけれども、令和元年6月に国土交通省より新・担い手3法、すなわち、建設業の働き方改革の促進、2番目に建設現場の生産性の向上、3番目に持続可能な事業管理の3項目が施行されました。これを受けて、休日、準備期間、天候等を考慮した適正な工期設定と、債務負担行為や繰越明許費を活用した施工時期の平準化、この2点について、本町の取組状況をお伺いします。

○建設水道課長（入佐和彦君）

御質問にお答えいたします。

工期の設定につきましては、国土交通省から示されております「土木工事における適切な工期設定の考え方」の指針に基づき標準工期を算出しております。大まかな算出方法としましては、土木工事標準積算基準書に示されております日当たり標準作業量を基に、施工に必要な実日数を算出いたしております。算出しました施工実日数に準備期間、雨で休んだ雨休率、その他の休日以外の不稼働日、後片づけ期間を計上し、標準工期を算出いたしております。標準工期の合計日数と、これまでの同種類工事の実績日数との比較検討を行い、妥当性などを確認した上で最終決定をしているところでございます。

しかしながら、想定を超える天候不良が続いた場合や、最近では新型コロナ感染拡大に伴う一部資材の納期遅延など、不測の事態につきましては、受注者と工期の延長協議を行うなどの対策を講じております。

今後につきましても、国土交通省の指針を基本とした適正な工期の設定に努めてまいりながら、不測の事態が発生した際には受注者と工期の延長協議を行うなど、工期による受注者に必要以上の負担がかからないよう対応いたしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○総務課長（内村秀次君）

施工時期の平準化についてお答えいたします。

本定例会でこれから提案し、御審議いただきます令和4年度一般会計当初予算におきまして、町道の単独事業につきまして債務負担行為を設定させていただいております。いわゆるゼロ債務負担行為というものでございますが、令和4年度中に入札業者を決定し、令和5年4月当初から工事着工することにより、工期の平準化を図る手続でございます。このことにつきましては、今回の審議で認めていただけましたならば、来年度以降も同様の取組を行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

分かりました。それでは、先ほど建設課長のほうから、天候等を考慮した適正な工期設定の話がありましたけれども、これに伴い、経費等についても考慮されるということでもよろしいんでしょうか、考え方とすれば。

○建設水道課長（入佐和彦君）

御質問にお答えします。

国の基準、県の基準、それに準じて行ってまいりたいと思います。

以上です。

○5番（温水宜昭君）

次に続きます。災害時における官民連携と役場担当課間の調整等についてお伺いします。

役場のほうでもそれぞれ町道とか農地とか分かれておられるようですので、その辺についての連携等についてもお伺いをしたいと思います。また、業者さんたちとの災害協定の締結等をされておられれば、それについてもお伺いをしたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

災害時における官民の連携でございますが、平成24年7月3日に、小林地区建設業協会、高原町水道工事業協同組合、高原町建設業連絡会と災害時における応急対応業務等に関する基本協定を締結いたしておきまして、地震や風水害などにより大きな被害が発生した場合など、応急復旧作業や資材の調達及び輸送などが行われ、公共土木施設等の復旧が行われることとなっ

ております。

以上でございます。

○建設水道課長（入佐和彦君）

御質問にお答えします。

道路や水路、河川、いろいろあります。土木のほうの建設水道課がする場合もあり、農畜産振興課がする場合もありますが、そこは連携を図りながら、場合によっては一緒に現場を調査して早期対応できるようにしております。

以上です。

○5番（温水宜昭君）

役場担当課内の調整は万全ということで受け取ります。

最後になりますけれども、今後、本町でも大型事業等の計画がなされますが、地域産業の育成に向けて、地域事業の参入の在り方、あるいは地域資材、町長が先ほど申されましたか、木質化関係の活用など、今後の町当局の取組方などをお伺いしたいと思います。

○町長（高妻経信君）

まず、私のほうから答弁させていただきますが、公共工事の発注効果としましては、地域の経済を回すという面からいきますと、地域の経済の活性化、雇用の確保、こういったものはもちろんでございますけれども、そのほかに受注する会社や工事に従事する技術者の専門知識の向上や、また、貴重な実務経験にもつながっていくものというように認識をいたしております。

しかし、温水議員から御質問が今出ておりますように、今、建設業、建築、いずれもですけれども、人手不足、後継者が確保できていないというのが一番大きな課題になっているようでございます。

本町も公共工事、いわゆるインフラ的なそういったものを今後も発注をしていきますし、災害時の対応、こういったものを考えますと、町内の業者の皆様には何とか頑張っていたきたいなという気持ちもありますし、また今後、質問にありましたように、大型事業等の計画もありますので、体制を事業者が整えていくということも努力をしていっていただきたいと思っておりますし、町としましても、可能な部分でまた支援を支えながらいければというように考えているところでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

私が業者さんのクラスごとでお聞きして、1,000万円以上と管工事が800万円以上ということで、上限枠はないとのお答えでした。だから、今からそういう大型公共事業等が出たときに、町内の業者を育成する形での支援とは最低限かと考えております。今、町長の御答弁で

前向きな御答弁をされていただきましたので、ぜひそのように実施をしていただきたいと思います。

以上で、地域産業の育成と振興についての質問を終わります。

次に、公共施設等整備の基本方針についてでありますけれど、町長のほうから答弁がありましたが、私も令和3年6月に一般質問の中で、庁舎の耐震判定指標では0.7で、基準は0.6だから耐震性はあるのだらうと思いますけれど、耐震工事に向けて一旦はスタートされたわけです。アスベストがあるから断念して新築というふうになった経緯は分かっておりますけれども、耐震性を考えれば、やはり庁舎のほうの方が先ではという御意見が出るのも当然かと思えます。

ただ、一方、学校等についても、町長が答弁されましたように、「学校のあり方検討委員会」で審議をしていただいて出た結論ですので、そちらのほうになるのではと思っております。

「高原町の公のたてもの整備検討委員会」に審議をしていただいたわけで、妥当であると返事を頂いたようでありますが、「高原町公のたてもの等整備検討委員会」等では、今私が申し上げた意見等はなかったのでしょうか。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

「高原町公のたてもの等整備検討委員会」の審議の中では、役場庁舎を先に整備して欲しい旨の意見等はなかったところでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

私が言いたかったのは、なかったというか、そういう審議でお願いをしたのではないのかなと感じたのですけれど、それでよろしいですか、受け取り方は。

○総合政策課長（馬場倫代君）

令和3年11月11日に、高原町公共施設等の整備の基本方針についてということで答申を受けております。その中では、町が審議しました基本方針については、妥当であるという答申を受けましたが、それに対しまして附帯意見のほうはつけられております。

主なものについて御説明させていただきますが、公共施設整備を確実に推進するため、財源の確保とともに組織体制を整備し、全庁的に連携を密にして計画的に取り組むよう要望する。

○議長（温谷文雄君）

ゆっくり。

○総合政策課長（馬場倫代君）

はい。改めて説明させていただきます。

公共施設整備を確実に推進するため、財源の確保とともに組織体制を整備し、全庁的に連携を

密にして計画的に取り組むよう要望する。次に、学校の統廃合については、地域住民や保護者、学校関係者に丁寧で分かりやすい説明と、情報提供を行い、理解を得ることや、学校の跡地利用については、統合により地域に閉塞感等が生じないように、住民による幅広い地域活性化策が推進されるよう要望する等の附帯意見が出されております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

はい。分かりました。次に、私は令和2年の12月議会で、学校の統廃合計画の質問の中で、教育長が答弁された中で、統合については子供たちにとって一番大事なことを考慮して決定していくとの答弁を頂いたわけでありましてけれども、今回の学校統廃合決定により、児童……

○議長（温谷文雄君）

温水議員。温水議員。

○5番（温水宜昭君）

はい。

○議長（温谷文雄君）

マイクを曲げていただけませんか。

○5番（温水宜昭君）

はい。

○議長（温谷文雄君）

マイクに入らないのです。

○5番（温水宜昭君）

分かりました。すいません。では、再度。私、令和2年12月議会の学校統廃合計画の質問の中で、教育長の答弁で、子供たちにとって一番大事なことを考慮して決定していくとのことで答弁を頂きましたが、今回の学校統廃合決定により、児童生徒さんの最大のメリットは何だとお考えでしょうか。お伺いをします。

○教育長（西田次良君）

お答えいたします。

学校の統廃合につきましては、住んでいる地域に学校がなくなるという事象だけではなくて、地域の活力、郷土愛など、様々な要素が絡む、そして、地域にとっては重大な課題であることは、十分認識をいたしております。

本町は、現在、小学校児童数が436人、中学校生徒数が209人の計645人の児童生徒が学校に通っておりますが、これが令和9年度には、小学校児童数が317人、中学校生徒数が222人の計539人となることを見込まれておりまして、この5年間で児童生徒数が約10

0人減少する見込みでございます。

学校教育法施行規則が定める学校規模の標準がありまして、ここでは小学校、中学校ともに「学級数は12学級以上18学級以下」とされておりまして、これによりますと現在、高原小学校のみが標準学校規模でありまして、近い将来、全ての学校が標準以下となる見込みであります。

学校は単に教科等の知識、技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れたり、認め合ったり、あるいは協力し合って切磋琢磨することを通じまして、思考力、判断力、表現力、あるいは問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせる場があります。そうした教育を十全に行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていることや、あるいは経験年数、専門性、そして男女比等についてバランスの取れた教職員集団が配置された一定の学校規模を確保することが望ましいとされておりまして、私もその認識であり、最大のメリットであると考えております。

学校統合によりまして、1集団による教育の充実、2クラス替えの効果、3指導体制の充実等が図られまして、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、あるいは国家社会の形成者としての基本的資質を養う学校となること。これこそが子どもたちにとって一番大事なことであると考えております。その上で、学校統合を契機に、義務教育9年間の系統性、連続性を意識しました教育課程の編成が行います「併設型小中一貫教育校」の設置が望ましいとのことを教育委員会で決定し、今後これを進めていくものでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

はい、分かりました。

次に、去年の9月議会で、末永議員の質問された中での答弁であります。小学校建設の工事費を30億円の設定、これは設定でしょうけど示されました。概算金額については、基本設計後、今年中になるのでしょうか。概算、予算について、金額についてお尋ねをします。

また、私、去年12月議会の補正予算の中で、基金等の計画についてお尋ねをしたのですが、まだちゃんとした計画ではないとの答弁を頂いたのですが、この概算金額が決まってから事業費が決定してから、その辺について取り組まれるのか。それについてお伺いをしたいと思います。

また、基金等の利用。あるいは一般会計関係の財政調整基金とかその辺も使われるのでしょうか、そういった中で、ほかの事業関係に影響はどのようになるのか、その辺もお伺いをしたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

具体的な金額は、今後の基本設計等において明らかになってきますが、現時点では15億円程度と考えております。財源につきましては、3分の1の5億円を国の補助事業を活用します。また、起債を令和6年度、7年度の2か年間で4億5,000万円借り入れることとしており、償還に対する交付税措置分を除くと、実質約1億5,500万円の負担になると考えております。最後に、残り5億5,000万円については、一般財源でございまして、基金の活用を考えております。

基金につきましては、まず、公共施設等整備基金が、令和3年度末現在高が約4億円に達する見込みでございます。また、令和4年度、5年度の2か年間で1億円を積み増し、5億円を確保したいと考えているところでございます。

また、学校基金につきましては、令和3年度末現在高が約5,000万円になる見込みでございますので、こちらを活用したいと考えております。

次に、他事業への影響でございますが、学校建設に係る財源は、補助事業や起債借入、基金で賄える想定でございます。しかしながら、これだけの規模の事業をやるとなると、他事業への影響が何かしら出てくるのではないかと考えております。また、学校統合後に必要な整備への財源確保の準備も進める必要がございます。

こういったもろもろのことを考えますと、15億円と設定はしておりますが、無駄を省き、可能な限り、抑える部分は抑えた建物となるよう整備を進めたいと考えております。

また、これから御審議頂く令和4年度当初予算に関しても、緊急性や優先性を重視し編成を行いました。学校建設や庁舎建て替え、その他の施設整備等を考えますと、さらなる事業の取捨選択、年次的な取組・整備等が必要不可欠と考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

今のお答えでありますけれども、当初、去年、末永議員に答弁された中では、大体30億円を設定しているのが、結局今の計算では大体15億円ぐらいになるとのことで、確認ですけど、それでよろしいのでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

現時点では、基本設計等が出ておりませんので、ただいま私が申しました15億円になるとは確定はできないのですけれども、今現在考えているのは、15億円程度とのことで考えているところでございます。

○5番（温水宜昭君）

分かりました。

次に、公共施設整備へ向けて、基本方針の中でもありましたけれど、組織体制の整備、あるいは庁舎建替え等の検討は並行しながら進めていくとのことですが、具体的な計画があればお伺いをしたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

公共施設整備は全庁的なことですが、まず学校建設に関しまして、令和4年度以降、教育総務課におきましては、国への補助等の申請協議や、関係機関等との協議など、業務量の増加が見込まれるため、1名の増員を考えております。また、5年度以降、実際に建設準備段階になった場合には、建設業務に特化した人員の配置も考えております。

次に、学校建設に並行しての庁舎建替えの検討ですが、庁舎建替えにつきましては、活用できる起債について償還に対する交付税措置の割合が多い、有利な起債を財源とすることが非常に難しい状況でございます。そのため、現在行っている事業の見直しなどによりまして、一般財源や基金といった自主財源の確保が必要になってくると考えております。

このようなこともありますから、まずは、建設地や既存施設の利活用法など検討を進め、具体的な構想等の検討につきましては、小学校建設と並行して取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

学校建設については、教育総務課を中心に進めていくということで受け取ったのですが、庁舎建替えと並行していくということは、これは財源的なものを並行して考えていくということですか。建物等についての検討とか、そういう部分ではないわけですね。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

まず、検討しなければならないのは、まだ予定地がほほえみ館の付近、あるいは高原小学校の付近とのこと、場所は決まっていないところはございます。また、高原小学校の近くになりますと、学校が統合した後、高原小学校が空き教室になる関係で、活用できる施設があるのではないか検討しないとイケないと。そのような検討をまず進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

今、総務課長が答弁されたことは、その検討は総務課がされるのですか。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

考え方等について、総務課のほうが中心になると思うのですが、それについて、また内部会議であります公共施設等検討本部会議の中で、検討していく流れになろうと考えております。

以上です。

○5番（温水宜昭君）

ちょっと理解ができなかったのですが、公共施設等検討本部で、以前、副町長が庁舎建設部会と学校建設部会があるということをお伺いしましたけれど、この中で審議していくというか、検討していくことでよろしいわけですね。

○副町長（横山安博君）

御質問にお答えいたします。

公共施設等検討本部でございますけれども、全体の会議、そして専門的に検討を進める専門部会、これを設置しておりますので、最終的な全体の会議になるのですが、いわゆる専門的といましようか、部会のほうで詰めて、そして全体の本部会議にかける格好になろうかと思いません。

そして、先ほど申しましたとおり、総務課が財産管理とのことでございますので、総務課のほうが中心になって資料等の作成の運びになろうかと思えます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

自分勝手な考えですが、私、この文章等を見たときに、学校関係については、教育総務課のほうで進めていって、令和7年度までに建設をするのだという理解で、庁舎が並行とのことでありましたので、普通からいけば5年ぐらいかかるわけですね。学校を建てて、同じ検討をしていけば、その後すぐに庁舎とかそこ辺も建つのかなと理解はしておりましたけれど。間違いでありました。分かりました。

次に、平成29年3月に高原町の公共施設総合計画、個別施設計画の見直しを、令和3年度にされておられると思いますが、実施状況について状況をお伺いしたいと思えます。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

個別計画の策定におきまして、当初予算の中で業者へ委託しての策定を計画しているとしておりました。実際、進める中で、現在、職員で行っております。そういった関係もあって、少々遅れている状況でございます。

ただし、年度内には策定を終える見込みでございますので、完成したら、今後、全員協議会等で報告させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

公共施設の総合計画は平成29年に作られて、10年間を目安に計画されたのだと思います。

5年ぐらいで見直しとありましたけれども、主に見直される部分については、何を主体に見直しをされるのか、もしその辺があればお聞かせ頂きたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

総合管理計画の見直しでございますが、先ほど説明しましたとおり、現在、個別計画の作成を行っております。個別計画を反映させたものが、今回見直す総合管理計画になりますので、まず、個別計画をきちんと作成をして、その積み上げが見直された総合管理計画になりますので、そちらにつきましても、現在同時並行で進めておりますので、先ほど申したとおり策定が終わりましたら、議会の皆様に説明させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

それでは、本町では過去に総合体育館、道の駅、庁舎の耐震工事等の計画が、スムーズに遂行されてこなかったわけですが、小学校建設に係る事業費等も大分、大事業になろうかと思えます。この計画を確実に履行するために、何が一番重要か町長にお伺いしたいと思います。

○町長（高妻経信君）

お答えいたします。

ただいまの温水議員のほうから、これまで公共施設等の体育館、道の駅、こういった例を挙げられましたけども、やはり私、何が大事かという話でございましたけども、やはり施設の老朽化、あるいは人口の状況、あるいは住民のニーズ、その時期の財源、こういったものを十分考慮して優先順位をつけながら整備をしていくものであらうと思っております。

しかし、その時期のやはり政策的な考え方というのも当然ありますし、今、例を挙げられました道の駅、こういったものにつきましても、私は、町としては取り組まないという方針でありましたし。また、庁舎につきましても、建て替えという方針を、やはり方向転換をさせていただいたというようなこともございますので、やはりそういったその時期の政策的な考え方、あるいは先ほど申し上げましたような様々な状況を勘案しながら取り組んでいくという中で、今回、今、総務課長のほうから説明申し上げました総合管理計画、個別計画を、今、大きなハード事業に取り組んできておりますので、そういったものを反映したより具体的に近いものになればと考えているところでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

分かりました。

今後、この公共施設等の整備については、公共施設の総合計画でも、すごい金額が出ております。だから、より慎重に進めていただきたいということを要望しまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

10分ほどで始めたいと思いますので、用事を済まされる方は用事を済ませてください。

午後 2時16分 休憩

午後 2時26分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、一般質問を続行いたします。

次に、7番、末永充議員。

○7番（末永充君）

[登壇]

私は、質問通告に基づきまして質問いたします。町長の政治姿勢、行政機能の発揮について伺います。

高原町行政組織規則に行政機能の発揮とあります。行政組織は、町長の統括の下に相互の連絡を図り、全て一体として行政機能を発揮しなくてはならないとあります。行政が抱える問題事項については、職員一体となって取りかかっているらっしゃると思います。

職員の不祥事が度々起きております。町長と職員との隔たりがあるのではないかと、町長の考えをお伺いします。

次に、職員の不祥事、発生時の対応と公表について伺います。

職員に関する不祥事が発生した場合は、誤解や不信を招かないよう、町民に対して適切な対応を取ることが基本だと、私は思っております。また、自治体の重大な危機の一つであると認識しております。

不祥事が発生したら、直ちに第一報を行うこと。事実確認、詳細把握、情報整理、てん末書の取りまとめ、副町長、町長へ報告する。さらに、原因究明、再発防止策の検討及び実施。そして、不祥事の公表となります。

公表については、報道機関を通じて開示し、町民に知っていただくことで、町民への対応と受け止め、真摯な対応を心がけることであると私は思っておりますが、町長の考えを伺います。

次に、産業振興ですが、官民連携について伺います。

官民連携の目的は、官と民間が協働して公共サービスを推進するための方法として、民間の持つ多様なノウハウや技術を活用し、限られた予算を効率的に使い、サービスを向上させることであると思います。そのために、高原町では、5月に地域商社設立に向けて進めていらっしゃいます。大変素晴らしいことだと思います。

具体的な検討も行われ、ワーキンググループにおいて地道な取組もなされていると伺っております。どのような取組がなされているか伺います。

また、高原高校跡地利用として、民間が地域団体に貸出しをされるとのことですが、具体的に伺います。

次に、移住・定住推進について伺います。

雇用確保と定住促進のため、ハローワークと連携し、無料職業相談所が設置されています。また、移住者の定住化を進めるため、空き家バンクが行われています。これも大変素晴らしいこととあります。現在の状況をお伺いします。

以上、壇上での質問を終わります。

[降壇]

○町長（高妻経信君）

[登壇]

ただいま、末永議員から大きく3つの御質問をお受けしました。お答えいたします。

まず初めに、町長の政治姿勢についてということで、この御質問の趣旨は、不祥事が続いている中で、私と職員との連携が取れていないのではないかとというような御質問を頂きまして、隔たりがあるというような御質問でございましたけども。お答えを申し上げたいと思います。議員から御指摘のとおり、行政を進める上では、私と職員が一体となって様々な施策や問題等に取り組んでいく必要があると考えております。

普段行われております課長会や各種会議、打合せ等を行う際には、管理職や担当職員とのコミュニケーションを重視いたしております。また、新型コロナウイルス感染症により、なかなかこういった懇親の場等も、なかなか設けにくい場になっているような状況もございますが、ただいま御指摘がございましたので、私もさらに、そういった面につきまして取り組んでいかなければならないと考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。次に、職員の不祥事発生時の対応というような御質問でございました。

職員に関する不祥事が発生した場合は、迅速な事実確認や情報の整理、上司への報告をしなければならないとなっております。その後、原因を究明し、再発防止策を講じることになります。こういった後の公表につきましては、これまでも個別の事案に関しまして、事案の社会的影響、被処分者の職責等を勘案しまして、懲戒処分の公表指針に基づき公表を行ってきているというようなことでございます。

次の御質問でございます産業振興につきまして、その中の官民連携、また、ワーキンググルー

プに関しての御質問でございましたので、お答えいたします。

御承知のとおり、本町では、少子高齢化、若者の町外流出、雇用の創出などの課題解決に向け、これまでも議会、また、町が一体となり様々な取組を行ってきております。しかしながら、時代の変化や多様性の広がりにはスピードを増しており、さらには、このたびの感染症の影響を踏まえた、現在と今後も課題の数々が複雑化してきているのが実情でございます。

厳しい財政状況下にある地帯では、これらの課題を行政だけで解決するのは難しく、町民の期待に応え、時流に即した形での課題解決や地域の稼ぐ力の向上には、民間との情報連携やノウハウの蓄積が必要不可欠なものと考えております。

そこで、本町では、物産と観光を中心に、様々なまちづくり事業などを展開する地域商社を、令和4年度内に設立することといたしました。

ただいまの御質問にもございましたように、産業振興において官民連携は重要なものであると考えております。民間の方々が有する多様な経験、ノウハウ、技術を生かし、限られた予算での効率化やサービス向上につながるものと考えております。また、そのことは行政課題に対する地域との協働にもつながり、多様化する町民ニーズへの対応など必要不可欠なものとなっております。

そのような中におきまして、ワーキンググループの件でございますけれども。今回、役場の若手職員16名が、昨年の8月から5つのグループを立ち上げまして、地域商社設立に向け事業提案を行っていただきました。テーマは、ふるさと納税、特産品開発、子育て、アウトドア、飲食店の5つに分け、普段の仕事の範囲を超え、町内の事業者へ実際に足を運び、打合せや町民にアンケートなども行うなど、中には、具体的に事業化に向け実際に、既に動き出しているものもございます。

今回はまさに、官民連携の本質的なものと言える、地域にとって必要な課題解決策を、町民や事業者と、熱意ある行政職員が、価値あるものを生み出すきっかけづくりになったものと考えております。

今後、地域商社において、今回提案された企画が一つでも多く実現、事業化につながればと大いに期待をいたしているとおりでございますし、また、楽しみにもしているところでございます。

次に、高原高校跡地の活用についての御質問でございました。

高原高校跡地につきましては、令和3年2月に、県内の企業が宮崎県より取得をされておまして、今現在まで建物の改修、清掃及び敷地造成を行うなど、跡地全体を定期的に活用できるように整備を進めておられます。今回、整備後の跡地の一部について、地元にも使ってほしいというありがたい御提案を受けたところでございます。

町といたしまして、この跡地にある様々な施設を民間企業、地域、行政が連携して活用を推進することによりまして、魅力的な施設利用の展開ができるものと期待をいたしているところでございます。

次に、移住・定住推進についてお答えいたします。

その中の本町に設置しております無料職業相談所についてでございますが、高原町就職移住相談員配置事業として、失業対策や障害者の雇用促進をはじめ、移住・定住者へのサポートを行うために相談員を設置いたしております。

令和元年10月より庁舎内に相談所を設置しまして、窓口における対応者の推移は、数を申し上げますが、初年度に32名、令和2年度には107名、令和3年度、これは年度当初コロナ禍で利用はございませんでしたが、今年の2月末までに55名の方が来所されております。

今後は、アフターコロナも見据え、さらなる求職や求人に関する相談体制の充実にも力を入れてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

ただいまの答弁で漏れておりましたので、追加で答弁をさせていただきます。移住・定住推進の中の無料職業相談所の紹介についてでございます。それと、空き家バンクの件につきまして、答弁させていただきます。

移住・定住の施策につきまして、人口の増加及び地域活性化を目的とした事業に取り組んでおりますが、主なものといたしまして、住まいに関する事業として、移住定住支援交付金及び高原町住宅取得支援金事業や空き家バンク事業がございます。

令和3年度の実績といたしまして、住宅取得支援金を活用された件数でございますが、令和4年3月1日現在で17件でございます。空き家バンクの登録数につきましては、住宅が73件、店舗が2件、土地5件の合計80件となっております。そのうち、現在募集中の物件でございますが、住宅が2件、土地5件の合計7件となっております。

そのほか、国・県の移住支援金事業や地域おこし協力隊の事業なども積極的に活用しております。定住の促進を図るとともに、地域の活性化が図られているところでございます。

以上でございます。

[降壇]

○7番（末永充君）

町長と職員。相互の連絡を図り、行政機能を発揮していただきたいと思っております。

行政機能の発揮について伺いますが、相談内容を的確に捉え、応対する技法や考え方など、行政相談に対応する職員の能力をなお一層向上させる必要があります。行政課題の抽出、能力を発揮するために、職員能力開発をどのように行っていますか。伺います。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

職員の能力開発は、宮崎県市町村振興協会等が主催する研修を活用しながら、職員の能力開発を行っているところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

それでは、次にいきます。

不祥事の再発防止に向けたリスクとその対策について伺います。

不祥事を起こすということは、事務引継ぎがスムーズになされていない。職員の正副の担当が示されていないのか。そのために業務が停滞する。さらに、事務量が増大する。職員の負担が大きくなる。公金管理についても考えられるリスク種類として収納事務、納付額の誤り、収納の誤り、収納の遅延、補助金等の支給事務、支払事務、現金取扱事務、関連団体等の会計事務等が考えられます。

このように、一般事務、公金管理を行う職員の人権意識を問われる不適正な行動などは、引き起こした当事者だけの問題ではなく、職員一人一人が我が事として謙虚に、真摯に受け止めることが必要であると思います。職員を組織的に支援する仕組みがなされているのか伺います。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

不祥事再発防止に向けた対策についてでございますけれども、職員を支援する仕組みといたしましては、コンプライアンス研修を実施してまいりまして、不祥事の再発防止に努めております。直近の実績では、昨年度は弁護士を講師に招き、本町が独自に開催しまして、25名の職員が受講しております。

本年度におきましても、市町村振興協会主催のコンプライアンス研修を本町で実施していただき、21名が出席したところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

不祥事の公表について伺います。

一般的に見て、不祥事の公表については、対応の仕方、町長の考え方が私と相違があります。公表が遅いと思います。不利益を受けられた方を守るのが町長ですよね。不利益を受けられた方より適切な事務処理を行った職員を守るようではいかがなものかと思います。公表が遅過ぎると思います。町民に寄り添っていかねば職員はついていけないと思いますが、町長の考えをお聞きします。

○町長（高妻経信君）

不祥事があった場合の公表が遅いというような御質問でございました。この公表につきましては、職員の懲戒処分等があった場合の公表指針を定めておりまして、それに基づいてこれまで公表をしておりますし、今後もこの指針に基づいた公表をしていくことには変わりはありませんけれども、これまでも様々な案件の中、そういった迅速な公表に努めているところでございますけれども。事案によりましては、当事者、その相手方、あるいは関係機関等との調整も必要になってくる場合もありますし、町としては、こういった案件につきまして、弁護士等にも相談をしながら進めていることもございます。

そしてまた、処分が伴います場合には、懲戒処分に係る審査会の開催。こういった手順を踏みながら、やはり慎重に公表をいたしているわけでございますけれども。基本的には、可能な限り迅速に、そして広く公表することで、マスコミあるいは町のホームページ、こういったものを活用して公表をいたしているところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

不祥事の再発防止のための行動指針について伺います。

不祥事の防止に向けた基本的な意識と取組がなされていないと思いますが、行動指針がありますか。お伺いします。

○総務課長（内村秀次君）

お答えいたします。

令和2年10月に不祥事再発防止のための行動指針を策定いたしまして、全職員へ配付し、研修会も行ったところでございます。この行動指針の中で、高原町職員の心得を5項目定めており、名札ケースの裏のほうに入れて常時携帯しているところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

名札の裏ということで、全て職員の方々がされているということでもありますので、行動指針とともにいろいろ配慮していただきたいと思いますが、都合の悪い情報を隠して、報告を先延ばしせずに、「町民に信頼される職員、町民の立場になって考える職員」であるために、再度検討していただきたいと思います。

次に、産業振興について、官民連携についてお伺いします。

観光を生かしたまちづくりとして、高原町の産業官民連携推進官の研修、講演にもありました。あるもの探し、発想の転換、官民連携で新たなイノベーションを、私もそう思いますし、地方創生には、お役所仕事というか、箱物行政から民間でいうところの徹底的な実践主義であり、成果の検証であると思います。職員でのワーキンググループでの発想から、今後期待したい

と思います。ワーキンググループでの事業創造について事例があれば伺いたいと思います。

また、地域資源を生かした地場製品の開発はありますが、具体的にどのような開発でしょうか、伺います。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

ワーキンググループにつきましては、先ほど町長の答弁にございましたとおり、5つの班に分かれて発表がなされました。

まず、1つ目でございますけども、ふるさと納税班。こちらのほうにおきましては、「ふるさと納税寄附金額4億円を目指すために」というテーマで、女性向けの返礼品開発などについて提案がなされてところでございます。

2つ目でございますけども、特産品開発班でございます。こちらにおきましては、「サラダチキンからつなぐ高原プロテインプロジェクト」というテーマでございまして、名前のとおり、高原町産のサラダチキンを商品化につなげることでございまして、これは、先ほど町長の中にもございましたとおり、今、業者と具体的に話を進めている事案の一つでございます。

3つ目でございますけども、子育て班でございます。こちらのほうでは、「高原町子育てサポーターアプリつながる」というものを開発や運営事業というテーマで提案がなされまして、子育てをしている方々の情報発信について提案がなされたところでございます。

4つ目は、アウトドア班でございます。こちらは、「唯一無二の地域資源を生かしましたまちづくり」というテーマで、全て地元のものを使って、御池で結婚式を挙げてはどうかとか、あるいは、キャンプグッズを作ってはどうかのような提案がなされたところでございます。

5つ目が、飲食店班から発表がございまして、「高原つながるカフェ」と、こちらの設立計画がテーマで発表されまして、30代の働く男性や女性の方々をターゲットにしたカフェ事業の展開について提案がございました。

こちらもふるさと納税のことなど、そのまま生かしていけるものもございますので、随時、地域商社等でやっていけるようになればと考えているところでございます。

次に、地域資源を生かした地場製品の開発とのことでございますけども。地域商社につきましては、まず、ふるさと納税の推進と特産品の開発、こちらをまず手をかけていきたいと思っ

ているところでございます。地域商社内では今、組織内に「特産品企画部」を設けまして、2つのその事業を特化して進めていこうと考えているところでございます。

ふるさと納税におきましては、御承知のとおり、御寄附を頂いた方々への返礼品がとても重要なものでございまして、高原町のPRはもとより、寄附額の増、関係人口の増、つまり高原町

のファンの増に直結するものと考えております。

その主軸になるものは、今、御質問にございましたとおり、地元の地場産品。特に農畜産物を活用しました加工品等の開発が大事になると思っております。

今後は、J A、商工会、農家、事業者の皆様と連携しまして、作付け品目の増。あるいは、加工品の開発を進めていければと思っているところでございます。

しかしながら、作付けの品目の増や、商品化には若干時間がかかります。まずは、今地元の皆様が作っていただいているこの返礼品。これを組み合わせてのセット品目を増やしたりしながら、力を入れていきたいと思っております。

まずは、地域商社におきましては、このようなことから、町内のふるさと納税の返礼品を作っている事業者や農家さん。この皆さんのところを一軒一軒伺いまして、御意見や御提案を承りながら、事業に生かしていければと思っているところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

ワーキンググループ、5項目ありました。非常に素晴らしいことだと思いますし、職員の発想といえますか、いろんな発想の転換、官民連携で新たな商品開発、地場産品の開発とどのような形でセット品目も増やされるとのことで期待をしたいと思えます。

次に、関連するのではあります。高原高校跡地の利活用について伺います

高原高校跡地利用として、高原町としては、以前は県に対して利用しないとの方針を出されました。その後、民間に移行され、民間での発想にて廃墟とした校舎が一部活用できる状況になっております。地域団体も見学され、民間として利用してくださいとのことで言われて伺っております。

上麓区民としては、やはり利用したい。区長さんも公民館という形で利用させていただきたいとのことなのですが。維持管理が管理規定など、まだ問題があるのではないかと思います。町としてどのように整理されているのか伺います。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

高原高校跡地の利活用の考え方についてでございます。

まず、所有者であります民間企業から伺っている内容としましては、対象とする施設につきましては、管理棟、普通教室棟、体育館、グラウンド等ございまして、管理棟の一部を、今現在、所有者である民間企業が事務所として使用する以外は、地元を活用してほしいとのことでお話を伺っております。

現在、先ほど議員の御質問の中にもございましたが、地元の上麓区をはじめとします地域住民

の方や、スポーツ・文化団体、老人クラブなど各種団体に利活用の意向調査を今、行っておりました。活用したいとの団体が数団体はあるようでございます。

町といたしましては、利用の希望のある施設につきましては、地区公民館または体育施設などとして利活用していきたいと考えております。

跡地の利活用できる施設につきましては、公益のため使用するものとして期待されておりました。これから、町と所有する民間企業との間で、利用に関する基本的事項を定める「覚書」の締結をしていきたいと考えております。

また、施設の管理運営につきましては、利用する団体、所有する民間企業、また、町で構成されます運営協議会がその管理運営を行う予定でありまして、使用料等につきましては、今後、その中で協議する予定でございます。

施設の利用規約等につきましては、公共施設の管理規則等を参考にして所有する民間企業と協議しながら作成し、今後、運営協議会で決定をする予定でございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

私は、まず、いろんな地元の方が聞いているのですよね。町は整理をしてから地元を下ろしたほうが良かったと思うのですよね。この運営協議会とはどういう協議会なのでしょうか、お伺いします。

○町長（高妻経信君）

私のほうから、ただいまの御質問にお答えしたいと思います。これまでも、町に対して、県のほうから高原高校跡地を購入していただきたいとの申し入れはございました。しかし、その時点では、秀峰高校の実習時で使う以外の土地建物全てを、県としては町のほうに購入していただきたいという申し入れでございました。その施設がかなり広い施設でございまして、建物も耐震が管理棟、校舎の一部がされておりますが、ほかはされていない。それと、町の財政的な面、いろいろそういったものがありまして、町としては購入しなかったと。しかし、その時点で、様々な活用方法については、内部で検討したことはございました。

結果的には、町としては購入しなかったということでございますけども。今回、去年の2月に県内の企業が一括購入をされた。これは、経緯としては、その企業が、これまでもその企業の方針として、やはり地域に貢献をしていくことが基本的な方針でございまして、今回の高原高校についても、そのようなことから、使える施設については、高原の活性化あるいは地域振興のためにぜひ、活用していただきたいと申出があったことで、町としては、そういった部分ではありがたい話であると感じておりました。ましてや、今の使える施設について、その企業のほうで中の清掃をされたり、あるいは、外壁の塗装のやり直しとか、そういったことをして

いただいておりますし、今後、協議会を立ち上げ、あるいは、企業との「覚書」を締結いたしますけれども、詳細はそういった中で様々な、決めていくことになるかと思っておりますので。今後また検討をしていきながら、できれば町の様々な団体の利用、そういったものが図れればと考えております。

○7番（末永充君）

運営協議会で、今後検討されると思います。私、そう見解を受けました。

5月に事業開始予定である奥霧島地域商社「ツナガルたかはる」株式会社においても、地域資源を生かした地場産品の開発などをされることで、なおさら、高原高校跡地に会社を設立されるとよいのではないかと私は思うのですが、見解をお聞かせ願えないでしょうか。

○町長（高妻経信君）

この高原高校跡地の施設の中で、今、質問にございました地域商社として使える施設がないかと。

まず、事務所に関しましては、町の遊休施設でございます空き家を、現在、事務所としては使うことになっておりますし、しかし、このほかの施設を見てみますと、例えば加工施設等も、まだ機械等もまだ残っておりますし、そういった意味では、使えるものがあるかもしれないと。しかしまた、これは、地域商社が立ち上がってから、そういったものを活用していくかどうかは検討をするべきだろうと考えております。

以上です。

○7番（末永充君）

町民の方々がスポーツ団体ですけれども。私のほうに、高原高校の体育館施設を使用させてほしいと町民団体から伺っております。ほかにも使用したいという団体がいらっしゃると思うのですが。どのような地域団体がいらっしゃるかお伺いします。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

想定される利用者についてでございますが、先ほど出ております上麓区をはじめとします行政正区班、また、スポーツ協会、スポーツ少年団、文化団体、ボランティア団体、また、各サークル等、個人も想定をしているところでございます。

以上です。

○7番（末永充君）

高原高校と、旧の高原高校ですけれども。今、民間に移行されていますが、やはり行政が関わらないといけないと思います。何らかの形でしていかないと。町民の方々もそういう声は出ておりますし、今後、行政と民間相互の官民連携という形で進めていかなければならないと思

ますが、町長の考えを伺います。

○町長（高妻経信君）

まず、今回のこの企業さんからのお話といたしますのは、先ほど私が申しあげましたように、高原高校の歴史的な経過、高原町のある西諸管内卒業生も多くいらっしゃいますし、やはり町民に長く親しまれた県立高校であります。そういった意味も含めて、企業さん側は、使っただけなのであれば使えます、可能ですよということで、そういったありがたいお話を頂いています。

そこで、やはり町としては、町が直接その施設を借り上げてということではなくて、当然、町も中に入りまして、様々な手続等もございますので、入って、町内の民間団体、そういったことを中心にその協議会をつくりまして、管理もしていただきながら、その企業さんのほうから借りていくと。そして利用するような、現在ではそういった考え方でございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

以前は、高原町は、高原高校跡地は使わないということであったわけですね。民間のノウハウを生かした形で、今、きれいになっているし、町民もそれを望んでいることで、状況が変わったことであると思います。状況が変わったから、協議会設立ということで、町としても、町民に対してはどしどし使っていただくような考え方でよろしいでしょうか、伺います。

○町長（高妻経信君）

この企業さんのほうも、そういったような活用を望まれております。したがって、今後、運営協議会を設置するに当たって、該当するような団体がそういった趣旨を理解していただいて、そして、協議会に加わっていただければ利用できるということですので、現実にはそういった考え方で進めたいということでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

協議会のほうで十分検討していただいて、町のほうも連携プレーでお願いしたいと思えます。

次に、移住・定住推進についてお伺いします。

雇用の確保については、ハローワークと連携し地元企業により募集など、また、工業団地での企業進出など雇用確保に努めることが図られています。しかし、企業だけではなく、新たな農産物の確保をして雇用の確保が誘導できないか伺います。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

ただいまありました農産物の確保についてでございますけども。全国の過疎地域や、中山間地域でございますけども。移住者確保に向けて雇用の確保に奔走されております。特に地方におきましては、農業を魅力ある職場にしよう、雇用に創出しようということで、活性化に結びつけていこうという取組が非常に多く出てきております。

先ほど来、末永議員様のほうからお話がありますとおり、農業のほうにも官民連携という流れが出てきておりまして、JAや金融機関、行政等と一緒になりまして担い手不足や、地産地消の推進などを、そのノウハウ、人脈等を利用して仕組みづくりが重要になってきていると考えております。

例えば、企業や学生の方々を農業に支える仕組みづくり、新規就農支援、販路開拓、そしてこの農産加工。これがまさに官民連携による農業の活性化、雇用の創出につながると思っております。

今回、設立を目指しております地域商社におきましては、農畜産物を中心とした展開を考えておりまして、加工品にしやすい品目。例えばですけども果樹、果物類。こちらに向けました事業展開、構築について調査検討に入っております。

また、お話にありましたフリーウェイ工業団地の企業誘致におきましては、令和3年度より宮崎県の企業立地課と協議をいたしまして、食品関連企業、こちらにターゲットを絞って企業誘致に入っております。現に、業界雑誌のほうに、今回、PR広告を載せたところ、もう既に問合せが来ている状況にもございます。

いずれにいたしましても、本町の基幹産業でございます農畜産業、これの雇用確保に向けましてJA、商工会、観光協会と連携して、高原町の地域資源、地場産品を新たなビジネスに結びつけるように農産加工品の製造分野、観光関連分野にも波及できるように仕組みづくりをしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

農産物の加工にぜひとも進めていただきたいと思います。

次、私、高原町の新築住宅を考察してみました。現在と平成30年度を比較すると、新築住宅の確認申請の着工数ですが、高原町はあまり変化がないようでございます。これは、数字でいいますと、令和3年の4月から令和3年の12月まで、23戸建設されております。これは確認申請の数字ですが、確認申請がないものについては、また、まだこれ以上にあるかもしれませんが、そう推移が考察されました。

高原町では、広原地区に定住促進を図るために、定住促進住宅を4棟建設されていますが、残り4区画あり、町としても定住促進が進んでいません。一方、上麓の荒迫に9つの分譲が建設

されました。分譲地については、条件が良かったのか住居者がすぐに決まり、定住化が進みました。立地条件も良かったので定住促進につながりました。福澤議員も同様な質問がなされましたけれども、広原地区も今後、分譲地等として検討してみてもはどうでしょうか。お伺いします。

○町長（高妻経信君）

この広原地区の定住促進住宅につきましては、午前中、福澤議員の御質問にもお答えいたしましたけれども、この4棟で今見合わせている状態でございますけれども、これ以降の建設の予定はしておりません。

このあと4区画の土地が、今、御質問にありましたようにあります。この用地の取得、あるいはこの造成につきまして補助金、あるいは起債をしておりますけれども、こういった補助金の関係、あるいは起債の償還等の関係がございまして、現時点ではほかの目的には使用されないという、現状ではそういう状況でございますが、いずれは私としましては、やはりそもそもの目的が移住定住ということで造成をいたしておりますので、そういった末永議員から今御質問がありました内容も含めて、いずれかの時期にはそういった移住定住に関する活用をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○7番（末永充君）

私は分譲地等と言いましたが、いわゆる社会福祉団体、定住希望者へ宿泊体験して、そして活用して活性化を図る方法もあるのではないかと思います、その起債の関係もあるでしょうけれども。新たな、4区画が残っていたら、方向転換をする必要もあるのではないかと質問をさせていただいたわけです。

次に、空き家バンクについて伺います。移住希望者、定住希望者に対して空き家物件に関する情報の提供を行って、物件の賃貸または売買促進し、空き家の有効活用を図ることが空き家バンク事業ですが、空き家バンクについてどの程度進めているか、具体的にどういう形で進められているのか伺います。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

空き家バンクにつきましては、現在、ホームページやパンフレット等で紹介を行っております。また、本年度におきましては、固定資産の税情報を通知する際に、空き家バンクのチラシを同封して周知を行ったところでございます。

以上でございます。

○7番（末永充君）

隣の都城市ですが、空き家と一緒に附属する農地も取得できる制度にしてある、本町としてはそういう農地も取得できるような、田舎暮らしを希望される移住者にとって土地との関わりは魅力的であると思いますが、農地を取得したいという移住者はいらっしゃるか伺います。

○総合政策課長（馬場倫代君）

御質問にお答えいたします。

まず、本町におきましても、農地等を含め空き家バンク登録は可能となっております。これまでに、農地付きの物件を取得したい移住者の方、年に数名いらっしゃいます。これまで、既に農地付きの物件として、賃貸で2件、売却で2件が成約済みとなっているところでございます。以上でございます。

○7番（末永充君）

高原町の公共施設、病院住宅地も空き家でありと、そのような住宅も今後検討していただき、官民連携をしながら移住定住に取り組んでいただきたいと思います。

これをもちまして、私の質問を終わります。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

10分ほど休憩したいと思います。

午後 3時21分 休憩

午後 3時30分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、一般質問を続行いたします。

次に、9番、前原淳一議員。

○9番（前原淳一君）

[登壇]

通告に沿って、質問をいたします。

まず初めに、庁舎建設についてですが、現在、小学校建設の計画がスタートしたばかりで、基本計画及び基本設計が策定されるころだと思います。今後、令和7年度の完成を目指すわけですが、その間に庁舎建設の計画についても進めていくべきと考えますが、見解を伺います。

なお、温水議員と重複をいたしますが、再度お聞きをいたします。

2つ目に、町立病院について、特別委員会提言後の取組及び今後の運営方針について伺います。私ども町議会では、令和3年6月28日に町立病院の在り方や運営等に関する提言を行ったところです。昨年、12月議会にて同様の質問をいたしましたけれども、再度伺います。

提言の中でも、2番目の医師をはじめスタッフの確保。3番目の今後の病院を取り巻く環境の

変化を見据え、経営形態等について研究していくこと。4番目の職員のモチベーションの維持、向上につながる環境整備を行う。これらについてどれだけの研究がされ、変化があったのか伺います。

3番目に、歩道の危険箇所について伺います。

点検及び調査についてですが、現在、町内の歩道の状況について、高齢の歩行者にとって危険と思われるところはないか。把握をしておられるならば、どのような対応をされているのか伺います。

4番目に、高齢者の相談窓口について、困り事相談の現状について伺います。

現在の相談の窓口はどのような形態になっているのか、あるいは相談を受けたときの処理の方法はどのようにされておられるのか伺います。

また、相談者の年齢や相談内容など構成の分析はされているのか伺い、1回目の質問を終わります。

〔降壇〕

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

ただいま、前原議員から大きく4つの御質問をお受けいたしました。

まず初めに、公共施設についての御質問にお答えいたします。

昨年11月に定めました「公共施設等整備の基本方針」に基づき、現在、小中一貫教育を見据えた小学校の建設に係る業務を優先的に進めております。

このような中、現時点で小学校建設費用を概算で想定しての補助事業費や、庁舎建替えにつきまして、活用できる起債等を調査いたしているところがございます。この起債につきまして、償還に対する交付税措置の割合が多い、有利な起債を財源とすることが現時点では難しいと捉えております。今後、事業の見直しなどにより、一般財源や基金といった、自主財源の確保が必要となってまいります。

このようなことから、まずは庁舎の建設地や既存施設の利活用など、具体的な構想等の検討につきましては、小学校建設と並行して取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

次に、町立病院の特別委員会の提言後の取組及び今後の運営方針についての御質問でございました。

町立病院の経営規模縮小化につきましては、12月議会で答弁をいたしましたとおり、令和4年4月より、病棟におきましては、現在の病床数の56床から17床を休床といたしまして、39床に変更いたします。また、外来につきましては、土曜日の午前中の診療は継続し、さらなる充実を図り、木曜日午後の診療を休診といたすものでございます。

具体的な取組といたしましては、木曜日午後の診療の休診による医師の体制の見直しや、現在

のコロナ禍における外来患者の減少に伴い、看護師の配置を見直し、退職者を不補充としたところでございます。

今後の方針につきましては、経営改革を進めるに当たって、国や県はもとより、西諸医療圏域の小林市、えびの市及び各公立病院をはじめ、西諸医師会やその他関係機関等との調整が必要であり、慎重に取り組んでいかなければならない状況でございます。

このようなことを踏まえまして、さらなる規模の縮小に伴う見直しにつきましては、町立病院における患者数の動向や医師確保の状況、さらには町財政状況等を慎重に見極め、必要に応じて検討してまいりたいと考えております。

ただいまの御質問の中で、提言の3項目につきましての御質問がございました。

まず、2の医師をはじめスタッフの確保という内容でございますけれども。現状としましては、医師体制につきましては鹿児島大学、あるいは宮崎大学の派遣もありまして、今、医療を継続できておりますが、今後、令和5年3月に常勤医師1名が定年退職をいたします。また、今後、医師の働き方改革等も開始されること。こういったことを考えますと、医師の確保は非常に難しくなるというようには考えておりますが、しかし町立病院といたしましては、この医師確保を最重点課題と捉え、この確保に引き続き努めてまいるのでございます。

3の今後の病院を取り巻く環境の変化を見据え、経営形態等についての研究を続けていくというような提言内容でございますけれども。これまで前原議員のほうから御質問がございましたけれども、地方公営企業法の税務適用、あるいは地方独立行政法人への移行、こういった経営形態の見直しにつきましては、今後も比較検討をしていくことは十分必要であると考えております。しかし、現時点ではコロナ禍における医療体制の確保等を優先的に考えてまいりながら、今後の課題と捉えているところでございます。

次の、4の職員のモチベーション維持、向上につながる環境整備というような提言内容でございますが、この病院の職員、これにつきましても現在の経営状況は十分把握しているというように考えております。この厳しい経営環境、またさらに、このコロナウイルス感染症対策ということで、非常に病院の職員も今厳しい中で日々業務に励んでおりますが。やはり今、必要となります、やはりこのそうでありながらも、一人一人がこの町民の命と健康を守っていくと、よく言う強い使命感を持っていただきたいと思いますと考えております。

これまでは病院元気化プロジェクトの中でも様々な御意見も出されておまして、そういったものを病院の改善につなげておりますし、また、病院では職員が出席をいたします職場を語る会などを開催しながら、お互いの意見交換等を行いながら、職員同士の気持ちを一つにしながらこの診療提供に取り組んでいるというような状況でございますので、職員それぞれのモチベーションを今後維持していくということは非常に大変な中ではございますけれども、私自身も

そういった部分で推進をしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。
次に、歩道の危険箇所についてという御質問にお答え申し上げます。

現在のところ、歩道に特化した点検・調査というものは実施いたしておりませんが、毎年実施いたしております通学路の合同点検会議にて、各小中学校や保護者の皆様から情報提供や要望が上がってきた箇所につきましては、現地を調査し、改善策を講じているところでございます。また、現在、定期的に職員による道路巡視を実施いたしておりますが、今後は歩道につきましても道路巡視時に並行して点検を行い、子供から高齢者まで利用する全ての方が安心して通行できますよう、より一層、点検・調査に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

次に、高齢者の相談窓口についての御質問にお答えいたします。

現在本町では、高齢者に限定した相談窓口は、特別、設置はいたしておりませんが、特に高齢者関係の相談が多い、ほほえみ館について述べますと、令和2年度より高齢者福祉部門関係の相談については、ほほえみ館の高齢者あんしん係に事務を移管し、対応を行っているところであります。

しかし、高齢者あんしん係では対応できない相談等も中にはあるため、その場合は関係する他の部署と連携を取り合いながら適宜対応いたしております。

また、逆に他の部署からの相談や問合せを受けることもあり、相互に連携、協力しながら対応いたしているところであります。

高齢者あんしん係で受け付けております、主な相談内容といたしましては、介護保険に関すること、認知症に関すること、そのほか、健康や生きがいに関することなどが多いようでございます。件数を申し上げますと、令和2年度が延べ5,222件の相談を受けております。また、令和3年度2月まででございますけれども、延べで4,048件の御相談を受けているようでございます。

主な相談者につきましては、本人あるいは家族となっており、その相談の手段は、電話による相談が約半分を占めているところであります。また、相談の対象者を男女別で見ますと、女性が男性の3倍ほどの件数となっており、毎年同じような傾向となっているようでございます。

以上でございます。

〔降壇〕

○9番（前原淳一君）

まず、公共施設、庁舎建設ですけれども、優先順位、本来ならば庁舎建設が、先に来るはずだと思いますけれども、やはり庁舎の建設計画、立地、建設場所等々の問題もあって、小学校建設が先に来たのだらうと認識をしております。

そういった中で、町民の方から庁舎建設を急ぐべきという声が多くあります。町長も承知をしているとのことですけれども、小学校建設は建設で進めながら、庁舎は庁舎で建設予定地としてはもう候補地があるわけでしょうから、その庁舎建設についても事務的なこと、できること、あるいは基本計画と設計まで進めることはできると思うのです。うまくいくのであれば、同時進行的に、事務的に庁舎建設は進めていながら、学校建設が終わるとすぐに、庁舎建設に着工できるような体制づくりはできないのか伺います。

○町長（高妻経信君）

この庁舎建設に関しまして、県内、あるいは全国的な様々な例を見てみますと、やはり構想を立てるまでに住民への説明、あるいはそういったものを含めて、やはりこの具体的な準備にかかるまでに住民の声を聞くということ、それと場所についても当然そういった住民の意向等の調査もする必要があるかと思えます。そういった面を考えますと、やはりこの学校以上に、学校はもう建設場所を決定いたしておりますが、庁舎については今後その建設場所を、先ほどの御質問にお答えしましたように、ほほえみ館、あるいは小学校、高原小学校隣接地というような、現時点ではそういった考え方をいたしておりますので、まずそういった事前の準備段階といえますか、そういったものについてはできるだけ早いうちに始めていかなければ、やはりこの庁舎の建設までは相当年数かかるだろうと思えますので、まずはそれを、小学校の建設を令和7年度までに完成を目指しておりますので、当然それらと並行してそういったものは進めていくべきであろうとは考えております。

○9番（前原淳一君）

震度6クラスの地震で、この現庁舎は倒壊のおそれがあるとしているわけですが、ひょっとするとそれ以下でも壊れるかもしれません。あるいは震度7でも倒壊しないかもしれない。それは分からないわけですけれども、万が一、最悪の場合には、職員に多くの犠牲が出ることも予想される。こういったことは再三、以前から申し上げているのですけれども、そういったことを考えると、やはり計画の前倒しが望ましいのではないかと考えております。

極端な話なのかもしれません。小学校建設が終わって、翌年には庁舎建設、なかなかそう簡単にはいかないのは、財政的にも厳しいということも承知をしているわけですが、やはり職員の命がかかっていることを考えれば、少々は無理をしてでも進めるべきと考えますが、再度伺います。

○町長（高妻経信君）

ただいまありましたように、この庁舎については耐震性がないということになっております。しかし一方、学校につきましても、例えば高原小学校で一番古い校舎が、昭和38年代後半に建てられた建物があるわけですけれども。一応、耐震工事はしておりますけれども。本体部分、

いわゆる躯体部分といたしますか、当然これも寿命があるということもありまして。そして実際、子供たちが使っている状況を見ますと、やはりもう非常に劣悪な環境にもございます。そういったもの等を勘案して、今回、これまでも説明いたしましたように、建物整備検討委員会でも学校のほうを先に整備するという結論も得ておりますので。しかし今、前原議員からございましたように、当然、町民の中には庁舎を優先すべきではないかという意見も当然あるかと思えます。この庁舎について耐震がないということで、いつ何時、大きな地震が来るかということも当然想定されますけれども。私としても小学校を、学校建設を優先しながら、そして役場の利用については、今ご提案がありましたように、そういった何らかの自然災害等に備えた部分も必要ではないかなと。いわゆるその避難訓練とか。そういったものも必要かなと。それと、災害時の災害対策本部につきましては、これまで議会で説明を申し上げましたように、ほほえみ館に移すというような体制が取れておりますけれども。実際、危険な建物であるということを考えますと、今、ご提案がありましたように、可能な限り早いうちに着手して、また、当然財源的な面がございますけれども、今、ご提案のあったことも考慮しながら計画を進めていかなければならないと考えております。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

〔「マイクを正面でお願いします」と呼ぶ〕

○9番（前原淳一君）

つい最近も日向灘地震もありました。また、南海トラフ等もマスコミ等で盛んに言われておりますけれども。そういったこともしっかりと勘案しながら、計画を進めていっていただきたいと思えます。

また、公共施設については温水議員と重複しますので、あとは割愛をさせていただきます。

次に、町立病院についてですけれども、病床数が39床になることで、現在はコロナ禍ということもあって、看護師削減ということにはなかなかならないと思えますけれども。これも中村議員のほうから質問がありましたけれども。看護師の余剰者といたしますか、処遇についての考え方について伺います。

○町長（高妻経信君）

この看護師の処遇というような御質問でございました。これはこれまで議会でも、病床数の休床という、私のほうから説明をした答弁の中で、現在、今御質問にありましたように、どうしてもコロナへの対策、まだ終息が見えない中で、町立病院も今、協力医療機関として受入れ機関となっておりますけれども。現状ではやはりコロナ対策という公立病院の役割、使命、こういったものをやはり重視したいと考えておりますので、現時点で職員の処遇をという、あるい

は職員の削減をということには、現時点での私としては、しないというように考えております。以上でございます。

○9番（前原淳一君）

分かりました。医師不足についてですけれども、先ほどの御答弁の中でなかなか厳しいものがあるということでしたけれども。医師確保について努力をするという。口で、医師確保というのは簡単なのですけれども、なかなか実際には、思うようにいかないのが現実ではないかと思うわけですが、来年度中に確保の見込みはもう全くないのか、それともあるのか、再度伺います。

○町長（高妻経信君）

この医師確保ですけれども、私、先ほど最重要課題と申し上げました。令和5年3月をもって1名の常勤医師が退職をされるわけですが、それを考えますと、来年度の可能な限り早いうちに確保をしていくことが目標であろうと考えております。やはり医師確保となれば、町立病院の現状をよく理解をされて、特に高原町にゆかりのあるそういった強い気持ちを持った医師が確保できればというようには考えておりますけれども。現時点では非常に困難を極めているというような状況でございます。

以上でございます。

○9番（前原淳一君）

病院の運営方法なのですけれども。町長として病院の形態について、病院にこだわっているというようなことはありませんか。例えば診療所も医師がいなくなれば、当然、診療所、有床ですけれども。となることも想定しながらの考えですけれども。

○町長（高妻経信君）

ただいまの具体的な有床診療所という御質問でございましたけれども。一つの病院経営の経営形態といいますか、病院そのものの運営という形でいきますと、その有床診療所という形は当然あるわけですが、現時点で経営形態を含めまして、その手段としてはあるということとは十分認識いたしておりますが、現時点でそのことを検討しているということではございませんので、御理解いただきたいと思います。

○9番（前原淳一君）

残り1年で現在の医師が1名不足するということは、もうはっきりしているわけですし、医師確保ができない場合は、当然、診療所にならざるを得ないわけです。

私個人としては、診療所でも構わないと思っています。これは以前にも申し上げましたけれども、要は、高原町に病院あるいは診療所を必ず残すこと。これが最低条件だと考えています。国の再編統合の一つの考え方の中で、病院に今行くのに、車で20分で行けるということが基

本になっていると思います。そういったことを考えると、高原の町民の方々は、隣の小林市の病院。あるいは、医院に通うには大体20分ぐらいで行ける範囲内だと考えています。

しかし、中には車に乗れない人等の交通弱者。体の不自由な人も多くいると思います。そういった方々の診療を親身になって診ていく、問題はそこだと思います。そういった診療所についての考え方について、1年後、医者が定足数に足りなくなったときに考えるのではなくて、事前に計画をしていく、考えていくことが大事だと思います。その点について伺います。

○町長（高妻経信君）

先ほど答弁させていただきましたように、有床診療所というものが、そういう病院の運営形態があるという認識は十分にいたしております。その中で現在、新型コロナウイルスの感染症対策。それと病院の患者数の動向、医師の確保、こういったものを含めてあるいは町の財政状況、こういったものを総合的に見極めながら検討すべき課題であるという認識は持っております。以上でございます。

○9番（前原淳一君）

診療所だから患者数に限りがあるわけでもないし、今後で一番の問題は、病院にとっても財政的なものが大きいというように思います。公立病院は民間と違って、職員の給与は能力主義ではありません。こういったことを考えても、これからも年々人口減少は続いていくわけですから、考えていくべきであると思います。

三股町の町立病院は閉院となったわけですがけれども、この時の看護師の処遇についてお話を伺ったことがあります。この時の三股町の考え方としては、看護師の免許をっておるということ。そしてパソコンができることで、福祉関係で即戦力となって助かったと聞きました。その分、看護師を引き上げた分、新規採用者を控えて対応していったということです。医師確保が本当に厳しいのであれば、そういった看護師の処遇といったことについても考えておくべきだと思いますがいかがですか。

○町長（高妻経信君）

ただいまの前原議員からございましたように、そういったような状況になった場合、当然、病院の看護師、そういったスタッフも町の職員でございますので、当然そういった今の現在の役場の職員等と同じような扱いになるわけですので、今、三股病院の例を挙げていただきましたけれども、そういった状況に、当然そうなった場合は、そういうことも想定されると考えております。

以上です。

○9番（前原淳一君）

また、三股町では閉院する前に、町内の出身の医師に、三股町の病院を無償で貸し出すから引

き受けてくれないかという提案をされたということで、公募をされたようですけれども。残念ながら三股町の場合は、病院が建て替えの時期にきているというようなことで、新しい機器の設備も設置ができないというようなこともあったようでして、実現できなかったのですが。本町の病院でもそういったこと、財政的にも今のようなことではなかなか経営が成り立っていないということもありますが、三股町と同じような考えで、町内出身の医師にそういう提案はしようというようなことは考えないか伺います。

○町長（高妻経信君）

私も三股病院の件は話を伺ったことがあるのですけれども。今おっしゃったような方法は確かに一つの方法でありますし、全国的に指定管理者を導入したところもございます。様々な病院の経営の意向というのはあるというものを認識いたしておりますが。今、その具体的な方法をここで私がまだ述べる状況にはございませんので、そういった様々な例があるという認識はいたしております。

○9番（前原淳一君）

病院については以上で終わります。

次に、歩道の危険箇所についてですけれども。通学路等においては行っているということですが、町内全部の歩道をというわけにはなかなかいかないというように思うわけですけれども。特に、高齢者が歩いての買物。あるいは、散歩をするところを重点的に調べて、転倒事故がないような安全な歩道整備をしてほしいと思います。

十数年前だったと記憶しておりますが、ユニバーサルデザインについて質問をしたことがありました。その当時は、あまり進んでいなかったようすけれども。最近は、全国で特に叫ばれるようになってきております。しっかりと認識をしていただいて、安全な道路整備に努めていただきたいと思います。

偶然ですけれども、町外で車の運転をしている時に、歩道を歩いておられた高齢の女性の方が、1センチメートルから2センチメートルあるなしの段差につまずかれて、ぼったりと倒れて、幸い顔を打たなかった。また、骨折等もなかったようですが、高齢になるとほんの僅かな段差で倒れるわけです。そういったことで、腕、あるいは股関節の骨折ということにもつながっていきます。町内でそういったことが起きてはいけないと思います。再度伺います。

○建設水道課長（入佐和彦君）

前原議員の御質問にお答えします。

町長のほうが答弁したこともありますが、町民や区長さんなどからの通報等によって、段差や、穴ボコとか、通行に支障がある場合というのは、その都度、維持補修をして対応をしております。そしてまた、今、子供の安全のために、歩道を造る事業というのがいっぱいいろいろあり

ます。だから今、高原のほうでは並木旭台線、二葉村移線、歩道を設置する道路を造っております。

また、今、議員さんがおっしゃったバリアフリーは、高さの段差が、2センチメートル以下というのがバリアフリーの基準とかあったり、歩道の片カウントの勾配が5パーセントとかそういうのがあります。だから、なかなかそういう歩道を造っていく事業というのが、町内ではちょっと少ないのですけれど、その様にどんどん進めてはいきたいと考えております。

実際、高原町の町道で308キロメートルぐらいあるのですけれど、歩道がある町道というのは、約12キロメートルぐらいしかなかったと私は記憶しているのですけれど。だからもうほとんど町道に関しては歩道がない所が多いと。だから今回、令和4年度にも予算を上げておりますけれど、車道の路肩が開渠の側溝とかあったりするのです。そういう路肩を歩かれるので、そういうところの蓋がけをすとか、そういうような対応はしていきたいと考えております。以上です。

○9番（前原淳一君）

町道については理解をしましたがけれども、町道以外の国県道について、土木事務所だけに任せるのではなくて、その町民の中の特に高齢な方が歩道を歩いておられて、つまずき、転倒、そして骨折をするようなことがあってはならないと思います。そういったことも土木事務所等とも連携をしながら進めていっていただきたいと思いますが、答弁をお願いします。

○建設水道課長（入佐和彦君）

御質問にお答えします。

年に1回、県のほうに町要望等を上げておりますので、そういう機会をもちまして要望をしていきたいと思っております。

以上です。

○9番（前原淳一君）

次に、高齢者の相談窓口ですけれども、特に特化した窓口は設置をしていないということですが、また、答弁の中でほほえみ館の例を幾つか挙げていただきました。高齢者の相談については、ほほえみ館だけではなくて、各課にいろんな相談があると思います。そういった相談の内容を分析した結果の公表をするべきではないかと考えますが、考えを伺います。

○町長（高妻経信君）

ただいま、多くの課に関係するような御質問でしたけれども、私のほうからまず答弁をさせていただきますが、確かに高齢化ということもございまして、それぞれの課でも相談が多くなっているというのはあるようでございます。特に今、この御質問でありますように、その中でも高齢者の方、やはり核家族化ということも当然影響があるかと思っておりますけれども、増えているよ

うでございます。

そこでこの相談をされる、あるいは役場に来られた方には、職員が気づいた場合は、必ず一声かけてほしいと。「何の御用件で来られましたか」と。そして案内をすると。そのようなことは、課長会等を通じて職員に伝わってはいるのですが。もう一つの方法として、例えば「総合窓口」を設けるかということも一つの方法であろうかと思えます。ですので、こういった高齢化は、今の状況はまだ進むというように言われておりますし、やはり今、行政も非常に多様化、複雑化しておりますし、相談事も減るのではなくて増えていくということもあろうかと思えますので、そういった今私が言いましたような方法も含めて、検討をさせていただければと考えております。

○9番（前原淳一君）

今、各課で相談を受けたものをまとめて分析をした結果、またどこがするか分かりませんが、その結果を公表するというようなことによって、同じ悩み、あるいは相談や疑問を感じている人たちも多くいるのではないかと思います。そのような人たちのためにも公表するべきと思います。公表するには、簡単な方法としてインターネット等があるわけですがけれども、高齢者にはなかなかパソコンというものが、縁遠いといいますか苦手でありまして、できるものであれば、広報等によって公表をしていただければ、町民の方々も非常に良いのではないかと思います。再度伺います。

○町長（高妻経信君）

ただいまの御提案のありました方法を、私共もそういった具体的な方法というのは考えたことはなかったわけですが。例えば、Q&Aというかいわゆる想定問答といいますか、そういったものを、例えばごみ関係とか、そういったもの等について広報はいたしておりますが、しかし、今ありましたように、ホームページが主になっていると。いわゆる高齢者向きかと言われると、今、御質問にあったように、それは届いているかどうかというのは、かなり難しい部分はあるかと思えます。

今、御提案がありましたけれども、そういった相談内容を例えば広報等で町民に知らせることが、結局、日頃、役場に相談をしたり、あるいは困っていることがそれで解決できる部分があることは確かにあろうかと思えます。

この方法については、先ほど、この高齢者の相談窓口を含めて、それも併せて検討をさせていただきたいと思えます。

以上でございます。

○9番（前原淳一君）

先程の答弁の中で、町民の方が役場に来られたときに、どこにどういう用事があるのか一声か

けて欲しいというようなことを、案内しているということでしたけれども。よく町民の方から苦情を聞くのが、「係がない」とか、あるいは、「担当者がいない」ということで、結果的にたらい回しにされることをよく伺います。課内のことは、専門性がない限り、誰でも答えられるようにするべきと考えますが、伺います。

○副町長（横山安博君）

お答えいたします。

役場においていただいて、「係がない」あるいは「担当者がいない」というような散見されるということでございますけども。役場の係の事務分掌につきましては、正・副の担当制を取っております。そういった意味で、非常に至らない面もあるかもしれませんが、なるべく担当の正、あるいは副という格好で決めておりますので、そういった係挙げての対応をしていると思っておりますし、またそれは私の方から、また職員への方には通知をいたしたいと、そのように考えているところでございます。

以上でございます。

○9番（前原淳一君）

今、副町長がおっしゃったことはよく分かるわけですが、町民の方からすれば、せっかく役場に来られて、「担当者がいないから、またほかの日とか、別の課に行ってくれ」とか言われると、やはり内心的、「イラッ」とくることもあろうかと思えます。同じ課なり係であれば、誰でも答えられるぐらいのことはしておかないと。町民の方が再度出直してこないといけないことにも繋がりますので、そこら辺をしっかりと検討していただきたいと思えます。

また、先ほど町長のほうから総合窓口とおっしゃいましたけれども。総合案内所というようなこと、小林市等にもありますし。私も小林市に行った時、何回か利用したことがあります非常に分かりやすい。「どこを通過してどこに行けば何課に行きますよ」と、そういったことまで詳しく説明をしてくれます。そういったものがやはり高原町でも必要なのではと思えます。再度伺います。

○町長（高妻経信君）

総合窓口の御質問でございました。実際、高原町の役場でそういった利用される、あるいはお尋ねがある、そういった件数等について把握はしておりませんが、やはり、私が先ほど申し上げましたように、増えているというような各課の話を伺いますと、やっぱりそうであろうというふうには考えております。

この総合窓口を置くかどうかにつきましては、やはり各課の今の状況を再度聞き取り等して、必要性、あるいは住民サービス、こういったもの等を勘案して、今からですけれども検討をさせていただきたいと思えます。

以上です。

○9番（前原淳一君）

最後になりますけれども、総合案内所の開設がなかなか厳しいというのであれば、役場OBの方等に「案内係」というようなことを依頼して対応することはできないのか。そういったことが進めば高齢化がこれからもっともっと進んでいく中、少しでも町民に寄り添った町政ができると思いますが。最後に伺って私の質問を終わります。

○町長（高妻経信君）

今、総合案内人といいますか、そういうことであろうと理解をいたしております。また役場の事情に詳しい役場のOB等を。というような話もございましたので、そういった面も含めて検討をさせていただければと考えております。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

以上をもって、本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれにて散会します。

◎ 散 会

午後 4時25分 散会

令和4年 第1回 高原町議会定例会会議録 (第2日)

令和4年3月10日 (木曜日)

議事日程 (第2号)

令和4年3月10日 午前10時00分開議

- 日程第 1 報告第 1号 専決処分について (専決第2号)
損害賠償の額を定めたことについて
- 日程第 2 同意第 1号 固定資産評価審査委員会の委員の選任について
- 日程第 3 諮問第 1号 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 日程第 4 諮問第 2号 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 日程第 5 諮問第 3号 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 日程第 6 承認第 1号 専決処分について (専決第1号)
令和3年度高原町一般会計補正予算 (第18号)
- 日程第 7 承認第 2号 専決処分について (専決第3号)
令和3年度高原町一般会計補正予算 (第19号)
- 日程第 8 承認第 3号 専決処分について (専決第4号)
令和3年度高原町一般会計補正予算 (第20号)
- 日程第 9 承認第 4号 専決処分について (専決第5号)
令和3年度高原町一般会計補正予算 (第21号)
- 日程第10 議案第 1号 高原町職員のサービスの宣誓に関する条例及び公平委員会の委員のサービスの宣誓に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第11 議案第 2号 国民健康保険条例の一部を改正する条例
- 日程第12 議案第 3号 学校基金の設置・管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第13 議案第 4号 高原町情報公開条例の一部を改正する条例
- 日程第14 議案第 5号 高原町個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第15 議案第 6号 財産の無償譲渡について
- 日程第16 議案第 8号 令和3年度高原町国民健康保険特別会計補正予算 (第1号)
- 日程第17 議案第 9号 令和3年度高原町介護保険事業特別会計補正予算 (第3号)

- 日程第 18 議案第 10 号 令和 3 年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）
 日程第 19 議案第 11 号 令和 3 年度高原町病院事業会計補正予算（第 3 号）
 日程第 20 議案第 7 号 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 22 号）
-

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 報告第 1 号 専決処分について（専決第 2 号）
 損害賠償の額を定めたことについて
- 日程第 2 同意第 1 号 固定資産評価審査委員会の委員の選任について
- 日程第 3 諮問第 1 号 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 日程第 4 諮問第 2 号 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 日程第 5 諮問第 3 号 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 日程第 6 承認第 1 号 専決処分について（専決第 1 号）
 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 18 号）
- 日程第 7 承認第 2 号 専決処分について（専決第 3 号）
 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 19 号）
- 日程第 8 承認第 3 号 専決処分について（専決第 4 号）
 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 20 号）
- 日程第 9 承認第 4 号 専決処分について（専決第 5 号）
 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 21 号）
- 日程第 10 議案第 1 号 高原町職員のサービスの宣誓に関する条例及び公平委員会の委員のサービスの宣誓に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 11 議案第 2 号 国民健康保険条例の一部を改正する条例
- 日程第 12 議案第 3 号 学校基金の設置・管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 13 議案第 4 号 高原町情報公開条例の一部を改正する条例
- 日程第 14 議案第 5 号 高原町個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 15 議案第 6 号 財産の無償譲渡について
- 日程第 16 議案第 8 号 令和 3 年度高原町国民健康保険特別会計補正予算（第 1 号）
- 日程第 17 議案第 9 号 令和 3 年度高原町介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）
- 日程第 18 議案第 10 号 令和 3 年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）
- 日程第 19 議案第 11 号 令和 3 年度高原町病院事業会計補正予算（第 3 号）
- 日程第 20 議案第 7 号 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 22 号）

出席議員（10名）

1番	陣 圭介君	2番	反田 吉巳君
3番	松元 茂春君	4番	中村 昇君
5番	温水 宜昭君	6番	福澤 卓志君
7番	末永 充君	8番	入佐 廣登君
9番	前原 淳一君	10番	温谷 文雄君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局長	中嶋 秀一君	書記（事務局次長）	中嶋 雄二君
		書記（副主幹）	古川 裕子君

説明のため出席した者の職氏名

町長	高妻 経信君	副町長	横山 安博君
教育長	西田 次良君		
総合政策課長	馬場 倫代君	総務課長	内村 秀次君
税務課長	平川 昌知君	町民福祉課長	水町 洋明君
環境保全対策監	高原 寿志君	ほほえみ館長	久徳 信二君
産業創生課長	森山 業君	農政林務課長	上村 洋二君
農畜産振興課長	田中 博幸君	建設水道課長	入佐 和彦君
会計管理者兼会計課長	酒匂 政利君	高原病院事務長	花牟禮 秀隆君
教育総務課長	末永 恵治君		

◎ 開会・日程

午前10時00分 開議

○議長（温谷文雄君）

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

○

◎ 日程第1 報告第1号 専決処分について（専決第2号）損害賠償の額を定めたことについて

○議長（温谷文雄君）

日程第1、「報告第1号、専決処分について（専決第2号）損害賠償の額を定めたことについて」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

おはようございます。

それでは、ただいまから提案理由の説明をさせていただきます。

まず、報告1号、これ専決2号でございます。損害賠償の額を定めたことについて、でございます。今回は特別障害者手当の不適正事務処理による損害賠償についての報告でございます。

まず、手当の不適正事務処理により生じた損害に対する賠償金と、本来支給すべき日から遅延日数に応じた損害金の支払い等の和解内容等。和解内容に伴う相手方への損害賠償の額の決定につきまして、地方自治法第180条第1項及び議会の委任による町長専決処分事項の指定について、第1条第3号の規定により専決処分をいたしましたので、地方自治法第180条第2項の規定により議会に報告を行うものであります。

議案書の2ページをお開きください。

今回の事案の概要は、相手方が令和2年3月に申請した特別障害者手当について、職員の不適正な事務処理により宮崎県に書類が進達されていなかったために、相手方に適正に手当が支給されない事態を招いたものでございます。

損害賠償の内容は、高原町は相手方に対し、手当の不適正事務処理により生じた損害に対する一切の賠償金として、相手方が受給できるものであった令和2年4月から令和3年6月までの410,250円と、本来支給すべきであった期間における遅延日数に応じ、遅延損害金10,700円を支払うものでございます。

確認事項といたしまして、高原町及び相手方は、本件に関し、和解成立後は、何らの債権・債務のないことを相互に確認いたしております。今回は、この和解と相手方への支払金額42万950円を、損害賠償の額として決定しましたので、報告するものであります。

なお、この損害賠償金につきましては、高原町より令和4年1月31日に相手方へ既に支払われております。

以上、御報告いたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これをもって報告第1号を終わります。

○

◎ 日程第2 同意第1号 固定資産評価審査委員会の委員の選任について

○議長（温谷文雄君）

日程第2、「同意第1号、固定資産評価審査委員会の委員の選任について」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

同意第1号 固定資産評価審査委員会の委員の選任についての御説明を申し上げます。

議案書の3ページをお開きください。

固定資産評価審査委員会の委員のお1人が、令和4年5月7日をもって任期満了となりますことから、後任委員として「増田 玲子氏」を選任したいので、地方税法第423条第3項の規定に基づき議会の同意を求めるものでございます。

増田氏は、永年、高原町役場に勤務され、平成28年3月に退職されております。増田氏は、人望も厚く、女性の活躍が推進されている中、女性の視点から町の税務行政の運営のために御尽力いただけるものと期待しております。

なお、任期は、令和4年5月8日から令和7年5月7日までの3年間といたしております。

御審議のほどよろしくお願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、同意第1号の採決を行います。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、同意第1号は同意することに決定しました。

○

◎ 日程第3 諮問第1号、人権擁護委員の候補者の推薦について

◎ 日程第4 諮問第2号、人権擁護委員の候補者の推薦について

◎ 日程第5 諮問第3号、人権擁護委員の候補者の推薦について

○議長（温谷文雄君）

日程第3、「諮問第1号、人権擁護委員の候補者の推薦について」から日程第5、「諮問第3号、同じく、人権擁護委員の候補者の推薦について」までの議案3件を一括議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

諮問第1号 人権擁護委員の候補者の推薦について御説明申し上げます。

議案書4ページをお開きください。

本町の人権擁護委員につきましては、現在、4名の方々が法務大臣の委嘱を受け、御活躍いただいております。今回、3名の方が令和4年6月30日をもって任期満了となられますことから、令和4年7月1日から令和7年6月30日までの3年を任期といたします。

人権擁護委員候補者といたしまして、久保田光信氏を再任として推薦いたしたく、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、議会の意見を求めるものでございます。

久保田光信氏は、令和元年7月1日より人権擁護委員として委嘱を受けて御活躍されており、現在1期目でございます。これまで様々な人権問題に積極的に取り組まれ、人権擁護委員として活発な活動をされております。久保田氏は温厚、誠実にして、品行方正、極めて強い責任感を信条とされ、人権問題の解決にも大変熱意がありますことから、今回、推薦するものです。

御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

諮問第2号 人権擁護委員の候補者の推薦について御説明申し上げます。

議案書5ページをお開きください。

人権擁護委員候補者といたしまして、今回、新たに新福美代子氏を推薦いたしたく、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、議会の意見を求めるものでございます。

新福美代子氏は、温厚質実にして品行方正、周囲からの人望も厚く、様々な人権に対する意識も高い方でございますことから、今回推薦するものです。

御審議のほどよろしく願い申し上げます。

諮問第3号、人権擁護委員の候補者の推薦について御説明申し上げます。

議案書の6ページをお開きください。

人権擁護委員候補者といたしまして、今回、新たに新福正敏氏を推薦いたしたく、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、議会の意見を求めるものでございます。

新福正敏氏は、^{*}温厚篤実（おんこうあつじつ）かつ清廉潔白な人柄で、様々な人権問題に対する意識も高い方でございますことから、今回推薦するものです。

御審議のほどよろしく願い申し上げます。※このページの下段に訂正発言

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前10時11分 休憩

午前10時11分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き開議を開きます。

議事を続行いたします。

○町長（高妻経信君）

先ほどの私の説明の中で、新福正敏氏の推薦でございますけども、温厚篤実（おんこうあつじつ）と申しあげましたけども、正確には温厚篤実（おんこうとくじつ）でございます。

修正いたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから、議題となりました各案に対する質疑を行います。

まず、諮問第1号について許します。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

次に、諮問第2号について許します。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

次に、諮問第3号について許します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これをもって質疑を終わります。

これから各案に対する討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

まず、諮問第1号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、諮問第2号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、諮問第3号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから各案を採決します。

まず、始めに諮問第1号を採決します。

諮問第1号は、同意することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、諮問第1号は同意することに決定しました。

次に、諮問第2号を採決します。

諮問第2号は、同意することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、諮問第2号は同意することに決定しました。

次に、諮問第3号を採決します。

諮問第3号は、同意することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、諮問第3号は同意することに決定しました。

○

◎ 日程第6 承認第1号 専決処分について（専決第1号）令和3年度高原町一般会計補正予算（第18号）

○議長（温谷文雄君）

日程第6、「承認第1号、専決処分について（専決第1号）令和3年度高原町一般会計補正予算（第18号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

承認第1号 専決処分について報告いたします。

議案書の7ページをお開きください。

令和3年度高原町一般会計補正予算（第18号）を、地方自治法第179条第1項の規定により、令和4年1月5日に専決処分しましたので、同条第3項の規定により、これを報告し、承認を求めるものであります。

今回の補正の内容ですが、新型コロナウイルス感染症対策として、子育て世帯等臨時特別給付金の支給に係る経費についての補正でございます。別冊の令和3年度高原町一般会計補正予算書（第18号）の1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ1億8,615万4,000円を追加しまして、予算総額を歳入、歳出それぞれ67億253万円と定めるものでございます。

それでは、事業の内容につきまして、御説明させていただきます。

10ページ、11ページをお開きください。

社会福祉総務費でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、速やかに生活・暮らしの支援を受けられるよう住民税非課税世帯等に対して、臨時特別給付金を支給する経費といたしまして、1億8,615万4,000円を計上したしております。財源といたしましては、国庫支出金を充てております。

以上、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

今回の受給世帯の内容について、お聞かせいただきたいと思います。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

受給世帯の対象者数でございますが、非課税世帯分として予算ベースでございますが、1,854世帯を見込んでおります。

もう一つでございますが、家計急変世帯分として79世帯を見込んでおります。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

1点だけ教えてください。

給付に係るシステムの使い方なのですが、年末の10万円の給付金の際に、離婚された家庭について、児童手当のシステムを利用していることから、結局その世帯主に振り込まれた際に実際育てていらっしゃるの、過去に世帯主であった方ではない場合の問題点というのは、この給付金においては発生しないのでしょうか。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

この世帯の捉え方が、令和3年12月10日時点となっております。それを基準といたしまして、システムを改修しておりますので。例えばその以後に離婚された方とか、基準日以降の方はそういった可能性がある場合があるかもしれません。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

こういった問題というのは、国のシステムを変えていただかない限りはずっと起こり続けると
思うので、できるならば、町としてもそういったシステムをもう即座に情報をすぐに変更でき
るようなシステムに改定していただきたいということで、これはお願いになるのですけれども、
町から声を上げていただきたいなと思います。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、承認第1号を採決します。

本件は、承認することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、承認第1号は承認することに決定しました。

○

◎ 日程第7 承認第2号 専決処分について（専決第3号）令和3年度高原町一般会計補正
予
算（第19号）

○議長（温谷文雄君）

日程第7、「承認第2号、専決処分について（専決第3号）令和3年度高原町一般会計補正予
算（第19号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

承認第2号、専決処分について報告いたします。

議案書9ページをお開きください。

令和3年度高原町一般会計補正予算（第19号）を、地方自治法第179条第1項の規定により、令和4年1月24日に専決処分しましたので、同条第3項の規定により、これを報告し、承認を求めるものであります。

今回の補正の内容ですが、不適正な事務処理による損害賠償についての補正でございます。

別冊の令和3年度高原町一般会計補正予算書（第19号）の1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ43万円を追加しまして、予算総額を歳入、歳出それぞれ67億296万円と定めるものでございます。

それでは、事業の内容につきまして、ご説明をさせていただきます。

10ページ、11ページをお開きください。

社会福祉総務費でございますが、特別障害者手当の手続きに関しまして、不適正な事務処理により、不利益を受けられた方への賠償としまして、43万円を計上いたしております。

以上、御承認方よろしくお願い申し上げます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、承認第2号を採決します。

本件は、承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、承認第2号は承認することに決定しました。

○

◎ 日程第8 承認第3号 専決処分について（専決第4号）令和3年度高原町一般会計補正
予
算（第20号）

○議長（温谷文雄君）

日程第8、「承認第3号、専決処分について（専決第4号）令和3年度高原町一般会計補正予算（第20号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

承認第3号、専決処分について報告いたします。

議案書11ページをお開きください。

令和3年度高原町一般会計補正予算（第20号）を、地方自治法第179条第1項の規定により、令和4年1月25日に専決処分しましたので、同条第3項の規定により、これを報告し、承認を求めるものであります。

今回の補正の内容ですが、新型コロナウイルス感染症対策として、宮崎県内における、まん延防止等重点措置が講じられたことに伴い、営業時間短縮要請の影響を受ける飲食店等、事業者への支援についての補正でございます。

別冊の令和3年度高原町一般会計補正予算書（第20号）の1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ2,087万2,000円を追加しまして、予算総額を歳入、歳出それぞれ67億2,383万2,000円と定めるものでございます。

それでは、事業の内容につきまして、説明いたします。

10ページ、11ページをお開きください。

商工費でございますが、新型コロナウイルス感染症対策事業といたしまして、営業時間短縮要請に応じた飲食店等への協力金並びに、要請の対象とならなかった飲食店等への支援金等として1,487万2,000円を、また、今回の要請期間中の収入が、減少した商工業者に対する支援金として600万円を計上いたしております。財源といたしましては、国・県支出金を充てております。

なお、商工業者の収入減に対する支援金に関しましては、西諸統一の支援策として取り組むものでございます。

以上、御承認方よろしくお願い申し上げます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

1つは営業時短要請協力金。もう一つは、収入減対策事業補助金の内容について、説明をお願いいたします。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

まず、時短要請に係ります協力金でございますけども、こちらにつきましては、国の法のまん延防止措置の法によりまして、県内飲食の終日提供の中止、あるいは午後8時以降の営業の時間短縮の要請が行われたものでございます。

その影響を受けた事業者。町内におきましては、20店舗ほど見込んでおるわけでございますけども。その業者、前年、前々年の1月、2月、これに係ります対比で影響を受けているところにこの協力金を交付する事業が1点目でございます。

収入減対策事業におきましては、このまん延防止措置によりまして、県内、経済対策の制限を受けております。特に不要不急の外出、あるいは人混み等の中には行かないなどの制限を受けまして、町民の方々が、県民もですが、買い物等になかなか出ない。あるいはそういう買い物等の消費が伸びないということで影響を受けている。これにつきましても、対前年約30%以上減少している商工業者全般に当たりまして、支援金を出す事業でございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

申請等交付決定の件数を、それぞれの協力金、補助金について説明をお願いします。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

まず、時短協力金のほうでございますけども。こちらがまず、2月13日までの分になりますので、それにつきましては、こちら国の他の支援金等もありまして、3月に入りまして2月の3月に入りまして受付が始まって、今現在進行中の状況でございます。

申請件数におきましても、今のところ19ほど協力金の方は、見込んでいるところでございます。

この収入減対策事業におきましては、1月以降、収入減になった方は今も進行中で募集しておりますので、こちらは予算ベースでございますけど、60件ほど見込んでいるということで、

今のところ進行中と御認識いただければと思います。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから承認第3号を採決します。

本件は、承認することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、承認第3号は、承認することに決定しました。

○

◎ 日程第9 承認第4号 専決処分について（専決第5号）令和3年度高原町一般会計補正
予
算（第21号）

○議長（温谷文雄君）

日程第9、「承認第4号、専決処分について（専決第5号）令和3年度高原町一般会計補正予算（第21号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

承認第4号、専決処分について報告いたします。

議案書13ページをお開きください。

令和3年度高原町一般会計補正予算（第21号）を、地方自治法第179条第1項の規定によ

り、令和4年2月10日に専決処分しましたので、同条第3項の規定により、これを報告し、承認を求めるものであります。

今回の補正の内容ですが、新型コロナウイルス感染症対策として、宮崎県内における、まん延防止等重点措置が、3月6日まで延長されたことに伴い、営業時間短縮要請の影響を受ける飲食店等への支援についての補正でございます。

別冊の令和3年度高原町一般会計補正予算書（第21号）の1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ1,456万6,000円を追加しまして、予算総額を歳入、歳出それぞれ67億3,839万8,000円と定めるものでございます。

それでは、事業の内容について説明させていただきます。

10ページ、11ページをお開きください。

商工費でございますが、新型コロナウイルス感染症対策事業としまして、営業時間短縮要請に応じた飲食店等への協力金等の経費として、1,456万6,000円を計上いたしております。財源といたしましては、県支出金を充てております。

以上、御承認方よろしく願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、承認第4号を採決します。

本件は、承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、承認第4号は、承認することに決定しました。

○

◎ 日程第10 議案第1号 高原町職員のサービスの宣誓に関する条例及び公平委員会の委員の服

務の宣誓に関する条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第10、議案第1号、高原町職員のサービスの宣誓に関する条例及び公平委員会の委員のサービスの宣誓に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

議案第1号 高原町職員のサービスの宣誓に関する条例及び公平委員会の委員のサービスの宣誓に関する条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

議案書の15ページをお開き下さい。

新型コロナウイルス感染拡大防止やデジタル時代を見据えまして、本町においても申請書等における押印の廃止について見直しを図っております。

今回、町職員及び公平委員会の委員のサービスの宣誓書様式への押印を廃止するため、改正を行うものでございます。また、併せまして条番号等、所要の改正を行います。

なお、この条例は、交付の日から施行するものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第1号を採決します。

議案第1号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第11 議案第2号 国民健康保険条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第11、「議案第2号、国民健康保険条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

「議案第2号 国民健康保険条例の一部を改正する条例について」御説明申し上げます。

議案書の17ページをお開きください。

令和4年1月1日から、産科医療補償制度が見直しされることに伴って、健康保険法施行令の一部が改正されましたことから、国民健康保険条例の一部を改正するものでございます。

産科医療補償制度とは、分娩に関連して発症した重度脳性まひの子どもとその家族の経済的負担を保障する制度でございます。

改正の内容でございますが、産科医療補償制度の掛金が現行の1万6,000円から1万2,000円に減額されております。これに伴って、出産育児一時金の支給総額が4,000円の減額となる見込みでしたが、少子化対策としての重要性を考慮し、支給総額の42万円を維持するため、出産育児一時金を4,000円増額し、40万8,000円とするものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第2号を採決します。

議案第2号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第2号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第12 議案第3号 学校基金の設置・管理及び処分に関する条例の一部を改正する
条
例

○議長（温谷文雄君）

日程第12、「議案第3号、学校基金の設置・管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第3号、学校基金の設置・管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の18ページをお開きください。

本議案につきましては、狭野小学校分収造林が令和3年11月24日に宮崎森林管理所都城支署により公売に付され、同年12月29日に本町に対し、落札業者から分収金の納付があったことをもって、分収造林契約が終了したことに伴い所要の改正を行うものであります。

なお、分収金につきましては、本定例会の補正予算において審議に付し、可決いただいた後に学校基金に積み立てるものであります。

なお、施行期日につきましては、交付の日からとしております。

以上、御審議の程よろしく願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

町有林とかこういう学校林などの考え方について1点お聞きしたいのですけども。例えば公共施設の整備が今後予定されているのですけども。何かこの条例を見ると町有林なり学校林なりを伐採した後に、結局、分収金とかそれに運用により取得した有価証券とするとなっているので、例えば、その伐採した木材を、公共施設の建築に充てるとなった場合の条例の取扱い方について、ちょっと1点教えていただきたいなと思います。

この状態だと、あくまでも分収金だけを基金に積み立てて、それを運用する形なので、木材事態を、そのまま公共施設の整備に使うことは難しいのではと思うのです。その辺りの考え方を教えてください。

○教育総務課長（末永恵治君）

学校基金の分収造林についての考え方につきましては、営林署の分収造林は、借受け者が、今回の場合は町ですけど、植えて育林をして、20年を経ちましたら、営林署の森林計画の中に組込まれて間伐、伐採等は営林署の計画の下で行われます。ですから、今回の伐採も営林署の計画の下で行われて業者も入札されて決定したのですので、木材については営林署が処分というか売却されるなりすると思いますので。分収造林はそういった考え方でございます。

以上です。

○町長（高妻経信君）

ただいまの教育総務課長からの学校林の分収造林ということだったので。町有林の伐採した木材を、町有施設等に使えないかとの質問だろうと思うのですけども。伐採をした後に、当然、市場、市で販売するわけですけども、そこに製材業者が丸太を落札すると。当然、仮に町有施設のあるとすれば、その製材業者が町の町有林でやった丸太を落札して買ってもらうと。そしてそれを製材した後に乾燥等して保管をしておかなければならないと。ですので、非常に製材業者に伺いますと、そういった保管場所の問題とか規模が大きくなりますとそういったことが出てくると。ですので、切ったそのものを製材してそのまま充てられるかということ、そういった事情があって、なかなか難しいと話は伺っております。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第3号を採決します。

議案第3号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第13 議案第4号 高原町情報公開条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第13、「議案第4号、高原町情報公開条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第4号、高原町情報公開条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の19ページをお開きください。

今回の改正は、情報公開請求を行うことができるものの制限を撤廃し、「何人も」公開請求を認める改正を行うものでございます。

平成13年に施行しました本条例につきまして、情報公開請求を行うことができるものは、本町在住者や在勤者等に制限しておりました。

しかしながら、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号）」におきまして、請求権者の範囲を広げ、「何人も」公開請求ができることとされております。

このことにより、本町におきましても同様の取扱とするため、所要の改正を行うものでございます。

以上、御審議のほどよろしく願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

これまでの条例の中で請求され、それが受け付けられなかった事例がありますでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

正確な数字等はありませんけれども、申請があれば当然受付はすると。中身の公表の範囲については、一部個人情報等が絡む分については、出さないというような扱いをしているところがございます。

以上でございます。

○4番（中村昇君）

伺ったのは、これまでの条例で、制限がかかっていたそれ以外の方が、請求されて受け付けられなかった事例があるのか質問なのですけど。

○総務課長（内村秀次君）

議案書の19ページを見ていただきたいのですけれども。これの第6条の左側の第5号。前各号に掲げる者のほか、実施期間が行う事務事業に[※]利害関係を有する者、これも含まれますので、関係すれば町外の方でも出していたということがございます。※116ページに訂正発言

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前10時52分 休憩

午前10時53分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

実際にそういった指示があった場合には、受け付けておりました。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第4号を採決します。

議案第4号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第4号は、原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第14 議案第5号 高原町個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第14、「議案第5号、高原町個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第5号 高原町個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

議案書の20ページをお開き下さい。

「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）」、いわゆる「番号法」の改正に伴い、「番号法」第19条第4号から第16号までが1号ずつ繰り下がることにより、第5条において、引用条文を改正するものでございます。また、併せまして、平成29年の本条例改正におきまして、追加しました特定個人情報の提供の規定について、題名及び第1条の趣旨におきまして、明文化を行うものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第5号を採決します。

議案第5号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第5号は、原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第15 議案第6号 財産の無償譲渡について

○議長（温谷文雄君）

日程第15、「議案第6号、財産の無償譲渡について」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第6号 財産の無償譲渡について御説明いたします。

議案書の22ページをお開きください。

平成21年度に総務省「地域情報通信基盤整備推進交付金事業」を活用し、地域間の情報格差の是正と地域の活性化を目的として、町内全域にケーブルテレビ施設を整備いたしました。

当該施設については、町が施設を整備し、民間通信事業者が、情報通信サービスを提供する公設民営方式により、平成23年度から運営を開始いたしております。

しかし、運営開始から10年以上が経過し、今後は多額の更新費用が見込まれることから、当初から維持管理を委託している通信事業者に譲渡し、財政負担の軽減と、利用者への継続的かつ安定的なブロードバンドサービスの提供を行うため、地方自治法第96条第1項第6号の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

なお、財産の無償譲渡において、国に対し、財産処分届出書の提出を行い、併せて通信事業者と財産処分に係る物品譲与仮契約書の締結も済んでおります。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

1点だけ教えてください。

庁舎内もケーブルテレビの施設の一部があると思うのですが、今までは、公設民営という形だったので町が持っているもの。持っている施設が、町に設置されている状況であったのですが、これを譲渡すると、財産としてはケーブルテレビ会社のものになるわけで、それが庁舎内に施設が設置されているという、例えば、家賃であるとか、そういったものの発生があると思うのですが、そのあたりの考え方について教えてください。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前11時01分 休憩

午前11時11分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○総合政策課長（馬場倫代君）

質問にお答えいたします。

今回、財産譲渡をすることによりまして、民間の財産となります。

ただ、庁舎の使用料等につきましては、公共性等を勘案しながら、今後、詳細については詰めていきまして、覚書等によって整理したいと考えております。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

理由の中に、耐用年数が経過して、今後は多額の更新費用が見込まれるとありますが、そういった内容なのか、説明をお願いいたします。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

現在につきましては、IRU契約というものに基づきまして、民間通信事業者のほうで維持管理を行っていただいております。ただ、このIRU契約というのが、双方合意がない限り一方から破棄することができない契約なのですが、この契約を令和4年3月31日までとしており

ます。このことによりまして、IRU契約は終了することによって、以降の維持管理については、町が行うこととなると。そうなりますと、多額の費用がかかることが想定されるものでございます。

以上でございます。

○4番（中村昇君）

もっと具体的な内容が分かりませんが、それはそれでいいのですけれども、更新費用と
いいですか、維持管理をするために必要なことになると思うのですけれども、今後、ケーブル
テレビの会社がそういった費用を負担していくとなると、利用者に負担増を招かないか、そこ
がちょっと心配なのですけれども、お聞きいたします。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

実際、現状と変わらない状況ですので、費用負担が発生するとは認識しておりません。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第6号を採決します。

議案第6号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第6号は、原案のとおり可決されました。

ここで議案第5号の中村昇議員の質疑に対し、発言の訂正の申出がありましたので、許可しま

す。

○総務課長（内村秀次君）

先程いただいた中村議員の答弁で修正がありますので、訂正させていただきます。

町外の方からの申請があった場合ですけれども、利害関係有しない町外の方から電話で問い合わせがあったということをごさいますて、そのようなときは、本町の条例の内容を説明し、理解をいただいております。理解いただいた結果、請求されていないということをごさいます。以上でございます。

○

◎ 日程第16 議案第8号 令和3年度高原町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

○議長（温谷文雄君）

日程第16、「議案第8号、令和3年度高原町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

議案第8号、令和3年度高原町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について、御説明いたします。

別冊補正予算書の1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ541万6,000円を減額し、予算総額を歳入歳出それぞれ、14億9,972万2,000円と定めるものでございます。

今回の補正につきましては、令和3年度の保険給付費等の状況を勘案し、所要の額を増額、あるいは減額するものでございます。

2ページをお開きください。

歳入補正について、御説明いたします。

まず、国民健康保険税でございますが、令和3年度の調定状況等により、4,117万1,000円の減額となるものでございます。

県支出金でございますが、療養給付費の減額等により、総額で570万1,000円の減額となるものでございます。

繰入金でございますが、国民健康保険基盤安定負担金及び財政安定化支援事業等について、対象額が確定したことにより、総額で2,715万1,000円を増額するものでございます。

繰越金でございますが、1,240万5,000円を増額するもので、前年度繰越金を全て計上するものであります。

諸収入でございますが、令和3年度の延滞金の調定状況等により、190万円を増額するもの

でございます。

続きまして、3ページをお開きください。

歳出補正につきまして説明させていただきます。

保険給付費でございますが、一般被保険者に係る出産育児一時金が令和3年度の支出状況から増加するものの、療養給付費や療養費等が減少する見込みのため、総額で1,411万5,000円を減額するものでございます。

諸支出金につきましては、病院会計へ繰り出すものでございまして、869万9,000円を増額するものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第8号を採決します。

議案第8号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第8号は、原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第17 議案第9号 令和3年度高原町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）

○議長（温谷文雄君）

日程第17、「議案第9号、令和3年度高原町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第9号、令和3年度高原町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）について、御説明申し上げます。

別冊の介護保険事業特別会計補正予算書の1ページをお開きください。

第1項の保険事業勘定の予算の補正でございますが、歳入歳出それぞれ1億2,265万4,000円を減額し、歳入歳出の予算総額をそれぞれ、13億7,391万6,000円と定めるものでございます。

第2項の介護サービス事業勘定の予算の補正でございますが、歳入歳出それぞれ325万円を追加し、歳入歳出の予算総額をそれぞれ897万3,000円と定めるものでございます。

特に今回の補正につきましては、令和3年度の保険給付費をはじめ、居宅サービス事業等の状況を勘案し、所要の額を減額あるいは増額するものでございます。

最初に、保険事業勘定を御説明いたします。

補正予算書の4ページをお開きください。

歳入について説明いたします。

保険料につきましては、令和3年度の調定状況等により、2,945万8,000円の減額となるものでございます。

国庫支出金、支払基金交付金、県支出金、繰入金につきましては、保険給付費等の状況により、それぞれ減額となるものであります。

続きまして、5ページをお開きください。

歳出補正について説明いたします。

総務費でございますが、計画策定委員会費の委員報酬費等32万5,000円を減額するものであります。

保険給付費でございますが、介護サービス等諸費をはじめ、それぞれの費用が減少したため、総額で1億2,000万円の減額となるものでございます。

地域支援事業費でございますが、介護予防・生活支援サービス・一般介護予防事業及び包括的支援事業・任意事業におきます会計年度任用職員の報酬、職員手当等など、合わせて232万9,000円を減額するものであります。

続きまして、サービス勘定につきまして説明いたします。

補正予算書の24ページ、25ページをお開きください。

25ページの歳出補正の諸支出金でございますが、前年度の繰越金325万円を歳入として計上し、居宅サービス事業費の会計年度任用職員の報酬減額分130万円と合わせて、455万

円を一般会計へ繰り出すものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

保険給付費の介護サービス等諸費が、1億1,300万円の減となっております。中でも、居宅介護サービス給付費が9,000万円の減と大きいように思いますけれども、どのように分析をされておりますか。お伺いいたします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

今回、給付費のほうが減額ということでございますけれども、介護給付費につきましては、第8期の介護保険事業計画にのっとりまして、予算を計上いたしているところでございます。今回の給付費の減額につきまして分析をいたしましたところ、介護認定者数につきましては、昨年の令和2年の12月と今年の12月と比較いたしましたところ、総体の人数は、12人ほど増えているところでございます。介護度が最も高い要介護5の方が減少している兆候が見られたところでございます。また、介護サービスの受給者数につきましても、介護度が最も高い5、要介護5の方が減っている状況でございます。

そして、施設介護につきましても、要介護2から要介護5の方々がいずれも減少しているとのことございまして、そのようなことから、高度な給付費が必要とされる方々の部分につきまして、対象者が減少したことにより、給付費が減少したものではないかと分析しているところでございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第9号を採決します。

議案第9号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第9号は、原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第18 議案第10号 令和3年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

○議長（温谷文雄君）

日程第18、「議案第10号、令和3年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第10号、令和3年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について説明いたします。

別冊の補正予算書の1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入・歳出それぞれ969万8,000円を減額し、予算総額を歳入・歳出それぞれ3億904万8,000円と定めるものでございます。

今回の補正につきましては、後期高齢者医療広域連合納付金の確定等に伴い、所要の額を増額、あるいは減額するものでございます。

補正予算書の2ページをお開きください。

歳入補正について説明いたします。

繰入金でございますが、療養給付費等の確定により、1,542万2,000円を減額するものでございます。

繰越金でございますが、500万円を増額するものでございます。

諸収入でございますが、72万4,000円を増額するものでございます。

補正予算書の3ページをお開きください。

歳出について説明いたします。

総務費でございますが、令和3年度支出状況から増加する見込みのため、総額72万4,00

0円を増額するものでございます。

後期高齢者医療広域連合納付金でございますが、令和3年度支出状況から減少する見込みのため、1,542万2,000円を減額するものでございます。

最後に、諸支出金でございますが、繰越金精算に伴う一般会計への操出金として、500万円を増額するものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第10号を採決します。

議案第10号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第10号は、原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第19 議案第11号 令和3年度高原町病院事業会計補正予算（第3号）

○議長（温谷文雄君）

日程第19、議案第11号、令和3年度高原町病院事業会計補正予算（第3号）を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

議案第11号 令和3年度高原町病院事業会計補正予算（第3号）について御説明いたします。

別冊で配付しております病院事業会計補正予算書1ページをお開きください。

第2条でございますが、収益的収入につきまして、医業外収益を2億3,656万5,000円補正するものであります。

補正内容は、補助金は新型コロナウイルス感染症対策関連補助金を県から7,832万円を、国から10万円を受け入れ、他会計負担金は、一般会計から医師確保対策のほか、不採算地区病院の運営に要する経費など総務省の操出し基準に基づき1億5,014万5,000円を、国保会計から特別調整交付金500万円を繰り入れ、また、その他医業外収益は、落雷被害により電話盤が破損したため、火災保険金を受け入れるものです。

続きまして、収益的支出につきましては、特別損失を4,457万3,000円補正するもので、その他特別損失として、退職給付引当金を引き当てるものです。

次に、第3条でございますが、資本的収入につきまして、補助金を30万円、他会計負担金を369万9,000円補正するものであります。

補正内容は、補助金は、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金として、県から30万円を、他会計負担金は、国保会計から医療機器整備補助金として、369万9,000円を繰り入れ、^{*}369万円を受け入れるものです。※このページ下段に訂正発言

これに伴う、補正予算実施計画書と、予定キャッシュ・フロー計算書を2ページから4ページに併せて添付いたしております。

御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前11時36分 休憩

午前11時36分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

ただいまの説明を金額ですけども、一部修正いたします。

最後のほうでありますけども、他会計負担金のところで、国保会計から医療機器整備補助金として、私が369万円と申し上げましたけども、正しくは、369万9,000円を受け入れるものです。訂正いたします。

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○4番（中村昇君）

今年度も、コロナ病床に伴う補助金が出ておりますけれど、令和2年度とすると、コロナ病床に対する国の補助金が、減額されたように思いますけれど、そのあたりについて、どういう影響があったのか、お伺いいたします。

それと、病院経営も厳しい中、令和2年度は、一般会計からの繰り入れもなくして済みましたが、令和3年度においては、一般会計からの赤字補填等についてはなかったのか、お伺いいたします。

○高原病院事務長（花牟禮秀隆君）

2点につきまして、お答えいたします。

まず、病床の補助金でございますが、病床の補助金でございますけれども、令和2年度と変わっておりませんので、影響はございません。

2点目の赤字に伴う基準外の繰入金につきましては、令和3年度は基準内の繰入金ということで、ございません。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

4ページに、キャッシュ・フローが載っているので、ちょっと関連としてお聞きしますけれども、医師住宅の財産としての考え方なのですけれども、一般会計の事業の中で、医師住宅、一部使っているものがあるかと思うのですけれども、今後の住宅の取扱いについて、例えば、賃貸住宅として一般会計から家賃分を出すとか、普通財産にして、住宅分のお金を病院会計に入れるのかというあたりの方針を示していただけませんか。

○町長（高妻経信君）

私のほうからお答えさせていただきます。

病院長住宅、あるいは、ほかの医師住宅もございしますが、今、使われていない状況が続いています。今回1か所につきましては、今、空き家状態になっておりますので、活用をしたいと。

財産については、現状で、病院の財産であり、家賃を払うほうを考えておりますが、今後、今、計画しております院長住宅でございますけど、それについて、今後、買取りをするのかどうか。まだ、今後検討いたしますが、現状で借りて、家賃を病院会計に支払っていくことを考えております。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第11号を採決します。

議案第11号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第11号は、原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第20 議案第7号 令和3年度高原町一般会計補正予算（第22号）

○議長（温谷文雄君）

日程第20、「議案第7号、令和3年度高原町一般会計補正予算（第22号）」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第7号、令和3年度高原町一般会計補正予算（第22号）について説明いたします。

別冊の令和3年度高原町一般会計補正予算書1ページをお開きください。

今回の補正は、歳入、歳出それぞれ4億6,889万3,000円を追加しまして、予算総額を歳入、歳出それぞれ72億729万1,000円と定めるものでございます。

今回の補正の主な内容といたしまして、財政調整基金費の財政調整基金への積立金に1億6,356万2,000円、企画費のふるさと納税特産品贈呈事業に3,000万円、社会福祉総務費の国民健康保険特別会計繰出金に2,715万1,000円、病院整備費の不採算地区病院運営経費等に1億5,014万5,000円、林業振興費の合板・製材・集成材国際競争力

強化・輸出促進対策事業に6,726万円、商工費の企業立地促進事業に1,629万8,000円、同じく商工費の新型コロナウイルス感染症対策事業に4,448万2,000円、教育費、事務局費の学校基金への積立金に1,816万3,000円、公共土木施設災害復旧費（現年災害）の復旧工事費に5,400万円、基金費の減債基金への積立金に3,624万7,000円などを計上いたしております。

それでは、補正の内容につきまして、説明させていただきます。

まず、6ページをお開きください。

第2表の繰越明許費補正でございます。

主なものを説明させていただきます。

民生費、社会福祉費の子育て世帯等臨時特別給付金支援事業。

農林水産業費、林業費の合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策事業。

商工費、商工費の新型コロナウイルス感染症対策事業、高原町消費拡大支援事業。

災害復旧費の、土木施設災害復旧費の十文字鷹巣原線の全13事業、総額4億1,402万7,000円を追加し、翌年度に繰り越して使用できるよう、繰越明許費の追加を行うものでございます。

7ページをお開きください。

第3表の債務負担行為補正でございます。

令和9年度評価替え固定資産田畑山林評価総合調査業務委託事業など、4事業につきまして、債務負担行為の追加を行うものでございます。

次に、第4表の地方債補正でございますが、災害復旧事業並びに、過疎対策事業につきまして、対象事業の変更や事業費の確定等により、それぞれ限度額の変更を行うものでございます。

それでは、主な事業の内容につきまして、目ごとに説明させていただきます。

なお、今回の補正につきましては、人件費の減額や、国・県支出金等の増額確定等に伴います財源の補正、事務事業の執行残や工事等の入札残に伴います減額等によるものにつきましては、省略させていただきます。

28ページ、29ページをお開きください。

2段目の一般管理費でございますが、職員退職手当組合負担金としまして、231万2,000円を計上いたしております。

同じく、財政調整基金費でございますが、今年度の普通交付税の交付額の確定や、各事業の執行残等による、財政調整基金への積立金としまして、1億6,356万2,000円を計上いたしております。

32ページ、33ページをお開きください。

企画費でございますが、ふるさと納税特産品贈呈事業としまして、ふるさと納税寄附金額の増額が見込まれることから、返礼品発送に係る経費や、ふるさと振興基金への積立金としまして、3,000万円を計上いたしております。

財源としまして、寄附金を充てております。

36ページ、37ページをお開きください。

2段目の戸籍住民基本台帳費の委託料でございますが、ほかの事業との差し引きの関係で金額の表記が異なりますが、個人番号カード所有者の転入転出手続のワンストップ化に係るシステム改修費用としまして、240万3,000円を計上いたしております。

また、個人番号カード交付事業交付金としまして、106万2,000円を計上しております。財源としまして、国庫支出金を充てております。

40ページ、41ページをお開きください。

1段目の社会福祉総務費でございますが、国民健康保険基盤安定負担金等の確定に伴います国民健康保険特別会計への操出金としまして、2,715万1,000円を計上しております。

財源としまして、国・県支出金を充てております。

続きまして、老人福祉費でございますが、高原町養護老人ホーム峰寿園への入所者の増が見込まれるため、養護措置委託事業としまして、400万円を計上しております。財源としまして、分担金及び負担金を充てております。

42ページ、43ページをお開きください。

1段目の児童運営費でございますが、保育士等の処遇改善に係る臨時特例補助金の交付に伴います教育・保育給付費としまして、177万2,000円を計上いたしております。財源としまして、国庫支出金を充てております。

48ページ、49ページをお開きください。

2段目の病院整備費でございますが、医師確保等対策に係る経費162万円、不採算地区病院運営に係る経費1億4,852万5,000円を計上いたしております。

現在の高原病院における新型コロナウイルス感染症への対応も鑑みまして、今回から病院への操出基準を見直しているところでございます。

50ページ、51ページをお開きください。

農業振興費の中ほどになりますが、新規就農者等に対する補助金交付に係る農業次世代人材投資事業としまして、126万円を計上しております。財源としまして、県支出金を充てております。

54ページ、55ページをお開きください。

林業振興費でございますが、森林経営管理制度事業としまして、森林環境譲与税基金への積立

金466万8,000円を計上いたしております。

財源といたしまして、地方譲与税を充てております。

続きまして、同じく林業振興費におきまして、事業者の機械導入に対する補助事業としまして、合板・製材・集成材 国際競争力強化・輸出対策事業6,726万円を計上いたしております。

財源としまして、県支出金を充てております。

56ページ、57ページをお開きください。

商工費でございますが、商工業振興費におきまして、地域商社設立に係る出資金としまして、601万円を計上いたしております。

次に、同じく商工費でございますが、宮崎フリーウェイ工業団地への進出企業に対する助成事業といたしまして、企業立地促進事業1,629万8,000円を計上いたしております。財源といたしまして、繰入金を充てております。

次に、同じく、商工費でございますが、新型コロナウイルス感染症対策事業におきます消費拡大支援事業としまして、4,448万2,000円を計上いたしております。財源としまして、国・県支出金を充てております。

58ページ、59ページをお開きください。

1段目、観光費でございますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する県独自の緊急事態宣言等を受け、観光施設を全面閉鎖したことによる指定管理者への支援事業としまして、観光施設等管理事業584万7,000円を計上しております。

なお、ほかの事業との差し引きで金額の表記が異なっております。財源としまして、国庫支出金、繰入金を充てております。

62ページ、63ページをお開きください。

1段目、住宅管理費でございますが、全国的に問題となっております、大規模盛土造成地に対しまして、本格的な地盤調査実施に向けての、前段の計画書策定が義務づけられたことにより、宅地耐震化推進事業135万円を計上いたしております。財源としまして、国庫支出金を充てております。

続きまして、3段目の教育費の事務局費でございますが、学校林の立木売買に伴う分収金の学校基金への積立金としまして、1,816万3,000円を計上いたしております。財源としまして、財産収入を充てております。

68ページ、69ページをお開きください。

3段目の公共土木施設災害復旧費（現年災害）でございますが、令和3年8月に発生しました十文字鷹巣原線の災害復旧工事としまして、5,400万円を計上しております。財源といたしまして、国庫支出金、町債を充てております。

70ページ、71ページをお開きください。

基金費でございますが、まず、今後の臨時財政対策債の償還に係る財源として減債基金への積立金3,624万7,000円を計上いたしております。

また、今後の公共施設の整備費用に対する財源確保のため、高原町公共施設等整備基金への積立金609万5,000円を計上しております。財源としまして、財産収入を充てております。

また、企業版ふるさと納税による寄附金を、次年度に実施する事業に活用するため、「神武の里たかはるまち・ひと・しごと推進基金」への積立金としまして、600万円を計上いたしております。財源としまして、寄附金を充てております。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これをもって、提案理由の説明が終わりました。

ただいま提案理由の説明がありました「議案第7号」については、明日3月11日に総括質疑を行います。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれにて散会します。

○

◎ 散 会

午前11時57分 散会

令和4年 第1回 高原町議会定例会会議録 (第3日)

令和4年3月11日 (金曜日)

議事日程 (第3号)

令和4年3月11日 午前10時00分開議

- 日程第 1 議案第 7号 令和3年度高原町一般会計補正予算 (第22号)
- 日程第 2 議案第12号 高原町消防団設置条例の全部を改正する条例
- 日程第 3 議案第13号 特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 4 議案第14号 職員定数条例の一部を改正する条例
- 日程第 5 議案第15号 高原町児童プール及び児童遊園の設置並びに管理運営に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 6 議案第16号 高原町都市公園条例の一部を改正する条例
- 日程第 7 議案第17号 高原町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 8 議案第18号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 9 議案第19号 高原町皇子原公園の設置及び管理に関する条例及び高原町御池キャンプ場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第10 議案第20号 高原町介護保険条例の一部を改正する条例

【施政方針】

- 日程第11 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算
- 日程第12 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 日程第13 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
- 日程第14 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算

- 日程第 1 5 議案第 2 5 号 令和 4 年度高原町介護保険事業特別会計予算
日程第 1 6 議案第 2 6 号 令和 4 年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
日程第 1 7 議案第 2 7 号 令和 4 年度高原町水道事業会計予算
日程第 1 8 議案第 2 8 号 令和 4 年度高原町病院事業会計予算
日程第 1 9 議案第 2 9 号 令和 4 年度高原町工業用水道事業会計予算
-

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 議案第 7 号 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 2 2 号）
日程第 2 議案第 1 2 号 高原町消防団設置条例の全部を改正する条例
日程第 3 議案第 1 3 号 特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
日程第 4 議案第 1 4 号 職員定数条例の一部を改正する条例
日程第 5 議案第 1 5 号 高原町児童プール及び児童遊園の設置並びに管理運営に関する条例の一部を改正する条例
日程第 6 議案第 1 6 号 高原町都市公園条例の一部を改正する条例
日程第 7 議案第 1 7 号 高原町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
日程第 8 議案第 1 8 号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
日程第 9 議案第 1 9 号 高原町皇子原公園の設置及び管理に関する条例及び高原町御池キャンプ場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
日程第 1 0 議案第 2 0 号 高原町介護保険条例の一部を改正する条例

【施政方針】

- 日程第 1 1 議案第 2 1 号 令和 4 年度高原町一般会計予算
日程第 1 2 議案第 2 2 号 令和 4 年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
日程第 1 3 議案第 2 3 号 令和 4 年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
日程第 1 4 議案第 2 4 号 令和 4 年度高原町国民健康保険特別会計予算
日程第 1 5 議案第 2 5 号 令和 4 年度高原町介護保険事業特別会計予算
日程第 1 6 議案第 2 6 号 令和 4 年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
日程第 1 7 議案第 2 7 号 令和 4 年度高原町水道事業会計予算
日程第 1 8 議案第 2 8 号 令和 4 年度高原町病院事業会計予算
日程第 1 9 議案第 2 9 号 令和 4 年度高原町工業用水道事業会計予算
-

出席議員（10名）

1 番 陣 圭介君	2 番 反田 吉巳君
3 番 松元 茂春君	4 番 中村 昇君
5 番 温水 宜昭君	6 番 福澤 卓志君
7 番 末永 充君	8 番 入佐 廣登君
9 番 前原 淳一君	10 番 温谷 文雄君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局長 中嶋 秀一君	書記（事務局次長） 中嶋 雄二君
	書記（副主幹） 古川 裕子君

説明のため出席した者の職氏名

町長	高妻 経信君	副町長	横山 安博君
教育長	西田 次良君		
総合政策課長	馬場 倫代君	総務課長	内村 秀次君
税務課長	平川 昌知君	町民福祉課長	水町 洋明君
環境保全対策監	高原 寿志君	ほほえみ館長	久徳 信二君
産業創生課長	森山 業君	農政林務課長	上村 洋二君
農畜産振興課長	田中 博幸君	建設水道課長	入佐 和彦君
会計管理者兼会計課長	酒匂 政利君	高原病院事務長	花牟禮 秀隆君
教育総務課長	末永 恵治君		

◎ 開会・日程

午前10時00分 開会

○議長（温谷文雄君）

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

○

◎ 日程第1 議案第7号 令和3年度高原町一般会計補正予算（第22号）

○議長（温谷文雄君）

日程第1、「議案第7号、令和3年度高原町一般会計補正予算（第22号）」を議題とし、前

回の議事を継続します。

これから、議題となりました議案第7号に対する総括質疑を行います。

質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

6点ほど質疑いたします。

まず、議案書の第6ページ、繰越明許費の補正なのですが、そのうちの土木費で3事業、それから災害復旧費で1事業、ごめんなさい、災害復旧費は除きます。土木費の3事業費についてそれぞれ繰り越しの経緯について説明をお願いします。

それから、議案書の48、49ページですが、昨日、病院事業の補正予算の可決となりましたけど、病院整備費につきまして、今回から操出の基準を見直したと説明があったのですが、どのように見直しをしたか踏み込んで説明がなかったのも、その辺りの説明をお願いしたいと思います。

それから、議案書54、55ページについて2問ほど。最後の議会なので、質疑をいたしますけれど。しいたけ等特用林産物の生産基盤強化事業なのですが、減額されている額が大きいので、その経緯など教えていただきたいのと、4つ目が一番下の合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策事業について、機械導入に係る補助説明だったのですが、どのような機械かという点と補助率について説明をお願いしたいと思います。

それから5つ目が議案書56、57ページ、商工業振興費の1、投資及び出資金ということで、地域商社への出資金が計上されておりますけれども、この地域商社への出資については、民間の方々からの出資を公募するのか否かっていう点と、その場合には、どのような手法で募集をかけていくのかという点について説明をお願いします。

それから最後になりますが、その下の企業立地促進事業、宮崎フリーウェイ工業団地企業立地促進補助金なのですが、財源として繰入金を充当していますけれども、基金の残高、本補正後の基金の残高について説明をお願いしたいと思います。

以上です。

○建設水道課長（入佐和彦君）

陣議員の御質問にお答えします。

予算書の6ページになると思いますけれど、土木費、道路橋梁費、道路補修事業でございますが、国の追加補正、これが2月の14日に交付決定されております。そのため、並木旭台線及び花堂佐土線については、補助と単独を含めまして、合計の4,005万円を繰り越すものでございます。

あと、また都市計画費の街路事業費、二葉村移線でございますが、これは事業認可の遅延によ

り、詳細設計、用地測量、建物調査等の発注がちょっと遅れておりまして、年度内に完了しないものとなっております。そのため、補助と単独を含めまして1,603万9,000円を繰り越すものでございます。

以上です。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

病院への繰り出しの考え方ですけれども、まず公営企業への繰り出しについては、大きく分けると2つあると考えております。1つ目は具体的な数字が示されているもの。あと2つ目がその数字が示されていないものがございます。具体的な数字が示されているものについては、いわゆるルール分と呼ばれるものでございまして、例えば元利償還金の2分の1だとか、3分の1を算入。あるいは救急医療の経費については、1病院当たり3,290万円プラス1病床当たり幾らというのがルール分でございます。このルール分につきましては、本町の例えば水道事業会計においても、行われておりまして、簡易水道建設改良事業費の元利償還金分、約780万円繰り出してしております。これにルール分につきましては、黒字や赤字は関係なく基準に基づいて支出しているものでございます。

2つ目が、具体的な定めがないものでございます。令和3年4月1日付で総務副大臣から発出されております、令和3年度地方公営企業への繰出金の通知がございすけれども、その中に、不採算地区病院の運営に要する経費の項目もございす。こちらの繰り出しの基準を読みますと、不採算地区病院の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるに相当する額が基準でございます。この基準には具体的な算出方法が示されておりません。赤字額の全額補填をするという読み取りもできずこととなります。このようなことから町立病院におきまして、県内の不採算病院の繰出額の基準について調査を行っていただきまして、本町に新たな基準を策定したと。実際どのような基準かと申しますと、他の自治体を参考にして地方財政計画の算出額、これを用いております。具体的にいいますと、1病床当たり307万円掛ける最大使用病床数でございまして、具体的な数字でいきますと307万円掛ける49床、これで計算しますと1億5,043万円、この額を繰り出しができる限度額と決めたところでございます。

実際、予算書の49ページを見ていただきますと、不採算地区病院運営費で1億4,852万5,000円、先ほど申した限度額を下回った金額で繰り出しているということでございます。以上でございます。

○農政林務課長（上村洋二君）

補正予算書の54ページ、55ページでございます。

しいたけ等特用林産物生産基盤強化事業191万5,000円を減額いたします。この理由といたしましては、既に交付決定等いただいていたのですが、事業費の3分の1程度を、補助を受けられる方が負担することで、御相談申し上げていたのですが、長引く新型コロナウイルス感染症等によりまして、販売不振であると。この2名の方なのですが、負担分の支出が厳しいことで、県の方にも相談いたしまして今回、減額補正をするということでございます。

あともう1つ、合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策事業でございます。この事業は工業団地のほうに進出されました、製材工場につきまして、補助をするものでございまして、補助の内容は、モルダー加工ライン一式、あとフォークリフトでございます。フォークリフトは通常のフォークリフトでございますが、モルダー加工ラインは、製材をいたしました材料をいわゆる鉋仕上げ、4面を一度に鉋加工仕上げをして製品として出荷できると。最新式だそうですが、それを導入したいということで、補助事業を申請されております。総事業費1億7,561万5,000円です。1億7,561万5,000円、このうち、税抜き分が1億5,965万円。1億5,965万円ですが、これに対して2分の1の補助でございます。ただ、補助を受けられました申請者のほうで、当然入札をされますので若干その分が下がることで、ちょうど2分の1にはなっておりませんが、その分を見込んで補助の内示をいただいていると、補助を受けることになっているということでございます。

以上でございます。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

まず、地域商社におきます株式の出資の方法でございますけれども、こちら地域商社、町民や農業者、事業者の方等を根差した会社にするために、まずは効率よく合意形成と設立をするために主だった物産あるいは観光、そのような団体の方に、まず出資のお願いをしてみたいと思っております。その後、協力いただける方、事業ごとに増収していく形で、株式のほうを増やしていきたい考えで、考えているところでございます。

そして、フリーウェイ工業団地に伴います出資金の基金残高でございますけれども、今のところ、今年度、基金の積立て等も行いましたけれども、見込みでございますが、1,923万7,000円。1,923万7,000円を、令和4年3月末で見込んでいますとでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

大体は分かったのですが、2点目の病院整備費について2点追加なのですが、先ほど説明の中で49床と話がありました。39床の間違ひではないですか。その辺り説明いただきたいのと、今回、操出基準を見直したことで、今までの要は、その解釈によっては赤字補填に当たるよう

な考え方になる部分について、なかなか説明が難しいと思うのですよ。あの一般の町民の方々に。今までは具体的に総務省の繰出基準で金額が明確化されていたものに加えて、今までであれば、ルール外の赤字補填に当たるような繰り出しをやっていた部分を、何らかの理由を、勿論、総務省からの通知によるのですけれど。従来と比べると、プラスアルファの繰り出しをしているわけなので、その辺りの説明がなかなか難しいと思うのですが。要は、総務省が通知したのは、あくまでも不採算地区に対するものではなくて、現下のコロナ禍における業績不振もあるだろうという配慮があったのか、なかったのかの点について説明をお願いしたいと思います。

それから、1点確認なのですが、地域商社の出資なのですけども、あくまでも参加事業者の持ち株でやっていくのか、それとも外部に公開して出資を募るような形でやるのかという点でみると、今の話だと事業者の持ち株でやっていくのかと思ったのです。その点確認で説明をお願いします。

○町長（高妻経信君）

ただいま陣議員のほうからの病院への繰り出しの件で質問が、2点目、私のほうからの説明をさせていただきますが、今回、地方財政計画に基づく総務省の通知による繰出基準の見直しを本町でも行おうと。これ先ほど総務課長の説明にもありましたように、県内の公立病院におきましてもこういった基準を使っているところがあります。今おっしゃるように赤字が見えないじゃないかと、そういう事だと思います。当然、繰出基準を見直した中で、今回も予算を上げておりますけども、その内訳、そういったものは当然説明を当然今の状況を含めまして説明をさせていただくと、これは議会での説明をさせていただく必要がありますので、また数字等につきまして、また委員会で説明をさせていただきますのでよろしくお願ひしたいと思います。

○総務課長（内村秀次君）

病床数についてでございますけど、最大使用病床数、今年度また56床のうち49床と伺っております。

以上でございます。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

今回、町の方の出資の後は、事業の方を公募いたしまして、それを増資という形で、公開という形でやっていきたいと思っております。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これをもって、総括質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第7号は、お手元に配付の委員会付託一覧表のとおり、所管の常任委員会に付託の上、審査することにしたいと思えます。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。

よって、議案第7号は、お手元に配付の委員会付託一覧表のとおり、所管の常任委員会の付託の上、審査することに決定しました。

○

◎ 日程第2 議案第12号 高原町消防団設置条例の全部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第2、「議案第12号、高原町消防団設置条例の全部を改正する条例」を議題とします。
当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第12号、高原町消防団設置条例の全部を改正する条例について御説明いたします。
議案書23ページをお開きください。

今回、国からの消防団員に対する処遇改善についての報酬基準額が示され、全国的に消防団員の報酬等が見直されるものであり、内容が大きく変わることから、附則において消防団員の報酬及び費用弁償に関する条例を廃止し、高原町消防団設置条例の中に団員報酬、出動報酬を規定し、条例の全部改正を行うものでございます。

特に大きな改正は、出動報酬を新たに定めるものでございます。

本町においては、これまで消防団員の各種出動については、費用弁償として一律の金額で支給しておりましたが、今後は、出動報酬として、出動の種類、時間により支給額が変わってくるものでございます。

また、団員報酬についても、現在、班長と団員の報酬額が同額であることから、班長の報酬額の変更を行うものでございます。

さらに、消防団各部の部長、副部長、班長の任期についても、各部の現状に合わせて現行の2年から1年へ変更するものでございます。

施工期日につきまして、この条例は、令和4年4月1日からの施工するものでございます。

なお、報酬、費用弁償の変更等の詳細につきまして、総務課長をもって説明いたさせます。

以上でございます。

〔降壇〕

○総務課長（内村秀次君）

〔登壇〕

それでは、団員の報酬、費用弁償の改正内容について説明いたします。

まず、報酬についてですが、現在の条例では班長と団員につきましては、報酬額が年間52,400円となっております。同額でございました。

班長につきましては、上司の命を受け団員を指揮して業務に従事することから、報酬額を55,000円に引き上げるものでございます。

次に、費用弁償の改正でございますが、現在、消防団員が火災出動、捜索出動、訓練出動、警戒出動などを行った際には、出動時間に関係なく一律で1回当たり2,500円の費用弁償を支払っておりました。

今回、国より消防団員に対する処遇改善についての報酬基準額が示され、全国的に消防団の報酬等が見直されるもので、西諸2市1町で協議を行い、西諸で統一した額を定めるものでございます。

具体的には、現在の費用弁償支給を出動の種類、出動時間に応じて出動報酬として支出するものでございます。4時間以内の火災出動、災害出動、捜索出動については、1回当たり4,000円、4時間以内の訓練出動、警戒出動、その他の出動については、1回当たり3,000円、4時間を超え8時間以内の火災出動、災害出動、捜索出動については、1回当たり8,000円、4時間を超え8時間以内の訓練出動、警戒出動、その他の出動については、1回当たり6,000円とするものでございます。

以上でございます。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○4番（中村昇君）

今回の見直しは、これまで消防団員の方々の費用弁償のみしか手当がなされてなかった中で、お願いをしてきたわけでありましてけれども、今回、こうした出動手当がそれぞれ出されることで、消防団員の確保にもいい影響が出るのではと思っておりますし、また団員の方々の出動もしやすくなるのではと思います。

国からの見直しによって、この財源措置はどうかされるのでしょうか。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

基本的には、交付税措置がされるということでございますけれども、実際、全額がされるかどうかというのが、まだ詳細が分からないところでございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

○6番（福澤卓志君）

今回、報酬について改正されるものでありますけども、消防団員の成り手不足に伴う長期に及ぶ消防団員歴の問題、様々な問題等もございます。今回の本条例を広く町民等に知らしめていただき、町当局におかれましても、消防団員募集に力を入れていただきたいと思っております。

○議長（温谷文雄君）

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第12号を採決します。

議案第12号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第3 議案第13号 特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の

部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第3、「議案第13号、特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第13号、特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書26ページをお開きください。

今回の改正は、公平委員会の委員の報酬について改正するものであります。

御案内のとおり、公平委員会は、地方公務員の労働基本権が制限されている代償として、中立的な立場で職員の利益の保護と公正な人事権の行使を保障するために設けられている行政委員会であります。

特に、公平委員会の最大の特徴は、それが行政機関でありながら、一定の事項に関しては、それを法に照らして判断する司法に準じた機能を有する行政委員会であり、その業務は、一般の委員に比べ、非常に複雑で困難性が極めて高いものでありますことから、本町の審査機能的な附属機関である「いじめ問題再調査委員会」や「行政不服審査会」をはじめ、他町村の例を参考に、その報酬額の引き上げをお願いするものであります。

なお、「委員長の月額5,700円」と「委員の月額5,600円」を、いずれも「月額1万円以内で町長が定める額」に改めることとしておりますが、具体的な支給額につきましては、定例的な会議については現行の額とし、また、措置要求や審査請求に係る会議等を行った場合には、改正後の上限額の範囲内で、例えば委員長には「10,000円」を、他の委員には「9,000円」を支給したいと考えております。

また、その扱いについては、改正案を可決いただいた後、支給に関する要領等を決定したいと考えており、この条例は、令和4年4月1日から施行するものでございます。

以上、御審議の程よろしく願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第13号の採決を行います。

議案第13号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第4 議案第14号 職員定数条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第4、「議案第14号、職員定数条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第14号 職員定数条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

議案書の27ページをお開き下さい。

教育委員会事務部局におきましては、町立小・中学校施設整備の業務が増加しますことから、職員定数を12人から15人へ増員するものでございます。

なお、この条例は、令和4年4月1日から施行することといたします。

以上、御審議の程よろしくお願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○1番（陣圭介君）

教育委員会の事務部局の職員の増員ということなのですが、この増員は一時的なものなのか、それとも後継的なもので、施設整備後も元に戻さないのかという点と、現在いる職員の方々の配分を変更するなどして対応できなかったのかという点について、答弁をお願いします。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

まず、先ほど町長が説明しましたとおり、今回は施設整備のために増えるということで、施

設整備が終われば職員は減になるというものでございます。次ですけれど、実際、今、教育委員会におきましては、令和2年度については、職員数は10名でございました。令和3年度に文化財係を設置したことによりまして、2名増えて、今定数の12人になっているところでございまして、今後、先ほど申したとおり学校の施設整備が始まりますと、もう12を超えてしまうことで、限度額である、限度額というか、定員一杯である15名に今回させていただくことで、学校整備後は、また職員数が減っていくことで考えているところでございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

正規の職員さんを増やすとすると、一時的な増員の話になるのですが、将来的な職員の退職に伴う不補充とか計画を、現段階から作っておかなければいけないと思うのですが、その辺りはもう既に見通しは立っているのか否かについて説明をお願いします。

○総務課長（内村秀次君）

御質問にお答えいたします。

現在、臨時的に増える分あるのですが、退職者不補充をやはり数年続けていくことで、数年後には元の数字に戻る計画でございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○6番（福澤卓志君）

町長にお伺いしたいと思います。

今回この改定は、教育委員会、あくまでも人数の定数の増減だったと思うのですが、例えば次年度、病院や、あと各公務部署において人数のパワーバランスであったりの見直し、一緒に諮ることができたのではと思うのですが、今回この一部分であったところ、その全体見直した上でのこの一部分だったかどうかを合わせて聞きたいと思います。

○町長（高妻経信君）

まず、今回の条例改正、教育委員会の職員でございまして、今回の議会で、一般質問にもお答えしましたが、令和4年度から学校施設整備に、具体的に取り掛かってまいります。そうなりますと、当然、技術職等も充必になってくることも踏まえまして、今回、このような条例改正をお願いしているところでございます。

そうなりますと、今の時点に技術職は限られた人数でございまして、また技術職は、今の計画では、令和5年度に配置することになるかと思っております。当然、ほかの課との調整も出てまいります。今回もほかの課との調整が出てまいりますので、これまた人事異動の際に、

全体的にはその影響をもって調整をすることにはなろうかと思います。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

今、議会事務局の職員さんは、大変御苦労されておられますので、その分の増員の考えであったり、今後その人数が、増えたり減ったりと考えられる可能性がありますので、その点も合わせて今後検討いただきたいと思います。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第14号を採決します。

議案第14号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第5 議案第15号 高原町児童プール及び児童遊園の設置並びに管理運営に関する
条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第5、「議案第15号、高原町児童プール及び児童遊園の設置並びに管理運営に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第15号、高原町児童プール及び児童遊園の設置並びに管理運営に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の28ページをお開きください。

今回の改正は、出口児童遊園について、その用途を廃止するために改正を行うものでございます。

本町におきましては、児童の健康増進と情操育成を目的として、児童プール及び児童遊園を設置しているところでございます。

出口児童遊園につきましては、昭和56年に完成し、供用を開始しましたが、近年は、地区における少子化や施設の老朽化等により、利用する児童もなく、今回、地元から児童遊園の用途廃止の申し入れがございましたので、その用途を廃止し、改正をするものでございます。

以上御審議のほどよろしくお願いいたします。 [降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○1番（陣圭介君）

廃止される遊園に、何かしら施設が現在あるのかないのかの点と、用途廃止後の跡地の利用や処分の考え方について説明をお願いします。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

まず1点目の施設につきましては、ブランコがございます。ブランコのみ敷地内にございます。あと、廃止後の活用についてでございますが、現在のところ、これと決めてはいないのでございますが、今後、地元をはじめとする方々と、有効活用について検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

ブランコの処分については、どのような計画ですか。

○町民福祉課長（水町洋明君）

お答えいたします。

令和4年度の予算に、施設のフェンスもございます。フェンスの撤去とブランコの撤去費用を計上いたしております。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

議案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第15号を採決します。

議案第15号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第6 議案第16号 高原町都市公園条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第6、「議案第16号、高原町都市公園条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第16号 高原町都市公園条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

議案書の29ページをお開きください。

高原町都市公園内の有料公園施設等につきましては、令和3年10月から指定管理者制度を導入しまして、管理運用しているところでございます。

このような中、総合運動公園内の各施設につきましては、使用料の単位及び金額に、現状と沿わない部分もありましたことから、管理運営側はもちろん、利用者にもより分かりやすく改正するものでございます。

主な、改正についてでございますが、使用料について定めております別表第4中、各施設につきまして、その単位を1時間へ変更するものでございます。

このほか、備考欄におきまして、児童生徒及び幼児の使用料について明確化し、端数処理につ

いても明文化するなど、所用の改正を行っているところでございます。

なお、この条例は、令和4年4月1日から施行するものでございます。

以上、御審議の程よろしく申し上げます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○1番（陣圭介君）

2点ほどお聞きします。

非常に細かいことになるのですが、改正前後の金額を見ると、児童生徒の1時間当たりの単価と、改正前の午前午後の基本料金の金額と比べると、恐らくですが、午前中は4時間、午後は5時間で計算していると思うのですよ。その考えに基づいて、一般の方の金額をみると、1円単位のところがずれている気がして、その改正前後の単価の額と、改正前後の金額等が、整合しない気がしてしょうがないのですよね。その辺り、どの算定で一般の金額を決めた点をお聞きしたいのと、先ほど町長からの説明でも1時間未満の端数処理についても規定があるとのことでしたが、端数処理についてこだわるのであれば、例えばこれ指定管理者にお願いしているわけですから、1時間当たりの単価自体も、例えば、10円未満の端数については、切上げや、切捨てをすればよかったですのではと。その方が管理のやり方として、都合がよかったですのではないかと気がするのですけれども、その辺りの考え方を教えてください。

○教育総務課長（末永恵治君）

確かに陣議員がおっしゃいますように、微妙にずれがございしますが、これは消費税導入のたびに、改正して、よってずれが生じたためで、今回の改正で児童生徒の場合が一般と、改定の整合性をとったところでございます。

あと、端数312円でございすけども、あくまでもこれは、条例上の改正で、指定管理者においては、「利用料金は、町長の承認を得て定めることができる」と協定がありますので、その整理がつけば、協議が整えば、310円や300円にできることも可能であると考えております。

以上であります。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありますか。

○4番（中村昇君）

今回の利用料の見直しで、町内の方については、利用しやすくなるのではないかと思いますけれども、町外の方については、2倍の料金になることでもありますけれども、使用料全体につい

て、使用料収入について、この見直しによってどう見ていらっしゃるのかお伺いをいたします。

○教育総務課長（末永恵治君）

利用料につきましては、今、指定管理者の収入となっておりますが、利用料金については、今と収入はさほど変わらないのではないかと感じているところであります。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第16号を採決します。

議案第16号は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第7 議案第17号 高原町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第7、「議案第17号、高原町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第17号 高原町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の32ページをお開きください。

今回の改正は、高原町中央公民館の使用料を徴収する部屋について改正するものであります。現在、中央公民館には、会議室、和室等を条例の規定に基づき、使用料を利用者から徴収しておりますが、現状とそぐわない貸出となっております。

和室については、平日の日中は、適応指導教室、その他部屋については、就学支援相談等に活用いたしていることから、現状としては、貸し出すことが不可能となっております。

また、教育委員会においては、令和3年度において文化財系の配置、次年度以降、学校統合や教育振興基本計画改定業務等、業務量の増大が見込まれることから、現在の執務室が手狭になってきております。このことから、教育長室を2階に移動し、執務室の確保を図りたいと考えております。

なお、この条例は、令和4年4月1日から施行するものでございます。

以上、御審議の程よろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。反対の討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第17号を採決します。

議案第17号は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

総員起立です。よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第8 議案第18号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第8、「議案第18号、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

議案第18号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の34ページをお開きください。

今回の改正は、非常勤職員の育児休業等の取得要件の緩和及び職員に対する育児休業を取得しやすい勤務環境を整備するための措置を規定するため、所要の改正を行うものでございます。

令和3年6月9日に交付された、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律及び雇用保険法の一部を改正する法律」は、主に民間の事業主及び労働者を対象としたものであります。

これにより、国家公務員においては、令和4年2月17日に、人事院規則の改正が交付され、地方公務員においても、国家公務員の措置との権衡を踏まえる必要があるため、所要の改正を行うものでございます。

詳細につきましては、総務課長をもって説明いたさせます。

御審議の程、よろしく願いいたします。

[降壇]

○総務課長（内村秀次君）

詳細について、御説明いたします。

まず、第2条及び第18条の改正につきましては、育児休業及び部分休業を取得できる非常勤職員の要件から、「在籍した期間が引き続き1年以上であること」の記載を削除するものでございます。

次に、第22条及び第23条につきましては、新たに設ける規定でございます。

第22条におきましては、本人または配偶者の妊娠、出産等を申し出た職員に対する育児休業制度等の周知及び育児休業の取得意向の確認のための措置を講ずること、並びに申出を行った職員に対する不利益な取扱いを防止する規定を定めるものでございます。

第23条におきましては、育児休業を取得しやすい勤務環境を整備するための研修の実施や、相談体制の整備について定めております。

なお、この条例は、令和4年4月1日から施行するものでございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第18号を採決いたします。

議案第18号は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

総員起立です。よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第9 議案第19号 高原町皇子原公園の設置及び管理に関する条例及び高原町御池
キャンプ村の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第9、「議案第19号、高原町皇子原公園の設置及び管理に関する条例及び高原町御池
キャンプ村の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第19号 高原町皇子原公園の設置及び管理に関する条例及び高原町御池キャンプ村の設
置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の37ページをお開きください。

御案内のとおり、皇子原公園及び御池キャンプ村につきましては、高原町民の健康増進、健全
な余暇活動を図るための施設整備がなされております。

まず、皇子原公園でございますが、この度、屋根付き大型遊具、木育遊具施設、飲食提供施設
を整備することができました。このうち、飲食店提供施設においては、事業者等へ、有料によ
る賃借が行えるようにするため、利用区分、使用料の追加を伴います、所要の条例の一部改正
を行うものでございます。

次に、御池キャンプ村でございますが、御池湖畔に隣接する自然体験工作館について、日帰り
キャンパーなど、当該施設の活用を希望される場合が増えております。今後は、光ファイバー
の敷設など、ワーケーション等による活用の増加も見込まれることから、利用区分、使用料の

追加を伴います、所要の条例の一部改正を行うものでございます。

詳細につきまして、担当課長より説明いたさせます。

以上、御審議の程、よろしく願いいたします。

[降壇]

○産業創生課長（森山業君）

御説明申し上げます。まず、高原町皇子原公園におけます条例改正について御説明さしあげます。

今、町長の御説明の中にもございましたとおり、今回おかげをもちまして、屋根付の大型木製遊具、木育遊具施設、飲食店提供施設の整備が終了いたしました。コロナ禍におきまして、飲食提供施設につきましては、今回、町内の民間事業者様によります運営開始の目途が立ちました。今回、この施設を利用するに当たりまして、今年度におきましては、試験的に運用等を行い、その施設にどのような経費がかかるのか、あるいは、今後の利用等、オペレーション等について検証してきて、今回、この使用料の設定を行ったところでございます。

今回の施設は、宮崎県森林組合連合会様の寄附等を頂いて、今後有効に活用していくこともございまして、今回町民の皆様にも有意義に使っていただくためのものの利用料の改定と申しているところでございます。

また、御池キャンプ村でございますけれども、湖畔でございます工作館、こちらにおきましては、今まで学校等で行います巣箱作りとか、木工作り等、ある程度公共的な利用のほうに限られていたものでございます。

しかしながら、今回、利用者が、アウトドア等のブーム、あるいは、このコロナ禍におきまして増えたことによりまして、利用させて欲しい、特に雨天時等は子供の遊ぶ場として開放して欲しいなどの御相談がございました。今後、今まで、この利用料等を設けて、日帰りのお客様、あるいはその都度使われるお客様等についても御利用いただけると。こちらは新たな収入源で活用していくためにも、使用料を設けまして、両施設とも指定管理者が入ってございますので、健全な運営等に資する利用料金の徴収、こちらに繋げていくことに関しましても、新たに使用料を設けたところでございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○4番（中村昇君）

この神武の館の飲食提供施設、1か月4万5,000円という設定なのでございますけれども、これまで、レストハウスですかね、何軒か入ってなかなかうまくできなくて、出られた方々が多いのでございます。

○議長（温谷文雄君）

中村議員、言葉はもうちょっとはっきりと。

○4番（中村昇君）

はい。この料金設定ですよ、どのくらいの方が、飲食を利用されるのか分かりませんが、1か月4万5,000円となると、相当売上げを図らないと利益がでない。この売上げの何%と設定は考えられなかったのか、業者の方が、まあこれでいいということで入っていたければ、売上げもそれほど見込んでの上での、施設に入られることだと思うのですけれども、その辺りについての考え方をお伺いいたします。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答え申し上げます。今回の飲食店利用施設の家賃の試算でございますけれども、こちらにつきましては、まず試作的に、今回コロナ禍でございましたけれども、土日等のみの運営等もあったりして、なかなか難しいところもあつたわけでございますけれども、まず、そこで見かけます業者様の、例えば、どれだけ経費がかかってどれだけ売れるか、こういうのも、価格を設定して、どれだけ利益があるかをまず検証して、事業者様と打ち合わせしまして、1か月の大体この売上げ、これを大体損益分岐点、これを大体決定させていただきました。だいたい売上げを、幾らから幾らとお話があったものですから、それを基準に、まず、これだったら払える、ある程度家賃の設定を、今回、この事業者を基準に設けさせていただきました。また、それを検証するために、小林、都城、こちらにございます大体同じような面積のところの建物、こちらについて調査を入れまして、価格の適正を大体図ってまいりました。大体、この平均にしても、大体この4万5,000円というところが妥当というところは判断しました。また、今後、こちらの施設を建てた後、管理が要ります。具体的には、お客様が利用されますので、安全に利用していただくために、掃除とか、コロナ禍でございますので、ある程度の人件費も必要になってくることを、指定管理事業者とも相談いたしまして、その人件費分を考慮しても、ある程度、その、指定管理者、それと事業者ともに、これだったらやっていけることで、今回この基準を設定いたしました。

今、中村議員さんからもございましたので、今後この飲食店の利用施設が、どのような業者がやっていくかはわからないところでございます。指定管理者の今後変更等もあるかもしれません。その中において、その都度、この使用料を、先ほど末永課長のお話もございましたとおり、基準に、町と協議しながら、この利用料金の設定については、今後検証しながら、進めていきたいと思っておりますのでございます。

以上でございます。

○4番（中村昇君）

この家賃の料金のほかに、電気代とかありますよね、それらも含んだ設定でしょうか。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。電気料につきましても、一応、運営を始めてから電気代の試算も3か月一応はかりました。こちらのほうの利用料金も、一応、今回事業者様のほうが支払いする形も考えております。今後は、こちらのメーター、これをどうしていくか、オープンとか、熱を使ったりするのもあるものですから、そこは1年間、オペレーションをある程度通した中で、指定管理者、事業者、こちらのほうで協議していったものを町に承認という形で、臨機応変に対応していければと考えているところです。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

施設整備について、公費の支出があったわけですがけれども、その償却年数と、この家賃設定とのバランスについてどうお考えだったのかという点が1点。それから、私も、短期間でしたけれども、カフェやったことあるのですよ。で、飲食の単価からすると、カフェの単価って非常に低いので、なかなかトライアル期間をもうちょっと長く設定しないと、なかなか損益分岐点というのは、短期間のトライアルでは見えてこないと思うので、使用料収入やテナント料を取るにしても、まだ、この金額設定でやるのは若干早かったのではと、私は感覚を持っているのですけれども。テナント料の収入として取る以上は、条例の設定は必要だとは思っているのですけど、もう少し何らか別の一般会計で事業を組むなりして、そういった事業者をまずトライアルで応援することが考えられなかったのかと、私は個人的には思うのですよね。その辺りの考え方を、2点目としてお伺いしたいと思います。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前11時08分 休憩

午前11時09分 再開

○議長（温谷文雄君）

引き続き会議を開きます。議事を継続いたします。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

まず、1点目の、この施設整備費等にかかったバランスでございます。こちらにつきましては、施設内の中に建屋を建てた感じになっておりますので、この耐用年数等につきましては、長めの20年ほどの形で見込んだところでございました。

今回、この施設の耐用年数によって、この4万5,000円を換算したときに、約、これが33万6千500円ほどかかっているわけですが、これを4万5,000円の収入と、人件費を大体2万7,000円掃除等を見込んだ時に、大体1万8,000円ぐらい残りが、利があつていった場合に、大体とんとんになってくることも考えたわけですが、指定管理者の方で、このお客様が家族連れで来ていただいて、その他で、今まで行う釣りとか、ゴーカートとかの使用料も上がってくることも考えまして、この料金については、バランスは、家族連れ、子供、この遊具を一体的に使うものが増えること、雨天時の利用もあることで考えながら、考慮したところでございます。

また、2点目のカフェにつきましては、陣議員様もやっておられたとのことで、御指摘のとおり、本当に、この期間で、しかもコロナ禍で、非常に全く使用料を決めないことには、条例で、料金、賃貸料が取れないこともございまして、これを上げたわけですが、町長からも御助言いただいたとおり、この施設を使って、中で、このコロナ禍でも製造をされて、それで、御自分で役場庁舎もそうですけども、ネットとか、この作った品物を御自分で売られる形で、別に収入を上げる努力もされる、休んでいる間も、この施設を利用して、色々お菓子の試作品とか、そういうものを作るような形で、御自分で努力されていると。プラスアルファの収入も見込まれると。そして、この施設のオープンにつきましては、人が多く来られるように頑張っていきたいとお話もいただいたものですから、この金額を設定しました。

いずれにしても、施設につきましては、今後いろんな人の利用等について、おそらく、人の好み等ありますので、その都度、この利用料金等につきましては、指定管理者、事業者、町と一体になって、協議しながら検討をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。反対の討論はありませんか。

○6番（福澤卓志君）

おおむね、陣議員や、中村議員の質問の中にもありましたとおりに、この施設を利用される方々、今まで日の目を見なかったスポットが、今ようやく日の目を見ている状態であること。また料金設定についても、これが妥当かどうか、また今後検討していく返答であれば、今ここで、条例でこの金額を制定するのはいかなるものか。また、工作館に関しても、一律料金を設定され

ていますが、例えば児童生徒の料金は幾らかなのか詳細も出ていない中で、本条例のこの料金規定は、通常高いと、私は思いますし、検討の余地があるのでしたら、再度考えていただきたい。よって、反対の立場で答弁いたします。

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第19号を採決します。

議案19号は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第10 議案第20号 高原町介護保険条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第10、「議案第20号、高原町介護保険条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局からの提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第20号、高原町介護保険条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

議案書の39ページをお開きください。

今回の一部改正は、令和4年度の保険料の軽減につきまして、御審議いただくものでございます。介護保険料につきましては、被保険者の所得、世帯の課税状況等に応じた負担となっております。

第8期介護保険事業計画の令和3年度から令和5年度におきまして、高原町の介護保険料は、9段階の区分となっていてございます。このうち、第1段階から第3段階までの保険料については、消費税増税分を財源に、低所得者への保険料軽減強化が図られております。

この保険料軽減強化について、令和4年度も引き続き図られることから、所要の改正を行うものでございます。改正の内容といたしましては、第3条第2項から、第4項中、「令和3年度」とあるものを「令和4年度」に改め、附則にて施行期日を令和4年4月1日とし、経過措

置を定めるものでございます。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。反対の討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第20号を採決します。

議案第20号は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

総員起立です。よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前 11時17分 休憩

午後 1時10分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○

- ◎ 日程第11 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算
- ◎ 日程第12 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- ◎ 日程第13 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
- ◎ 日程第14 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算
- ◎ 日程第15 議案第25号 令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算
- ◎ 日程第16 議案第26号 令和4年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
- ◎ 日程第17 議案第27号 令和4年度高原町水道事業会計予算

◎ 日程第 18 議案第 28 号 令和 4 年度高原町病院事業会計予算

◎ 日程第 19 議案第 29 号 令和 4 年度高原町工業用水道事業会計予算

○議長（温谷文雄君）

日程第 11、「議案第 21 号、令和 4 年度高原町一般会計予算から、日程第 19、議案第 29 号、令和 4 年度高原町工業用水道事業会計予算」までの議案 9 件を一括議題とします。

町長の施政方針並びに各案の提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

それでは、マスクを外させていただきますので、よろしく申し上げます。

令和 4 年度の各会計の当初予算案並びに、関連諸議案を御審議いただくに当たり、町政運営に臨む私の基本的な考え方を説明申し上げ、議員各位をはじめ、町民の皆様の御理解、御協力を賜りたいと存じます。

高原町は、町政を施行し今年で 88 年目を迎えることとなります。これまでの本町の歴史において、先人は戦争や火山噴火、豪雨などの自然災害をはじめ、幾多の困難を乗り越えながら恵まれた自然を守り、道路、水道、電気、病院、学校などの整備、教育、福祉の充実など、私たちのために豊かで住みよい高原町を築いてきてくれました。私には、先人のこれまでのたゆまぬ努力に感謝するとともに、高原町をよりよい町にして、また次の世代に引き継ぐ責任があります。

高原町では、人口減少が続いており、特に生産年齢人口の減少が目立っています。私は、移住定住や雇用対策、少子化対策などの人口減少対策とともに、人が減っても持続可能なまちづくりをいかにしていくかが高原町にとっても最も大きな課題であり、このことを常に見据えた行政運営が求められていると考えています。

少子高齢化とともに、行政需要の変更と多様化が進んでいる中で、更に環境問題、SDGs への対応、自然災害、デジタル化、エネルギー、感染症対策など、世界的な視野で取り組まなければならない新たな課題も多く出てきています。現在の自治体に求められているのは、刻々と変化する自治体を取り巻く環境の変化に、いかにスピード感をもって対応できるかではないかと思えます。

そのような中、令和 4 年 1 月に示された、令和 4 年度地方財政計画の概要において、一般財源総額について、実質ベースで、令和 3 年度を 0.2 兆円上回る額が確保されました。また、地方交付税の確保については、出口ベースで前年度を 6,153 億円、3.5%上回る額が確保されています。

続きまして、宮崎県の令和 4 年度予算編成におきましては、新型コロナウイルス感染症対策や人口減少対策、防災減災、国土強靱化対策をはじめとする、本県の諸課題に的確に対応すると

ともに、将来を見据えた、新たな成長活力の創出につなげる取組の、積極的な展開を図るとされ、1番目にコロナ禍の復興と新たな成長活力の創出。2番目に人口減少対策の取組強化。3番目に安全・安心で魅力ある地域づくりの3点を重点施策とし、必要な措置を講じることとされております。

では、令和4年度におきます本町の財政状況を見通しますと、歳入面では、固定資産税等の増収は見込まれるものの、新型コロナウイルス感染症による社会経済活動の回復が不透明なことや、生産年齢人口の減少が続くことで、市町村民税への影響が懸念されます。

また、臨時財政対策債の大幅な減少が見込まれるなど、一般財源の確保が非常に厳しい状況であります。

そのような中ではありますが、ふるさと納税による寄附額につきましては、増額を見込んでおります。

一方、歳出面では、扶助費等の社会保障経費が、年々増加していることに加え、公共施設の老朽化対策などを計画的に行っていくことが必要であり、財源の確保が大きな課題であると考えております。

また、引き続き新型コロナウイルス感染症による経済活動や、日常生活への影響を抑えるべく、感染防止対策に努めながら、必要な支援を進めてまいりたいと考えております。

このようなことから、引き続き行財政運営の効率化を図り、緊急性、優先性を十分に検討、協議するとともに、国や県などの補助事業を活用するなど、可能な限り、財源を確保した上での予算編成を行ったところであります。

以上の点を考慮しながら予算を取りまとめた結果、令和4年度当初予算案の歳入歳出規模につきましては、一般会計当初予算額58億7,900万円、対前年度比で1億9,600万円の増額、比率では3.4%の増となったところであります。

また、国民健康保険事業特別会計など、5つの特別会計全体で32億3,079万6,000円。水道事業会計、病院事業会計、工業用水道事業会計の3つの企業会計全体で、13億7,253万5,000円。以上、9会計合わせました令和4年度の予算総額は104億8,233万1,000円、前年度比5,245万5,000円、0.5%の増となったところであります。

それでは、令和4年度に取り組みます、重点施策の概要につきまして御説明申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症対策についてであります。

我が国では、新型コロナウイルス感染症が初めて確認されてから2年以上にわたり、感染拡大の影響を受け続けております。私たちの日常生活はもとより、仕事、我が国の経済や観光などへの影響は甚大であり、3回目となるワクチンの接種の推進、子供へのワクチン接種、新薬の開発や承認などの対策は進んでいますが、依然として先が見通せない不透明感に世の中全体が

包まれております。

感染拡大は、長期化することも予想され、今後もウイズコロナ、アフターコロナを見据えた各種の支援や情報発信、環境整備に努めてまいります。また、教育面においても、コロナ禍であっても子供たちに教育の機会、質を保つ環境整備に取り組んでまいります。

宮崎県全域で適応されていましたが、新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置は、3月6日で解除されました。この間、高原町においても、感染力が強いと言われるオミクロン株の感染者が多く発生し、本町初めてとなるクラスター感染も発生しております。しかし、飲食店や町民の皆さんの日常的な感染防止対策の徹底により、さらなる感染拡大には至っておりません。日々、感染リスクと闘いながら、感染患者の受入れや、ワクチン接種などの業務に従事されている医療従事者や、介護福祉従事者をはじめ、多くの皆様の御協力によるものと心から感謝を申し上げます。

まん延防止等重点措置の解除を受けて、県は、県独自の感染拡大緊急警報を3月31日まで継続し、3月7日から3月31日までを、リバウンド防止強化月間に設定しています。「感染しない、感染させない」の気持ちが途切れることがないように、基本的な感染防止対策を、引き続き町民に呼びかけてまいります。

次に、農林畜産業、商工業の振興と雇用の創出であります。

本町の、基幹産業である農業の振興であります。本町農業の販売額の約4分の3を占める畜産では、後継者が確実に育っており、経営の規模拡大も進んでおります。

一方、町として均衡ある農業振興を進めて行くには、さらに畑作を振興していく必要があります。畑地かんがい事業の通水が始まっている地域では、所得増の効果がはっきりと表れており、畑地かんがい事業を推進しながら、施設園芸など、畑作のさらなる振興に努めてまいります。また、農地保全、担い手の育成、認定農業者の確保等に積極的に取り組み、集落営農を中心とした集団型農業を引き続き推進してまいります。

今年の10月に、第12回全国和牛能力共進会が鹿児島県で開催されます。高原町にとりまして、地の利を生かすことができるまたとない機会でもあります。本町から、ぜひ1頭でも多くの出品がかないますよう出品対策を行い、畜産の町高原をアピールしてまいりたいと考えております。

林業振興といたしまして、森林環境譲与税を活用し、喫緊の課題である森林整備に対応するため、人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発、そして集積計画の策定などに取り組んでまいります。

次に、地域商社に関しまして、本町では少子高齢化、若者の町外流出、雇用の喪失などの課題を抱えている中で、時代の変化や、多様性への広がりやスピードを増しています。これらの課

題を行政の仕組みの中で解決していくのは難しい時代となっており、時流に則した課題解決や、地域の稼ぐ力の向上には、民間との連携が必要です。そこで、高原町では物産と観光を中心に、様々なまちづくりの事業を展開する、地域商社を令和4年度中に設立することといたします。町民の所得向上や、事業者、農業者の売上向上を図ることで商いの流れをつくり、関係人口の創出により、民間ノウハウを生かしていきたいと考えております。

地域商社の名称は、公募により「奥霧島地域商社ツナガルたかはる株式会社」に決定いたしました。JA、商工会、観光協会など町の団体との連携を密にしながら、将来にわたって活力ある高原町を築いてまいります。

フリーウェイ工業団地では、企業の立地が順調に進み、これまで9社が立地し、二百数十名の雇用が創出されております。現在でも引き合いがあり、全区画の分譲とさらなる雇用を実現してまいりたいと考えております。

空き店舗対策については、徐々に効果が見られており、引き続き商工会と連携しながら、店舗の改修助成と、事業承継マッチングを活用した商業の再生を図ってまいります。

次に、観光振興について、でございます。

高原町は、自然環境に恵まれ、また天孫降臨や神武天皇御生誕の地などの神話伝説、国指定重要無形民俗文化財「高原の神舞」をはじめとする伝統文化、行事などの資源に恵まれています。このような恵まれた資源をさらに活用し、観光客の誘致を図り、本町の経済発展と活性化の努めてまいります。

今年度中に、本町の観光拠点であります御池において、ワーケーションの拠点としての環境整備が、また皇子原公園ではウッドパークプロジェクトとして木製遊具等の整備を行いました。今後は、施設等の整備の継続と併せ、アフターコロナを見据え町内外への情報発信等に努め、集客力のアップに向けて取り組んでまいります。

本町観光振興に関しましては、地域商社、観光協会、奥霧島温泉郷旅館組合等が連携した「稼ぐ観光地づくり」への取組が、町内事業者等への波及効果を期待いたしております。

続きまして、子育て支援少子化対策でございます。

安心して子育てできるまちづくりを進めるため、引き続き副食費や、保育所利用料等の軽減措置のほか、子ども医療費助成など各種医療費助成事業、小中学校の学校給食への補助などに取り組み、子育て世代の経済的負担軽減を図ってまいります。

また、支援対策児童等見守り強化事業や、一時預り事業、放課後児童健全育成事業、地域子育て支援拠点事業等に取り組み、子育ての環境の充実を図ります。

このほか、出産応援事業や、不妊に悩む方への特定治療支援事業等少子化対策への取組や、保育士確保に向けた処遇改善事業や、支援対策に取り組んでまいります。

続きまして、健康づくりと地域医療の充実でございます。

健康をまちづくりの基本とし、健康づくり推進条例の目的にあるように、全ての町民が、健やかで心豊かに生活することができる地域社会の実現を目指し、スマートウェルネスシティ推進事業として、介護予防や高齢者の健康づくりウォーキング事業を展開してまいります。また、各種健康診査や予防接種事業等に、引き続き取り組んでまいります。

議会では、公共施設のあり方検討特別委員会を設置され、高原病院の現状や医療環境、病院としての役割などについて、調査・研究をしていただいております。高原病院の経営改革につきましては、患者数の動向や医師の確保の状況、町の財政状況等を見極めながら、必要に応じて検討してまいりますので、今後とも御指導賜りますようお願い申し上げます。

最後に、公共施設の整備でございます。

公共施設の整備に当たっては、令和3年11月に決定した、公共施設等整備の基本方針に基づき、役場庁舎、学校、中央公民館、保育所、体育館を優先的に進めることとし、その中でも学校を先に取り組みすることとし、次代を担う子供たちに、よりよい教育環境の整備と、学校教育の充実を図るため小中学校を再編統合し、令和7年度までに、高原中学校敷地内に小学校を建設することといたします。

また、役場庁舎の建て替えは、小学校建設と並行して検討を行いながら、小学校建設後の令和8年度以降といたします。建設予定地は、ほほえみ館周辺といたします。

以上、令和4年度の諸事業につきまして、主な施策の概要を述べさせていただきました。

令和4年度の予算編成は、限られた財源の中、事業について精査を行い、将来に責任を負う財政運営を行っていくことを念頭に編成いたしました。財源が伴わないものや、国県補助内容の不明確な事業等につきましては、補正予算対応、あるいは次年度以降へ先送りさせていただいたところであります。

ここで、この場をお借りしまして、現在のウクライナ情勢について一言述べさせていただきます。

ロシアがウクライナに侵攻し、子供を含む多くの犠牲者がでています。市街地が攻撃を受け、逃げ惑う人々や、国外に逃れようとする人々の模様が、テレビをつけるたびに報道されております。私たちが住む同じ地球上で、このような理不尽なことが起きていることに、残念で腹立たしい気持ちでいっぱいになります。人道的な見地からも、ロシアのこのような行為は国際社会として封じ込める努力が必要だと思っております。

ロシアとウクライナは、停戦をめぐる協議を始めました。停戦合意が得られ、ウクライナの人々に一日も早く平和と平穏な日々が戻ってくることを祈りたいと思っております。

それでは、議案の説明に入らせていただきます。

議案第21号、令和4年度高原町一般会計予算について説明させていただきます。

お手元に配付しております令和4年度高原町一般会計、特別会計予算書の5ページをお開きください。

令和4年度の高原町一般会計予算の総額は、歳入歳出それぞれ58億7,900万円と定めたとところがございます。令和3年度と比較いたしますと、1億9,600万円、3.4%の増となっております。

次に、歳入でございますが、令和3年度と比較いたしまして、増減のありました主な項目を説明させていただきます。

予算書は、20ページから59ページまでとなっておりますが、別に配付させていただいております、令和4年度予算に関する附属資料の歳入内訳によりまして、説明いたします。

それでは、附属資料の1ページをお開きください。

1の町税につきましては、市町村民税、固定資産材など7億5,697万6,000円を計上いたしております。令和3年度と比較いたしますと1,165万3,000円、1.6%の増となったところがございます。

主な要因といたしましては、固定資産税、市町村たばこ税、軽自動車税の増が見込まれることによるものでございます。

続きまして、7の地方消費税交付金でございますが、コロナ禍であるものの、消費がさほど落ち込まないとの予測から、税増収に伴う交付金の増により、1億8,000万円を見込んでおります。令和3年度と比較いたしますと500万円、2.9%の増となったところであります。

続きまして、11の地方交付税につきましては、国の地方財政対策等に基づき算定しまして、24億2,300万円を計上いたしております。令和3年度と比較いたしますと、1億1,200万円、4.8%の増となっております。

主な要因といたしましては、臨時財政対策債発行可能額の大幅な減額が計画されており、その減額分が普通交付税に反映される想定でございます。

続きまして、15の国庫支出金につきましては、6億7,921万6,000円を計上いたしております。令和3年度と比較いたしますと、社会資本整備総合交付金並木旭台線や、都市計画街路事業等の増が見込まれる中、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減額等によりまして920万1,000円、1.3%の減となっております。

続きまして、16の県支出金につきましては、4億5,416万3,000円を計上いたしております。令和3年度と比較いたしますと、西ノ原・板橋遺跡発掘調査事業県委託金の皆減等によりまして2,963万1,000円、6.1%の減となったところであります。

続きまして、18の寄附金につきましては、2億5,000万3,000円を計上いたしてお

ります。令和3年度と比較いたしますと、ふるさと納税寄附金の増加を見込み3,000万1,000円、13.6%の増となったところであります。

続きまして、19の繰入金につきましては、3億7,011万6,000円を計上しております。令和3年度と比較いたしますと、減債基金やふるさと振興基金、財政調整基金、「神武の里たかはる」まち・ひと・しごと推進基金等の増によりまして8,800万円、31.2%の増となったところであります。

続きまして、21の諸収入につきましては、1億3,176万2,000円を計上しております。令和3年度と比較いたしますと、中小企業特別融資事業の減などによりまして、765万7,000円、5.5%の減となったところであります。

最後に、22の町債につきましては、4億2,620万円を計上しております。令和3年度と比較しますと、県営畑地帯総合整備事業や都市計画街路事業等の増があるものの、臨時財政対策債の大幅な減などにより550万円、1.3%の減となったところであります。

次に、歳出についてであります。令和3年度と比較いたしまして、増減のありました主な項目を説明させていただきます。

予算書は、62ページから205ページまでとなりますが、附属資料の2ページで説明いたします。

目的別歳出内訳でございますが、2の総務費につきましては、たかはる移住定住促進事業における地域おこし協力隊員の増員や、ふるさと納税特産品贈呈事業の増、電子計算管理費や徴税費におきます機器やシステムの更新、戸籍住民基本台帳費における法改正によるシステム改修等による増が影響し、令和3年度と比較いたしますと9,600万4,000円、8.4%の増となったところであります。

続きまして、3の民生費ですが、後期高齢者医療特別会計への操出金や、児童手当などの大幅な減額があるものの、町社会福祉協議会運営補助金や、国民健康保険特別会計への操出金、養護措置委託事業、高原町支援対象児童等見守り強化事業、放課後児童健全育成事業、公立保育所指定管理業務委託事業等の増により、令和3年度と比較いたしますと3,669万8,000円、2.1%の増となったところであります。

続きまして、4の衛生費でございますが、霧島美化センターにおける工事費用や、高原病院への操出基準の見直しによる病院整備費の増により、令和3年度と比較いたしますと2,841万円、5.5%の増となったところであります。

続きまして、6の農林水産業費でございますが、県営畑地帯総合整備事業や、農地耕作条件改善事業等の増により、1,108万8,000円、2.5%の増となったところであります。

続きまして、8の土木費でございますが、通学路対策を中心とした単独の道路舗装事業や、

社会資本総合整備交付金事業、街路事業、公営住宅の改修や一部解体等の増により、令和3年度と比較いたしますと、6,523万4,000円、21.0%の増となったところであります。続きまして、9の消防費でございますが、消防団員の出動報酬や、消防ポンプ自動車購入事業、総合型ハザードマップ作成事業等により、令和3年度と比較いたしますと、3,260万6,000円、49.1%の増となったところであります。

続きまして、10の教育費でございますが、高原中学校の管理棟屋根改修工事や、体育館照明LED化工事、教材備品購入による増があるものの、令和3年度に整備した総合運動公園の芝管理用備品購入費用や、西ノ原・板橋遺跡本調査事業の皆減が要因となり、令和3年度と比較いたしますと、4,109万6,000円、7.3%の減となったところであります。

続きまして、12の公債費でございますが、高原中学校に係る起債や、県の貸付金などの償還が終了したことにより、令和3年度と比較いたしますと、3,242万1,000円、5.5%の減となったところであります。

続きまして、3ページをお開きください。

性質別歳出内訳について説明いたします。

1の人件費でございますが、正規職員の増や、共済費の制度改正等により、令和3年度と比較いたしますと、3,280万3,000円、2.8%の増となったところであります。

次に、2の物件費でございますが、西ノ原・板橋遺跡本調査事業に係る経費や、公共施設個別管理計画策定に係る経費、街路事業に係る委託料の減等により、令和3年度と比較いたしますと、3,229万4,000円、2.9%の減となったところであります。

続きまして、5の補助費等でございますが、ふるさと納税特産品贈呈事業、地域商社活動・開発推進事業、病院整備費、高原町支援対象児童等見守り強化事業、町社会福祉協議会運営補助金、高原町和牛次世代確立対策事業補助金等の増により、令和3年度と比較いたしますと、1億5,314万2,000円、22.8%の増となったところであります。

続きまして、6の公債費でございますが、高原中学校に係る起債や、県の貸付金などの償還が終了したことにより、令和3年度と比較いたしますと、3,242万1,000円、5.5%の減となったところであります。

続きまして、7の積立金でございますが、ふるさと納税寄附額の増を見込み、令和3年度と比較いたしますと、1,874万1,000円、16.9%の増となったところであります。

続きまして、10の投資的経費でございますが、県営畑地帯総合整備事業負担金や、農地耕作条件改善事業、社会資本整備総合交付金事業並木旭台線、街路事業費二葉村移線、消防ポンプ自動車購入事業、高原中学校の管理棟屋根改修工事や、体育館照明LED化工事等の増により、令和3年度と比較いたしますと、9,437万6,000円、20.0%の増となったところで

あります。

次に、歳出につきまして、主な施策を説明させていただきます。

お手元に配付いたしております、令和4年度一般会計当初予算案の重要施策の概要によりまして、説明させていただきます。

それでは、1ページをお開きください。

町民の誰もが住み続けながら、豊かさと幸せを実感できる町づくりの推進に基づく事業の実施を行います。

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策事業でございます。

町民の皆様方の生活に大きな影響を及ぼしております、新型コロナウイルス感染症でございます。現在も猛威を振るっておりますが、3回目となるワクチン接種が始まっております。

本町におきましても、町内外の医療従事者の協力のもと、ワクチンの集団接種の実施など、少しでも早く、多くの方への接種が完了する体制整備に努めてまいります。

また、町内事業者の融資借入に対する利子補給事業を行い、経済的負担の軽減を図ってまいります。

このほか、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた情報発信や、環境整備に力を入れ、併せて、コロナ禍においても、教育の機会や質を保てるよう教育環境の充実を図ってまいります。

2ページをお開きください。

農林畜産業、商工業の振興と雇用の創出であります。

本町の基幹産業の農業振興につきましては、農業後継者の確保・担い手の育成を図るため、農業次世代人材投資事業やたかはる農業人「財」確保支援事業に引き続き取り組み、新規就農者に対する支援を推進してまいります。

また、園芸農家に対する支援事業といたしまして、きばる高原町の園芸農家情熱的活力支援事業のほか、夏秋作物産地化整備事業や、かんしょ生産体制強化事業に、新たに取り組んでまいります。

さらに、令和4年度は第12回全国和牛能力共進会が、[※]鹿児島県霧島市で開催されます。1頭でも多く、本町からの出品が叶いますよう、出品奨励を行ってまいります。

※168ページに訂正発言

また、林業振興といたしまして、しいたけ等特用林産物生産基盤強化事業や、高原町再造林支援事業の実施、森林経営管理制度への取組を進めてまいります。

商工業の振興につきましては、創業・企業支援事業や事業承継推進事業を継続して取り組むとともに、地域商社における活動、事業展開の推進を図ってまいります。

また、商工業分野の活性化を図るため、引き続き、たかはるよりどり交流市の運営推進を実施

してまいります。また、新たな形態としての神武の里たかはるまつりを、関係機関が一体となり、盛大に開催できるよう取り組んでまいります。

次に、ふるさと納税の推進でございます。

ふるさと納税寄附額は、着実に増えてはいるものの、特産品の開発や、プロモーションなど、課題も多くございます。今回、地域商社において、ふるさと納税に係る業務を担ってもらうことで、民間の強みを生かした取組を期待しております。

次に、2ページから3ページでございます。

観光の振興でございます。

新型コロナウイルス感染の収束が見えない中ではありますが、落ち着きを取り戻したときの誘客などに、素早く対応するために、迎える側として、観光施設の整備や、観光ガイドの育成といった、ハード・ソフト両面の環境整備、下地準備を行い、交流人口や関係人口を増やす取組を行ってまいります。

次に、町民ファーストの町政運営でございます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、近年実施できておりません。町政座談会を、令和4年度はぜひ開催したいと考えております。また、アンケート調査等により、いただいた御意見等を、町政や各種計画策定に反映させていきたいと考えております。

次に、移住・定住の推進でございます。

たかはる移住定住促進事業といたしまして、空き家バンク事業、住宅取得支援金交付事業等に取り組んでまいります。また、引き続き、宮崎ひなた暮らしUIJターン支援事業に取り組んでまいります。さらに、地域おこし協力隊員の増員を想定しており、移住定住につながる波及効果を期待しております。

次に、災害に強いまちづくりでございます。

消防ポンプ自動車の更新や、消火栓の新設を計画しております。また、地域防災計画の見直しを完了を迎えます。本計画に基づいた、総合型ハザードマップを作成し、今後発生の可能性のある、災害等に備えます。

次に、公共施設の整備です。

御案内のとおり、本町公共施設のほとんどが老朽化しており、管理や使用に支障が出てきておりますので、緊急性、優先性等を考慮し、年次的に改修等を行い、施設の延命化を図ってまいります。

4ページをお開きください。

次に、子育て支援、少子化対策でございます。

支援対象児童等見守り強化事業や、一時預かり事業、放課後児童健全育成事業、地域子育て支

援拠点事業等に取り組んでまいります。

また、子育て世代の経済的負担を軽減するため、保育料や副食費等の軽減措置のほか、各種医療費助成事業、小・中学校給食費補助事業に取り組んでまいります。

このほか、育児等健康支援事業や、出産応援事業などの少子化対策への取組のほか、確保が難しくなっております、保育士確保への取組も行ってまいります。

次に、健康づくりと地域医療の充実でございます。

医療体制の充実・確保のため、高原病院の整備事業に引き続き取り組んでまいります。また、スマートウェルネスシティ推進事業のほか、各種健康診査や、予防接種事業、歯科保健推進事業など、病気にかからない、病気の早期発見・早期治療につながる取組を推進してまいります。次に、4ページから5ページでございます。

高齢者支援でございます。

敬老会開催事業や老人クラブ活動費事業、高齢者の生きがいと健康づくり事業等に取り組んでまいります。

また、在宅介護手当支給事業や、緊急通報機器貸与事業、ふれあい収集事業等、御本人や御家族の負担軽減等につながる取組を引き続き行ってまいります。

次に、資源と魅力を生かした地域の活性化でございます。

地域活性化起業人設置事業へ引き続き取り組み、外からの目線で、本町の活性化につながる取組の推進を図ってまいります。

また、各地区、団体等で取り組んでおられる自然環境の整備や、景観・美化活動に対する支援を行い、本町の持つ魅力ある資源の保持、発展につなげてまいります。

次に、地域交通の充実でございます。

乗合タクシーや広域的バス、地域間幹線バス等の地域交通機関運行維持対策事業に取り組んでまいります。

なお、乗合タクシーにおきましては、新規路線として、広原線、まちなか循環線の運航を計画しており、多くの利用が期待されます。

次に、教育環境の整備でございます。

学校や福祉保健等の関係機関と連携した、教育支援事業に引き続き取り組んでまいります。また、ICT化に係る環境整備も含め、コロナ禍でも充実した教育、学びにつながる体制整備を継続してまいります。

さらに、令和8年度の学校統合に向けた計画策定等の取組が始まり、少しずつ、青写真が見えてくるのではと感じております。

続きまして、町債の状況であります。

町債の状況につきまして、詳細が予算書の219ページ、附属資料の50ページにございますので、後ほど御覧いただきたいと思っております。

令和4年度の発行見込額は4億2,620万円、令和4年度元金償還見込額5億4,620万8,000円、令和4年度末残高は51億8,099万6,000円となる見込みであります。

引き続き、町債の新規発行額を可能な限り抑制し、町債残高の圧縮を図り、将来世代への負担を軽減してまいりたいと考えております。

最後に、6ページから7ページに主な新規事業を掲げておりますので、後ほど御覧いただきたいと思っております。

以上、令和4年度当初予算の歳入の状況と重点施策について説明してまいりました。

国の地方財政対策により、一般財源の総額は確保されましたが、財政基盤の脆弱な本町が、町民ニーズに応えるためには、効率的な行財政運営、さらなる行財政改革が求められております。今後も引き続き、議会並びに町民の皆様の御理解、御協力により、本町のさらなる発展のため、各種事業に真摯に取り組んでまいります。

以上でございます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 1時58分 休憩

午後 1時59分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

先ほどの説明の中で、第12回全国和牛能力共進会、これ鹿児島県で開催されますけども、私が「鹿児島県霧島市」と申し上げましたけども、これは鹿児島県内で行われます。鹿児島市以外の場所でも行われるということで、「鹿児島県内」と訂正をさせていただきます。

次に、議案第22号、令和4年度 高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、説明いたします。

予算書では223ページをお開きください。

予算の総額は、歳入・歳出それぞれ50万4,000円となるものでございます。

それでは、歳入の主なものにつきまして説明いたします。

予算書の224ページをお開きください。

歳入予算の主なものといしましては、諸収入の貸付金元利収入48万円でございます。

続きまして、歳出の主なものにつきまして、説明いたします。

予算書の240ページ、241ページをお開きください。

歳出予算の主なものとして、手数料9万2,000円、委託料33万円でございます。貸付金の回収事務につきましては、引き続き、催告、個別訪問等により債務者が置かれている状況に応じながら納付指導を行っていき、償還に誠意の見られない債務者には、法的手続等も念頭に置きながら努力していくものでございます。

以上でございます。

次に、議案第23号、令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算について説明いたします。予算書では245ページからであります。

本事業につきましては、農村集落におけるし尿、家庭雑排水等の汚水を処理することにより、農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与するため、令和4年度より広原北部地区に事業着手し、[※]令和7年7月から供用を開始しているところでございます。

令和4年1月末現在、区域内戸数287戸に対しまして、223戸が加入されており、加入率は77.7%でございます。※170ページに訂正発言

別冊の予算書245ページをお開きください。

予算につきましては、歳入歳出ともに2,507万3,000円を計上いたしております。

それでは、歳入の主なものにつきまして説明いたします。

246ページをお開きください。

歳入予算の主なものとして、使用料549万6,000円、繰入金1,449万円、繰越金115万5,000円、町債390万円でございます。

続きまして、歳出につきまして説明いたします。

247ページをお開きください。

歳出予算につきまして、農業費1,162万9,000円、公債費1,344万4,000円でございます。

歳出の内訳につきまして御説明いたします。

262ページ、263ページをお開きください。

農業費の主なものとして、委託料が維持管理に係る経費と公営企業会計への移行に伴う支援業務として、837万1,000円を計上いたしております。

工事請負費が、公共柵設置工事として、24万円を計上しております。

また、公債費につきましては、元金償還金1,247万7,000円、利子償還金96万7,000円でございます。

以上でございます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 2時04分 休憩

午後 2時05分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

ただいまの説明で、前半の部分でございましたけれども、広原北部地区の事業着手、これを私、正しくは平成4年度より着手し平成7年から供用開始をしていたのがございますけど、それを誤って「令和」と申しましたので、「平成」に訂正をさせていただきます。

続きまして、議案第24号、令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算について説明いたします。

本町の医療費につきましては、依然として高い傾向にあり、国保会計の運営は厳しい状況にあります。一般会計からの法定外繰入金や基金の取り崩し、また保険税の増額などを行いながら対応してきているところでございます。

この様な中、令和4年度予算編成につきましては、コロナ禍において被保険者への影響を勘案いたしまして、昨年度と同様に税率等について据え置くことといたしました。そのため、その財源といたしまして法定外繰入れを行うとともに、基金を取り崩すことといたしております。

また、令和4年度から未就学児の均等割額について、2分の1が減額されることに併せまして、町独自の残りの2分の1を減額することといたしております。

それでは、別冊の予算書267ページをお開きください。

令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算の総額は、歳入歳出それぞれ14億9,781万円と定めるもので、令和3年度と比較いたしまして732万8,000円、率にして0.5%の減となったところであります。

まず、歳入予算でございますが、予算書の268ページをお開きください。

国民健康保険税でございますが、予算総額としまして、2億7,178万2,000円を計上いたしております。令和3年度と比較しまして、3,145万8,000円、10.4%の減となっております。

県支出金につきましては、県補助金として10億7,778万円を計上いたしております。これは、保険給付に係る費用の全額、県が交付する普通交付金と、特定健診等の費用や、保険者の取組等に対して交付される特別交付金でございます。

一般会計繰入金につきましては、令和3年度と比較しまして、3,105万2,000円増の、1億2,986万1,000円を計上いたしております。

基金繰入金につきましては、1,708万9,000円を計上しております。

続きまして、歳出予算につきまして説明いたします。

予算書の269ページをお開きください。

総務費につきましては、総務管理費、徴税费等に、総額3,504万6,000円を計上しております。

保険給付費につきましては、療養諸費や高額医療費・出産育児諸費等に、総額10億5,498万5,000円を計上しております。

国民健康保険事業費給付金につきましては、医療給付費、後期高齢者支援金等費、介護納付金に総額3億8,070万4,000円を計上しております。※このページの下段に訂正発言

保険事業費につきましては、特定健康診査等事業費及び保健事業費に総額2,456万9,000円を計上いたしております。

以上でございます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 2時09分 休憩

午後 2時10分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

ただいまの私の説明、2か所修正いたします。

まず、歳出保険給付費の部分で、「療養諸費や高額医療費」という部分、正しくは「高額療養費」でございます。

次に、「国民健康保険事業費納付金」が正しい分でございますけど、私が「給付金」と言いましたので、「納付金」に修正をいたします。

以上でございます。

次に、議案第25号、令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算について説明いたします。

介護保険制度は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により、介護が必要になった方が、適切な保険医療サービス・福祉サービスを利用しながらできるだけ安心して自立した生活を送れるよう、国民の共同連帯の理念に基づき創設されたものです。

介護等が必要な方の尊厳を保持し、能力に応じ、自立した生活を営むことができるよう支援することを、基本理念としているところであります。

予算案につきましては、令和3年3月に策定しました、第8期介護保険事業計画を踏まえ、令和4年度の予算編成をいたしたところであります。

別冊予算書の311ページをお開きください。

令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算の保険事業勘定総額は、歳入歳出それぞれ、14億2,418万8,000円と定めるもので、令和3年度当初予算と比較して1,686万8,000円、1.2%の減となっております。

続きまして、サービス事業勘定につきまして説明いたします。

歳入歳出それぞれ577万9,000円と定めるもので、令和3年度と比較しまして5万6,000円、1.0%の増となっております。

まず、保険事業勘定の歳入予算について説明いたします。

予算書の314ページをお開きください。

保険料につきましては、2億1,552万1,000円を計上しております。

介護保険料につきましては、議案第20号、「高原町介護保険条例の一部を改正する条例」にて御審議いただきました、低所得者への介護保険料の軽減措置を反映いたしております。

続きまして、国庫支出金につきましては、国庫負担金、国庫補助金を合わせまして、3億9,842万円を計上いたしております。

支払基金交付金につきましては、3億6,903万2,000円を計上いたしております。

県支出金につきましては、県負担金、県補助金等を合わせまして、1億9,121万2,000円を計上いたしております。

繰入金につきましては、一般会計繰入金、基金繰入金を合わせまして、2億4,966万7,000円を計上いたしております。

諸収入につきましては、認知症対策事業として実施する、脳の健康教室における受講料等22万2,000円を計上しております。

続きまして、歳出について説明いたします。

予算書の315ページをお開きください。

総務費につきましては、介護保険事業の執行に必要な事務費といたしまして、総務管理費、徴収費、介護認定審査会費、計画策定委員会費を合わせまして、2,176万円を計上しております。

続きまして、保険給付費につきましては、要介護者の保険給付といたしまして、介護サービス等諸費、介護予防サービス等諸費、その他諸費、高額介護サービス等費、高額医療合算介護

サービス等費、特定入所者介護サービス等費を合わせまして、13億3,759万6,000円を計上いたしております。

続きまして、地域支援事業費につきましては、介護予防・生活支援サービス・一般介護予防事業費、包括的支援事業・任意事業費、その他諸費を合わせまして、6,168万円を計上いたしております。

続きまして、サービス事業勘定について説明いたします。

予算書の366ページから367ページをお開きください。

歳入につきましては、サービス収入といたしまして576万4,000円を見込んでおります。

歳出につきましては、サービス事業費といたしまして^{*}570万7,000円を計上いたしております。※このページの下段に訂正発言

以上がサービス勘定の主な歳入歳出予算であります。

以上でございます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 2時16分 休憩

午後 2時17分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

サービス事業勘定についての歳出につきまして、私が「570万」と申し上げたということで、正しくは「577万7,000円」でございます。訂正いたします。

次に、議案第26号、令和4年度高原町後期高齢者医療特別会計予算について説明いたします。別冊予算書389ページをお開きください。

予算の総額を、歳入歳出それぞれ2億7,744万2,000円と定めるものでございます。令和3年度と比較しまして、3,404万3,000円、率にして10.9%の減となったところであります。

予算書の390ページをお開きください。

歳入予算でございますが、後期高齢者医療保険料としまして7,222万6,000円を計上いたしております。

次に、繰入金の一般会計繰入金につきましては、1億8,461万6,000円を計上いたしております。

大幅に減額した理由としまして、宮崎県後期高齢者医療広域連合が算定した^{*}医療給付費負担金
が大幅に減額となったためです。※174ページに訂正発言

諸収入につきましては、2,059万6,000円を計上いたしております。

次に、歳出予算について説明いたします。

予算書の391ページをお開きください。

総務費につきましては、総務管理費に2,178万円、徴収費に50万3,000円、総額2,
228万3,000円を計上いたしております。

なお、本町独自の事業としまして、令和4年度から、あんま・はり・きゅう施術料助成事業を
実施することといたしております。

後期高齢者医療広域連合納付金につきましては、2億5,444万7,000円を計上いたし
ております。

令和4年度におきましても、制度の円滑な運営を行うため、県広域連合との連携を図りながら、
事務の執行に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 2時20分 休憩

午後 2時20分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

ただいまの歳入の部分の説明の中で、宮崎県後期高齢者医療広域連合が算定した、正しくは
「療養給付費負担金」でございます。私が「医療給付費負担金」と申し上げましたので、「療
養給付費負担金」に修正いたします。

次に、議案第27号、令和4年度高原町水道事業会計予算について説明いたします。

別冊予算書1ページをお開きください。

第2条の業務の予定量でございますが、給水件数は4,410件、年間総給水量が120万8,
880立方メートル、1日平均給水量は3,312立方メートルを予定しております。

第3条の収益的収入及び支出につきましては、収入は前年度比0.1%減の1億9,899万5,
000円を見込んでおり、支出につきましては、前年度比0.4%増の1億9,433万1,0
00円を計上しております。

収益的収入及び支出の明細は、16ページから18ページに掲載しておりますので御覧いただきたいと思ひます。

次に、第4条の資本的収入及び支出でございますが、収入では、建設改良費に係る企業債2,000万円、他会計負担金758万9,000円など、合計2,759万2,000円を予定しており、支出につきましては、建設改良費5,010万円、企業債償還金5,509万3,000円など、合計1億519万4,000円を計上しております。

資本的収入及び支出の明細は、19ページに掲載しておりますので、御覧いただきたいと思ひます。

資本的収入額が、資本的支出額に対して不足する額7,760万2,000円は、当年度分損益勘定留保資金6,531万8,000円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額455万4,000円及び建設改良積立金773万円で補填するものでございます。

このほか、予算に関する説明書及び参考資料といたしまして、令和4年度予定キャッシュ・フロー計算書を6ページに、令和3年度予定損益計算書を9ページに、令和3年度末と令和4年度末の予定貸借対照表を10ページから13ページに添付しておりますので、御覧いただきたいと思ひます。

令和4年度も前年度に引き続き、経費節減等の企業努力を図り、町民の皆様へ安全で安心できる水を安定的に供給してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議案28号、令和4年度高原町病院事業会計予算について説明いたします。

病院事業運営につきましては、住民の皆様へ健康を保持し、豊かな生活を営んでいただくため、西諸県圏域内外の[※]慢性的・救急医療を担いながら、健診事業や在宅医療等の地域医療の実践に邁進し、安全・安心の医療提供に努めているところであります。

※176ページに訂正発言

このような状況に加え、新型コロナウイルス感染症対策においては、発熱患者の外来対応や、感染症患者の入院受入れに全力を注ぐとともに、医療崩壊を回避するために、院内感染防止の徹底に努めているところであります。

加えて、持続可能な病院経営を図るため、令和4年度は、病床の休床や、外来診療の休診など、病院経営の規模を縮小し、経営の健全化に努めるべく予算編成を行ったところであります。

それでは、予算書の1ページをお開きください。

第2条の業務の予定量であります。入院患者数は、年間延べ1万585人で、1日平均患者数が29人、外来患者数は、年間延べ2万9,800人で、1日平均患者数を100人で見込んでおります。

第3条は、収益的収入及び支出であります。収入は前年比14.86%減の6億9,372万5,000円を見込んでおります。一方、支出は前年比5.94%減の10億1,938万8,000円を計上いたしております。

支出の主なものは、経常的な給与費・材料費や委託料等の諸経費を計上し、詳細を予算書の20ページから24ページに掲載しております。

次に、資本的収入及び支出につきましては、収入では、他会計負担金が2,645万2,000円を見込んでおります。支出につきましては、建設改良費が69万円で、超音波治療器の改良を予定しております。

企業債償還金につきましては、5,091万8,000円で、病院改築に係る企業債償還金が主なものであります。

詳細につきましては、5ページに掲載しております。

令和4年度予定キャッシュ・フロー計算書を6ページに、債務負担行為に関する調書を13ページに、令和3年度高原町病院事業予定損益計算書を14ページ、令和3年度高原町病院事業予定貸借対照表を15ページから16ページに、令和4年度高原町病院事業予定貸借対照表を17ページから18ページに掲載しておりますので、併せて御覧いただきたいと思っております。

公立病院の経営は、ますます厳しくなる傾向にあることから、令和4年度は病院運営の規模を縮小し、「健全化を目指す」を重点項目に掲げ、また同時に、流行する新型コロナウイルス感染症対策に全力を注ぎ、住民の皆様の健康を保持することといたしております。

今後も、将来にわたり地域の皆様が安心して暮らせる町づくりを目指して、保健・福祉・介護部門との連携により、高齢化社会に対応できる病院づくりに邁進する所存であります。

以上でございます。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 2時29分 休憩

午後 2時29分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

暫時休憩いたします。

午後 2時30分 休憩

午後 2時32分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

ただいまの病院事業会計の議案説明の中で、一部修正いたします。

前半の部分でございましたけれども、西諸県圏域内外の、正しくは「慢性期・救急医療を担いながら」というのが正しい言い方ですけども、私「慢性的」と申し上げましたので、「慢性期」に訂正をさせていただきます。

次に、議案第29号、令和4年度高原町工業用水道事業会計予算について説明いたします。

別冊予算書1ページをお開きください。

第2条の業務の予定量でございますが、昨年と同様、1日最大1,200立方メートルで変わりはございません。

第3条の、資本的収入及び支出でございますが、収入支出それぞれ201万3,000円を予定しております。収入は、一般会計からの全額補助でございます。支出につきましては、建設改良費31万3,000円、企業債償還金170万円となっております。

建設改良費の内容につきましては、9ページの資本的収入及び支出の明細書に掲げておりますが、施設の維持管理に要する経費と、企業債利息の支払いとなっております。

このほか、予算に関する説明書及び参考資料といたしまして、5ページに予定キャッシュ・フロー計算書、6ページから7ページに予定貸借対照表を添付しておりますので、御覧いただきたいと思っております。

以上でございます。

以上、御審議のほど、よろしく願いいたします。

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これをもって、施政方針並びに提案理由の説明を終わります。

本日、提案理由の説明がありました議案第21号から議案第29号までの議案9件については、3月12日を議案熟読日とし、3月14日に総括質疑を行います。

以上をもって、本日の議事日程は全部終了しました。

本日は、これにて散会いたします。

◎ 散 会

午後 2時35分 散会

令和4年 第1回 高原町議会定例会会議録 (第4日)

令和4年3月14日 (月曜日)

議事日程 (第4号)

令和4年3月14日 午後1時10分開議

- 日程第 1 発議第 1号 ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議
(案)
- 日程第 2 議案第 7号 令和3年度高原町一般会計補正予算 (第22号)
- 日程第 3 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算
- 日程第 4 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 日程第 5 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
- 日程第 6 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算
- 日程第 7 議案第25号 令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算
- 日程第 8 議案第26号 令和4年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第 9 議案第27号 令和4年度高原町水道事業会計予算
- 日程第10 議案第28号 令和4年度高原町病院事業会計予算
- 日程第11 議案第29号 令和4年度高原町工業用水道事業会計予算
-

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 発議第 1号 ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議
(案)

- 日程第 2 議案第 7 号 令和 3 年度高原町一般会計補正予算（第 2 2 号）
 日程第 3 議案第 2 1 号 令和 4 年度高原町一般会計予算
 日程第 4 議案第 2 2 号 令和 4 年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
 日程第 5 議案第 2 3 号 令和 4 年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
 日程第 6 議案第 2 4 号 令和 4 年度高原町国民健康保険特別会計予算
 日程第 7 議案第 2 5 号 令和 4 年度高原町介護保険事業特別会計予算
 日程第 8 議案第 2 6 号 令和 4 年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
 日程第 9 議案第 2 7 号 令和 4 年度高原町水道事業会計予算
 日程第 1 0 議案第 2 8 号 令和 4 年度高原町病院事業会計予算
 日程第 1 1 議案第 2 9 号 令和 4 年度高原町工業用水道事業会計予算

出席議員（10名）

1 番 陣 圭介君	2 番 反田 吉巳君
3 番 松元 茂春君	4 番 中村 昇君
5 番 温水 宜昭君	6 番 福澤 卓志君
7 番 末永 充君	8 番 入佐 廣登君
9 番 前原 淳一君	1 0 番 温谷 文雄君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局長 中嶋 秀一君	書記（事務局次長） 中嶋 雄二君
	書記（副主幹） 古川 裕子君

説明のため出席した者の職氏名

町長	高妻 経信君	副町長	横山 安博君
教育長	西田 次良君		
総合政策課長	馬場 倫代君	総務課長	内村 秀次君
税務課長	平川 昌知君	町民福祉課長	水町 洋明君
環境保全対策監	高原 寿志君	ほほえみ館長	久徳 信二君
産業創生課長	森山 業君	農政林務課長	上村 洋二君

農畜産振興課長	田中 博幸君	建設水道課長	入佐 和彦君
会計管理者兼会計課長	酒匂 政利君	高原病院事務長	花牟禮 秀隆君
教育総務課長	末永 恵治君		

◎ 開議・日程

午後 1時10分 開議

○議長（温谷文雄君）

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりです。

○

◎ 日程第1 発議第1号 ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議
(案)

○議長（温谷文雄君）

日程第1、「発議第1号、ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議
(案)」を議題とします。

本件について、提出者から趣旨説明を求めます。

○5番（温水宜昭君）

〔登壇〕

ただいま議題となりました発議案につきまして、趣旨を御説明申し上げます。

御案内のとおり、世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に追われている中、ロシア軍は、2月24日、国際社会の度重なる警告を無視し、ウクライナへの全面的な進行を開始したところであります。これは、明らかに国連憲章に違反し、世界の安全保障と国際秩序を脅かす侵略であり、断じて容認できない暴挙であります。

こうしたことから、高原町議会は、ロシア軍による攻撃とウクライナの主権侵害に強く抗議するとともに、ロシア政府に対し、武力行使の即時停止とウクライナ領土から直ちに全ての軍隊を完全に撤退させること及び誠実に国際法を遵守し、平和的に対応することを強く求めるものです。

また、政府においては法人の確実な保護や我が国への影響対策について万全を尽くされるよう強く要請します。

以上が、本案を提出した理由であります。

何とぞ、御審議の上、速やかに御賛同くださいますようお願い申し上げます。〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

本件について、提出者ほか、私、議長を除く議員8名の全員の賛成による案件です。

お諮りします。

本件については、質疑、討論を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

異議なしと認めます。よって、発議第1号は質疑、討論を省略することに決定しました。

これから「発議第1号、ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議(案)」を採決します。

発議第1号は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長(温谷文雄君)

総員起立です。よって、発議第1号は原案のとおり可決されました。

只今、「ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議」が全会一致で可決されました。この決議は、ロシア政府に対する「即時撤退」と「平和的解決」を求めるものです。執行部におかれましては、既に「ウクライナの平和を願い」玄関ドア等に「ウクライナの国旗」を表示されています。

改めて、この決議に御理解と御賛同いただき、「平和的解決」の実現に向け、様々な取組に御協力いただきますことを議長席からではありますが、お願い申し上げます。

○

◎ 日程第2 議案第7号 令和3年度高原町一般会計補正予算(第22号)

○議長(温谷文雄君)

日程第2、「議案第7号、令和3年度高原町一般会計補正予算(第22号)」を議題とし、前回の議事を継続します。

ただいま議題となりました議案第7号については、付託の常任委員会から審査報告書が提出され、その写しをお手元に配付しています。

これから常任委員会委員長の報告を求めます。

一般会計予算・決算常任委員会 委員長、報告願います。

9番、前原淳一一般会計予算・決算常任委員会委員長。

○一般会計予算・決算常任委員会 委員長(前原淳一君)

[登壇]

本委員会に付託された案件は、議案第7号の1件です。

読み上げて報告いたします。

委員会審査報告書。

本委員会に付託の事件は、審査に結果、次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記。

1 事件名 議案第7号 令和3年度高原町一般会計補正予算(第22号)

2 審査の経過 令和4年3月11日、14日、委員会審査

今回の補正は、歳入歳出それぞれ4億6,889万3,000円を追加し、予算総額を歳入歳

出それぞれ7億729万1,000円と定めるものです。

まず、繰越明許費には、総務管理費の第6次高原町総合計画印刷製本事業129万9,000円をはじめ、社会福祉費の子育て世帯等臨時特別給付金支給事業、1億8,615万4,000円、林業費の合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策事業6,726万円、商工費の新型コロナウイルス感染症対策事業、高原町消費拡大支援事業4,448万2,000円、土木施設災害復旧費5,400万円など、全13事業、総額4億1,402万7,000円を翌年度に繰り越して使用できるよう繰越明許費の追加が行われています。

次に、債務負担行為には、令和9年度評価替え、固定資産、田畑、山林評価 総合調査業務委託事業など4事業について追加が行われています。

地方債は、災害復旧事業や、過疎対策事業の対象となる事業の変更や、事業費の確定等により、それぞれ限度額の変更が行われています。

主な事業の内容ですが、一般管理費には、職員退職手当組合負担金として、231万2,000円が、財政調整基金費には、今年度の普通交付税額の確定や、各事業の執行残等により、財政調整基金への積立金として、1億6,356万2,000円が計上されています。

企画費には、ふるさと納税寄附額の増額が見込まれるとして、返礼品発送に係る経費や、ふるさと振興基金への積立金として、3,000万円が計上されています。

戸籍住民基本台帳費の委託料ですが、個人番号カード所有者の転入転出手続きのワンストップ化に係るシステム改修費として、240万3,000円が、また個人番号カード交付事業交付金として106万2,000円が計上されています。

社会福祉総務費には、国民健康保険基盤安定負担金等の確定に伴い、国民健康保険特別会計への繰出金として2,715万1,000円が計上されています。

老人福祉費には、高原町養護老人ホーム峰寿園への入所者増が見込まれるとして、養護措置委託事業として400万円が計上されています。

児童運営費には、保育士等の処遇改善に係る臨時特例補助金の交付に伴い、教育・保育給付費として177万2,000円が計上されています。

病院整備費には、医師確保等対策に係る経費162万円と、不採算地区病院運営に係る経費の1億4,852万5,000円が計上されています。

農業振興費には、新規就農者等に対する補助金交付として農業次世代人材投資事業の126万円が計上されています。

林業振興費には、森林経営管理制度事業として、森林環境譲与税基金への積立金466万8,000円が、また、事業者の機械導入に対する補助事業として、合板・製材・集成材 国際競争力強化・輸出促進対策事業補助金6,726万円が計上されています。

商工費には、商工業振興費として、地域商社設立に係る出資金として601万円が、宮崎フリーウェイ工業団地への進出企業に対する助成事業として、企業立地促進事業の1,629万8,000円が、新型コロナウイルス感染症対策事業として、消費拡大支援事業の4,448万2,000円が計上されています。

観光費には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する県独自の緊急事態宣言を受け、観光施設を全面閉鎖したことによる指定管理者への支援事業として、観光施設等管理事業の584万7,000円が計上されています。

住宅管理費には、大規模盛り土造成地に対し、本格的な地盤調査実施に向けての、前段の計画書策定が義務づけられたことで、宅地耐震化推進事業の135万円が計上されています。

教育費の事務局費には、学校林の立木売買に伴う分収金の学校基金への積立金として、1,816万3,000円が計上されています。

公共土木施設災害復旧費（現年災害）には、令和3年8月に発生した十文字・高巢原線の災害復旧工事として、5,400万円が計上されています。

基金費には、今後の臨時財政対策債の償還に係る財源として、減債基金への積立金3,624万7,000円が、また、今後の公共施設の整備費用に対する財源確保のため、高原町公共施設等整備基金への積立金、609万5,000円が計上されています。

このほか、企業版ふるさと納税による寄附金を次年度に実施する事業に活用するため、「神武の里たかはる まち・ひと・しごと推進基金」への積立金として600万円が計上されています。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定
理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見 なし

令和4年3月14日、一般会計予算・決算常任委員会委員長 前原淳一 高原町議会議長 殿
[降壇]

○議長（温谷文雄君）

これから、常任委員会委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第7号の採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第7号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）総員起立です。よって、議案第7号は委員長報告のとおり可決されました。

○

◎ 日程第3 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算

○議長（温谷文雄君）

日程第3、「議案第21号、令和4年度高原町一般会計予算」から、日程第11、「議案第29号、令和4年度高原町工業用水道事業会計予算」までの議案9件を一括議題とし、前回の議事を継続します。

これから議題となりました各案に対する総括質疑を行います。

まず、議案第21号について許します。質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

8点ほど伺いをいたします。

まず、地方創生臨時交付金でありますけれども、約4,000万円が見込まれているようですが、これで全部なのか。またどのような活用が予定されておるか伺いをいたします。

それからケア労働者の処遇改善ですけれども、2月から9月までは、全額国費負担でありますけれども、補正予算で勘違いをして質問しましたけれども。10月以降、地方負担分は地方交付税措置をすることになっておりますけれども、その中で保育については、公定価格の保護者負担はないのか伺いをいたします。

それから、乗合タクシーですけれども、新たに2路線が新設されますけれども、どういうことから2路線が新設されるのか伺いをいたします。

それから、病児保育でありますけれども、県内を見ても、病後児保育をやっている自治体で利用者がゼロは本町のみであります。これについては、どのように考えられるのか伺い

をいたします。

それから、民間の保育園が休園で、これらも期待しておりますけれども、その中で一時預かり事業にも、大きな影響が出ると思っておりますけれども、これまでも延べ3,000名ぐらいが、この休園の保育園を利用されていることから、今後の対応についてはどう考えていらっしゃるのかお伺いいたします。

それから、ワクチン接種でありますけれども、足の不自由な人について、タクシーの利用が困難であります。町では、タクシー会社と委託契約を結ばれておりますけれども、タクシー会社で対応できないと伺っておりますが、足の不自由な人についての対応をお伺いいたします。

それから、教育の行政であります。就学援助について来年度から国のほうでは、小学校の新入学児童生徒の学用品等については3,000円のアップで、5万4,060円に国が増額して要保護者分については確保されておりますけれども、町内における準要保護者への就学援助について、単価の引き上げを行う必要があると思っておりますけれども、これについてお伺いいたします。

最後に、公営住宅ですけれども、予算には、二葉団地6号棟の解体工事が予算化されておりますけれども、今後の見通しについてお伺いいたします。

以上です。

○総合政策課長（馬場倫代君）

まず、乗合タクシーについてお答えいたします。

現在、乗合タクシーにつきましては4路線走っております。今、空白地帯として、狭野地区と広原地区がございますが、狭野地区につきましては、今、広域バスの祓川線が走っていると。また、その空白地帯としての皇子地区については、次年度の見直しのときに、常盤台線のデマンド区域の中に皇子地区を含めることで解消しようと考えております。広原地区につきましては、新たに広原線を設定することで、空白地帯をなくそうと考えております。

もう一つの路線であります、まちなか線なのですが、これまで各地区と役場とを結ぶ線だけでしたので、さらに今度は、まちなかを結ぶ線として、まちなか線を新しく新設しようと考えたところです。

以上です。

○建設水道課長（入佐和彦君）

中村議員の御質問にお答えします。

二葉町団地の今後の見通しでございますけれども、今、実際に24戸のうち15戸が入っております。そして今現在、空き家になっている部屋の中で、修復不可能な部屋も出てきておりますので、今後の改修を含めまして、少しずつ解体していきながらやっていきたいと思っております。

す。

ただ、二葉町団地の建て替えについては、ほかの公共事業との兼ね合いもありますので、財政状況を見ながら検討していきたいと思えます。

以上です。

○町民福祉課長（水町洋明君）

御質問にお答えいたします。

まず、保育士等の処遇改善についてでございますが、御指摘のとおり2月から9月分については、補助金で対応と厚生労働省のほうから周知がまいつているわけでございますが、10月分からはつきましては、公定価格に溶け込ませた形で、措置がされることを現時点ではお伺いしておりますが、保護者の負担があるかどうかについての詳細は、まだ周知が来てないところでございます。今後、保育士等の給料改善計画等の作成等を経て、そういった事業を展開していくことになると思えます。

続きまして、病児保育についてでございますが、本町での利用がゼロとの御指摘でございますが、これまでもパンフレット等を作成しまして、各保育所等に、依頼をして周知等を行っているわけでございますが、まだまだその周知が足りないと思えますので、今後に関しましても区長会等での文書等の配布も考えていきたいと思っております。

もう一点でございますが、一時預かり事業につきまして、休園の影響があるのではないかと御指摘でございますが、令和3年度におきまして、その施設が、この事業を活用しての事業の展開はなかったわけでございます。その影響はないものと思っております。

ただし、この一時預かり事業を利用しないで、その施設を利用している児童がいることは、現在ある程度つかんでおりますので、今後、そういったこの一時預かり事業の周知も行っていきたいと思っております。

以上でございます。

○総務課長（内村秀次君）

地方創生臨時交付金についてお答えいたします。

当初予算において、全額は充当しておりません。補正の方で、経済を回す事業のほうに活用していきたいと思っております。

以上でございます。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

ワクチン接種におきます、タクシーの助成についてでございますけれども。現在、3回目の接種におきましても助成のほうを行っているところでございますが、基本的に申請に基づいての助

成対象でございます、主に運転免許を持たない方、そして先ほど議員のほうがおっしゃいました足が不自由な方、そして身内に当日送ってくれる方々がいらっしゃる方に対しまして、申請に基づいて行っているところでございますけれども。確かに、3つのタクシー会社のほうにお願いしているところでございますが、介護タクシー的なものにタクシーは取り扱っていないとのことでございます。

ただ、タクシーでございますので、自宅のほうの玄関先まで入れるようであれば、運転手のほうに介助をいただいて、タクシーに乗せていただきさえすれば、医療機関におきましても窓口に車椅子、そして集団接種会場におきましても、車椅子等を準備いたしまして、担当職員が対応して、接種会場まで連れて行くことで対応しているところでございます。

前回の集団接種におきましても、神武ホールの入り口のほうに職員が待機しておりまして、タクシーから車椅子のほうに移動をいたしまして、そして接種会場のほうに連れて行っているところでございます。

以上でございます。

○教育総務課長（末永恵治君）

国においては、要保護児童生徒費補助金を、新入学児童生徒学用品費等の単価を、議員がおっしゃいますように、5万1,060円から5万4,060円の3,000円の引き上げを行います。

本町におきましても準要保護児童生徒につきましては、国に準じて実施したいと考えております。

以上であります。

○4番（中村昇君）

大体分かりましたけれども、このケア労働者の処遇改善なのですけれども、公定価格については保護者負担が入っていて、国のほうでは、保護者負担についてはないこともっておりますけれども、まだ通知が来てないとのことでもあります。

それから、地方創生臨時交付金については、これから計画を新たに立てられることだと思うのですけれども、今度の地方単独事業分としては、原則として制限のない自由度の高い交付金で、総務課長が経済を回す事業に活用したいと。今からだと思うのですけれども、今の段階で考えていらっしゃるようなものがあれば、お示ししていただきたいと思います。

それから、乗合タクシーなのですけれども、委員会に、まちなか循環線とかについては、コース表を出していただければありがたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

それから、病児保育なのですけれども、自分の家で、自主事業としてなされているとのことなのですけれども、先ほど課長が答弁されましたように、周知方が不十分ではないかとのことで、

十分な周知方をお願いをしたいと思います。

それから、一時預かり事業については、私が言ったのは、元年度の決算の状況を言ったわけですが、すけれども。この一時預かり事業の活用が、元年度においては多数あったと。休園によって影響はないとのことなのですけれども。これに代わるファミリーサポート事業というのが取り組まれていらっしゃると思うのですけれども。こういった活用も、ぜひ進めていただきたいと思います。

それから、ワクチン接種なのですけれども、三和タクシーのほうで運転手がいないと。私も聞いたのですけれども。介護タクシーはあるけれども、運転手がいなかったために活用できてないと。今こういった方々に対しては、介護タクシーがあるのです。この3件のタクシー会社に加えて介護タクシー、今後もあるかもしれませんけれども、このワクチン接種については、介護タクシーの利用も拡大していただきたいと思います。

それから、もう一つは、今、医療従事者については、優先順位でワクチン接種がなされておりますけれども、介護の従事者、これについては優先順位がないのです。ですから、自宅で療養される感染者とか、また、濃厚接触者の方々を訪問介護する際に、家族にも感染させたらいけないと、感染拡大防止のためにも介護従事者にもやっぱり優先的な接種が必要ではないかと思っておりますけれども、考え方を伺いたします。

それから、就学援助ですけれども、国に準じて引き上げるとのことです。これまで、国が広げてきた就学援助の制度があるのですけれども。例えば生徒会費とか、高原町ではまだ拡大をしていない部分についての考え方を伺いたします。

以上、伺いたします。

○総務課長（内村秀次君）

臨時交付金の活用の仕方について今考えているものはどの御質問でございますけれども、交付金の活用につきましては、今後、各課に照会しまして、有効な活用を考えていきたいと考えております。

以上でございます。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

2つの点でございました。まず、1点目の介護タクシーの件でございますけれども。タクシー会社のほうで、介護タクシーの対応ができるかどうかも含めまして、調査をかけまして、可能かどうかも含めて検討を行いたいと考えております。

そして、介護従事者への優先接種についてでございますけれども、医療従事者、そして高齢者施設等の従事者、そして入所者につきましては、6か月を待たずに優先接種を行うよう、国の指

示により行ったところでございます。

そして、既に本町の場合は、6か月経過された方を前倒しで接種券をお配りいたしておりますので、優先順位につきましては、もうクリアをされていると認識しておりますので、今後、その6か月がまた短くなるようであれば、検討する余地が出てくるかと思っております。さきの新聞報道等で4回目の接種のほうも話題となっておりますけれども、その4回目の接種の際に、また国のほうは何らかの指針を示した場合は、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○教育総務課長（末永恵治君）

P T A会費等の項目については国の方で、項目はあるわけですが、本町においてはまだ対処といたしておりませんが、今後の検討課題と考えております。

以上であります。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 1時48分 休憩

午後 1時48分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町民福祉課長（水町洋明君）

中村議員の御質問にお答えいたします。

一時預かり事業を利用しなくても、本町においてファミリーサポート事業も展開しておりますので、そういった理由を考えていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

4点ほどお伺いしたいと思います。

附属資料の7ページに、地域おこし協力隊の設置事業が書いてありまして、金額がかなり大きいので、人数など想定を教えてください。あと、できれば内容がある程度固まっていれば、その辺りも説明いただきたいと思っております。

それから、23ページの病院整備費なのですが、先ほど等の議案7号についても、私も極めて消極的な賛成だったので、この病院整備費が令和3年度当初よりも、1,7

訂正いただきたいと思います。訂正されるということですので。

○1 番（陣圭介君）

3 点目の質疑について訂正いたします。3 点目について説明いたします。

この機構集積支援事業として、令和4年度以降、高原町の担い手への農地集積の集約化などについて、展望をお伺いしたいと思います。

以上です。

○町長（高妻経信君）

陣議員からの御質問のございました病院への操出しの考え方ですけれども、一般会計補正22号の中でも、私のほうから宣言をさせていただきましたけれども、今回の令和4年度当初予算においても、この操出しの考え方ですね、変えた形での計上をいたしております。

総務課長が、補正の際に申しあげましたように、やはりこの公立病院。全国的に非常に経営的に厳しくなっている中で、やはりこの総務省の考え方ですね、地域によってはどうしても公立病院を残していかなければ地域医療が成り立たない、そう地域も多いわけですけども。そういう中で、総務省のほうからも曖昧な部分があるのですけども、ある程度、実際の考え方に委ねるような感じです。

それから、基準としては、総務課長が説明しましたように、単価、それから最高療病床数、こういったものを基準に、一応、今後させていただくことで、今回、計上しておりますので、御理解賜りますようによろしくお願いいたします。

以上です。

○農政林務課長（上村洋二君）

御質問ありがとうございます。

機構集積支援事業の、失礼しました、機構集積支援事業の概要を説明させていただきますと、まず農地の利用状況調査をしましょうと、利用者の意向調査をしましょう、そして所有者不明の権利関係を調査しましょう、これは相続関係を調査しましょうと、行方不明の方とか調査しましょうと。あと、農地の有効利用を図るために支援していきましょと。高原町の集積率、約5割ということですのでございます。高原町の今後の農業等しますと、大きなお話になってしまうのですが、1つは、やっぱり集落営農組合の推進だろうと、集落営農組合の活動の活発化が1つ大きなところになってくるのだらうと思っております。高原町、10の営農組合がございまして、活動してございまして、ほかの市町村から比べると大変活動的であると思っております。これ自負しております。と申しますのもやっぱり、中山間交付金、これを頂いている関係で、これを原資といたしまして様々な活動をしていると。共同機械利用等も入れて、いわゆる農作業の自由委託等も進んでいると考えております。

ただ、こういう中で、例えば、農地を持っていて、今までなら、機械も何もないから貸したいという方もいらっしゃると思うのですが、営農組合が大変進んでいることで、やはり、自分とこの田んぼは、田んぼでつくった米を食べたいのであれば、本当、田起こしから稲刈り、乾燥調整までも全てお願いができる。そういう流れもできることで、田んぼを全部貸さなくても、大丈夫だということもちょっとあるのかなと考えております。

ただ、今後は、営農組合等の法人化も4か所されておりますし、また、他にも大きな法人化をされているところもありますので、集約化がどんどん進んでいくのだろうと考えております。あと、もう1つちょっと心配しているのが、認定農家がだんだん減っているところでございます。

今、最新のデータでいくと251。これは法人も含めてでございます。法人も含めて251団体の方々が認定農家とされているのですが、高原町の農地を借りたり、売ったりする方々、畜産農家の方がほとんどでございます。畜産農家の方々にいろんなお話を聞くと、もうちょっと手一杯、手一杯かなあと、農地を借りるのは手一杯かなあとという意見も大変聞いております。また、あと一方で、たくさんの農地を借りたりする場合、やっぱり大きな機械が必要であると。そうすると、条件整備がされていない所、道路とか圃場整備がされていない所については、なかなか、もう借り手がなくなっているところもございますので、そういったところについても、ちょっと調整等が必要かなと思っております。ただ、悲しい先細りのお話ばかりでもないのですが、隣の農地畜産振興課が担当しておりますけども、畜産農家で若手の大変有望な、やる気のある農家の方もどんどん増えておりますし、肥育農家の方々もほとんど後継者が確保できたと良いニュースもございます。そういった方々と連携をしたり、いろんな意見を聞きながら、知恵をいただきながら、少しずつ進めていくことが1番大事だろうと思っておりますし、私たち農地畜産振興課も含めてなのですが、役場にデスクワークでやっているのではなくて、どんどん現地に出て行っていろんなお話を聞くと、ほろほろ話があったり、いろいろと思うのですけども。そういった話も聞いていって、それを、例えば、いろんな上のほう、県や国に繋いでいって、新しい事業を構築するとか、どんどん上げていって話を繋いでいく、そういったパイプの役目としても頑張っていかなければいけないと考えておりますし、それもちょうと引き継いでいきたいと思っております。

長くなりました。よろしく願いいたします。

○総合政策課長（馬場倫代君）

地域おこし協力隊についてお答えいたします。

協力隊については、現在4人の方に採用を行っております。

1人が移住定住促進に関する事、お1人が地場産品開発に関する事、あと、お2人が事業

承継ですね。農業関係と、あと、お菓子の製造に関する事業承継のほうでお2人来ていただいています。令和4年度につきましては、さらに7名の隊員を採用しようと考えております。内訳としましては、事業承継と、あと地域商社に関する方で7人を考えております。基本的にと言いますか、地域おこし協力隊、これまで会計年度任用職員と同じ勤務体系で採用を行っていたのですけれども、やはり、農業とか菓子製造になると1日当たりの勤務時間とか、また月によって時間が変わること、今年度から委託型の隊員で採用をしております。その関係で、令和4年度の地域おこし協力隊の事業において委託料がかなり上がっているのですが、その委託型の雇用と言いますか、契約を行う関係で、委託料が上がっているところでございます。以上です。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

御質問ございました、この地域商社に向けてのこの予算計上等も含めまして、それに伴います考え方と言いますか、どのような経緯、考え方を持っているのかという御質問でございました。まず、この地域商社。立上げに関しまして思いましたのが、まず、陣議員からも御質問ございましたとおり、民間でできることは民間でできないか、指定管理者のお話等もいただいたときからずっと考えておりました。まず、高原町内で、民間に任していけるものは何かあるのかを考えました。そう考えたときに観光とこの物産。特に、ふるさと納税制度をこの産業創生課で管理するようになってから、まず、このふるさと納税の制度を勉強させていただきました。その中で、見ている中で国が示しています、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勉強する機会を与えていただきました。その中で上がっておりますのは、地域の稼ぐ力の向上と。こういうものに力を入れていくとお話が出ておりました。そこを調べていきますと、全国各地で地域商社等を立ち上げて、民間に任せるものは民間に任していくような事業が多数ありました。もちろん、成功事例もあれば失敗する事例もあったわけでございますけれども。その中で、3つほど型がございまして、今、本町でやろうとしている地方公共団体のコーディネート型が1つ、そして地域住民の共同参加型が1つ、それと民間企業主導の設立型の3つがありました。その中におきまして、何故今、この地方公共団体コーディネート型でいくのかとなりますと、後々は、今目指しておりますのは、この観光と物産の部門を民間で回してもらうために、この株式会社を立ち上げるのがあくまでも目的でございます。

まず、この地方公共団体がコーディネートする方法で、何故、これを採用するほうが良いと思ったかと言うと、まず、いろんな重要なこの町内で起きています要素を町、もちろん議会の皆様と協議しながら、ある程度チェックしていただきながらやっていけるところが1つ。そして、地方公共団地が絡むことで、一部のものではなく町全体、町民、事業者、農業者、方等に

ある程度、公益的に利が得られるように、最大限の意欲活用ができるところが1つ。それと外部からの経営の管理や戦略を獲得するために、地域内の関係者と、連携もそうなのでございますけども、この地方公共団体が絡むことで信頼性、あるいは、そういうものも得られやすいこと。そして、この地域コーディネート型の地域商社が、全国でも長く経営が続いていると言いますのも最初、大事な立上げ部分をサポートすることによりまして、その後、中盤そして拡大、ここにつきましては、先程お話しております、この「まち・ひと・しごと総合戦略」の中で、国の補助制度あるいは支援、そしてサポートが充実していることを考えておりますと、まず、最初のスタートダッシュ。しかも、ふるさと納税を稼いだ分でそこを充填していく、これはスーパー銭湯、地域商社が回すわけでございますけども、稼いだ分は必ず町のほうへ返していただける流れをこのふるさと納税制度がある間に確立できれば。そして、基盤がしっかりした後、民間展開できる事業。民間の企業として独り立ちすることができるものを、目指していければということで、この当初、若干、陣議員から御指摘があったとおり、若干、当初はお金がかかってしまうわけでございますけども。一般財源ではなく、このふるさと納税で上げた分で回していければというのがこのいきさつ、考え方の発端でございます。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

地域商社のお話が今ありましたけれども。話を聞いていると、総合政策課が絡んで地域おこし協力隊の雇用も予定されていると。町外の方が本町のために、こちらにいらしていただくことで、人生をかけていらっしゃるような意味合いもあるかと思うのですよ。

今、事業の内容を見ていると、34ページのほうは、ふるさと納税の特産品の開発業務等を、寄附金の中から一部委託を受けてやっていくという話なのですけれども。改めて外郭団体を作らずに、今までの庁内の課の中の一部としてやっても私、あまり変わりがない気がしてならないのですよね。むしろほかの組織にするがために、公費の見えない部分が増えてきたり、かえってその事業を増やすことによる予算が増額になるような気がして、本願であるその民間主体で何かしらの商権とか、商売を構築していく建前で、公費だけが積み上がっている気がしてならないのですよ。どちらかと言えば見方としては私、消極的で。実際、商売やっている方々からの御意見を伺っても役場が、行政が主導して事業を立ち上げていくものは、商売人でないですから公務員の方々は。苦勞して株式を、出資を募って小さなところからこつこつ積み上げていって会社を大きくした人からすると、この事業ははじめから、規模が大きすぎて無理だというお声が多いのですよ。なので、成功しても、動き出してしまっているから、予算を組まざるを得ない気持ちは分かるのですけれども、もう少し慎重さが足りてないのではと気がしてならないのですよ。これは意見として、頭に入れていただければいいと思うのですけども。

1点だけ町長にお伺いしますが、この件もそうですけど、地域おこし協力隊もそうですけど、9ページにある地域活性化企業人設置もそうですけれども、町外からの人を多数呼び込んで、いわゆる地域活性化と言われる事業を複数組まれていますけれども、果たして本当にその事業費を、組むだけの効果が前もって検証できているのかに対して私、この本年度予算についてすごく疑問を感じているのですよ。町長がどうお考えなのかを最後お伺いしたいと思います。

○町長（高妻経信君）

では、私の方からお答えさせていただきます。

今回の地域商社の立上げに関して、私には、町民の方から、非常に心配をされている声も多く、私も実際聞いております。

しかし、私の考えですけれども、私も行政で働いていた人間でありますけれども。今のこの稼ぐことを考えたときに、この地域商社でのこの稼ぐ意味は、地域商社が儲かること。あるいは、併せまして、全てが町民にこのメリットがあると。いわゆる町民の所得向上を目指していくのは、いわゆる地域商社の考え方でありまして、今の全国的に見て、やはりこの行政だけで全てを回して今いけるかと時代を見たときに、高原町の今回のこの地域商社の立上げと似たような、そういった動きが全国的には増えてきております。やはりどこの自治体も同じような悩みがあるのだろうと。いわゆる、地域の活性化を図っていく中で、どうしても自治体の枠を超えた、もう1つの会社的な事業に今、自治体がそういうのを動かしていくということだろうと思うのです。その中で、今回の高原町の地域商社に関しましては、先程質問にありました、まずは、そのふるさと納税で、まず、その地域商社のやる財政的な基盤をそこから作っていくと。これはやはり今、このふるさと納税、今、町の方で主体的にやっておりますけれども、今後、地域商社でふるさと納税を全て任せるという意味は、やはり、私としては、必ずふるさと納税を伸ばしていただきたいということなのですね。このことが結局、返礼品などを通じて当然、農業・商業・工業そういったメリットが出てくるであろうというのがあります。言わば、このふるさと納税を地域商社で行っていく意味は、今、町が取り組んでいるこの1つの地域活性化をそのままお任せしますと。ただこれが伸びないようであると町としても今申しましたように、寄附額の12%を補助金として出しているわけですので、それはやはりなぜだろうと、そうになると、やはり町との関係ですね、そのとき、取締役会に入っていくわけですけども。そうならないように今、おっしゃいましたように地域おこし協力隊、あるいは外部から来られている総務省との事業活用した人材派遣ですね、こういったもので、これは企業版ふるさと納税も含めて様々な情報、あるいはノウハウを活用することが1つの高原町の活路を見出す、私は有効な手段だと思っておりますので。また今後も随時、議会にも報告をするようになっておりますので、来年度、そろそろ立ち上げることになろうかと思っておりますけれども、そこは随時、議会にも

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、質疑を続行いたします。

○6番（福澤卓志君）

先ほど、5点目の質問に関しては別会計でしたので、質問を取り下げます。

○町民福祉課長（水町洋明君）

福澤議員の御質問にお答えいたします。

3点いただきました。

まず、1点目でございますが、非接触レジ導入事業でございますが、コロナ禍におきまして、職員と町民の方等が接触することなく、手数料等を支払うことができる事業でございます。

続きまして、2点目でございますが、個人番号カードの交付枚数と交付率ということでございますけれども、令和4年2月23日現在3,780枚、率にいたしまして41.4%でございます。

3点目でございますが、民生委員活動費が令和3年度と比べて増加している理由でございますが、令和4年度が民生委員、児童委員の方々の改選の年でございます。

このことから、そういった改選費用や視察研修費用が増えたためでございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 2時32分 休憩

午後 2時33分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

議事を継続し、質疑を続行いたします。

○町民福祉課長（水町洋明君）

福澤議員の1点目の御質問のその内容でございますが、現状、住民係の窓口で、税務課の手数料であったり、住民係の手数料であったりいろんなものを町民の方等が支払っていただくような状況でございます。これに専用のレジを置きまして、カードであるとかそういった電子機器類で決済ができるもの、これまでどおり現金でも取扱いできるのですが、それとあと、端末を置いて対応できるような形を考えております。

以上でございます。

○産業創生課長（森山業君）

お答え申し上げます。

夏祭りに対します補助金のことでございますけれども、夏祭りにおきましては昨年度も、コロナ

禍でございましたけれども、非常に期間をぎりぎりまで延ばして開催できることで非常に感動したとか、いろいろなお言葉があって、私たちも非常にうれしかったのを覚えております。

今回、この予算を検討するに当たりまして、昨年度から引き続いて、どうしてもこのコロナの状況がまず分からないところが1点。それと、商工会とも協議をさせていただきまして、今年度は、コロナ対策分で経費がどれくらいかかるか分からないということで、補正で可決していただいている分を支出して、祭りをやらせていただいております。

今回も若干、御自分達で御寄付を貰われたり、本当に鋭意努力をされてこの補助金の方も今のところ清算で、こちらに御戻しいただける方の手続きを進めております。そういうことも勘案いたしまして、まず、祭りの骨格となる部分。そちらにつきまして、まずこちらに計上させていただきまして、今後、この蔓延防止に対してもイベントの考え方が今後変わると、3月12日だったと思うのですが、新聞のほうにも出ておりましたので。そういうことを勘案しながらコロナ対策あるいはそういうものが必要であれば、やはりその都度検討をさせて協議をさせていただいて、町内の若者たちがやられる一大イベントでございますので、支援していければと考えているところでございます。

以上でございます。

○6番（福澤卓志君）

夏祭りに関しましては、昨年度、役場の皆様にも大変お手伝いいただきましてありがたかったことと、みんなで作る祭り、そして町のための祭りで大変盛況であったがゆえに、こういった御支援また補助金等も大変必要になってまいります。コロナ禍、今後ますます祭りに対しても、対応もできる限り検討をいただきながら、よりよいものにしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○9番（前原淳一君）

2点ほどお願いします。

まず1点目は、皇子原公園の神武の館の整備に伴って、文化財等を搬出されて保管をしておられると思うのですが。その後の修繕不能のものは処分で。どのようなものを処分するのか。後、保管の方法ですね今後の。そういったことについてお伺いをいたします。

2点目は、JR吉都線利用促進協議会の負担金の82万5,000円ですけれども。様々な取組を実施すると掲げてありますけれども、この様々な取組とはどういったものなのか伺います。

○産業創生課長（森山業君）

御質問にお答えいたします。

この観光施設等備品処分事業の件に思いますけども。こちら、今お話ございましたとおり皇子原公園と後、御池にも現在使用ができなくなった、修繕を頼めば若干なかなか部品がないなど。そういうものにつきましては、例えば具体的に言いますと、ガラスケースだけはちょっと利用できるとか、中にあります人形とか、鳥居は利用できる。そういうものも有効に利用しようと思うわけでございますけど。今、旧レストハウス、こちらの方で保管をさせていただいております。

この中も非常に事業部の方等が整理して詰めたりして、管理をしていただいているわけでございますけども。限りあるスペースでございますので、そちらを有効に空けていく。あるいは、残して利用価値のあるものを判断しながら、そういうふうに使えるものは今ちょうど整備をしておりますので、そこを一体的に考えながら、廃棄できるものは廃棄していくということで整理していきたい、計画的にしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○総合政策課長（馬場倫代君）

J R 吉都線の負担金に関する御質問ですが、様々な取組につきましては今現在、J R 吉都線の促進協議会、利用促進協議会を立ち上げておまして、そこでみんなで一体になっていろんな事業をしていくと。例えば観光列車を走らせたりとか、あとは駅周辺の美化活動への補助、あと利用促進で小学生等が利用されたときの助成をしたりとか、そういう事業をしております。

以上です。

○9番（前原淳一君）

レストハウスのほうに今保管をしているとのことですが、この保管のものの中に神輿等もあると思うのですけれども。こういったものもずっとレストハウスのほうで保管するのか。それともあるいは、新しく保管場所を探すのか、新設するのか、そういったことと。

吉都線ですけれども、さきの委員会等でも色々お話をしましたけれども、J R そのものが、赤字路線で長年運行をしているわけですが、やはり利用者の促進から考えると、もっと具体的なこと、例えば山形県だったと思うのですが、沿線に今ですとツツジが綺麗に咲いているのがこの間テレビで報道されていまして。それがずっと沿線、各駅ごとにいろいろな花を植えてやっているわけなのですよね。

ただ、口頭で利用促進を謳うだけではなくて、やはり我々、沿線の自治体もみんなで協議をしながら、それぞれ負担するものは負担していく。それなりの覚悟を持って事業に取り組んでいくことが必要だと思うのですよ。それをやらない限りは、利用者は増えていかないと思うのですよ。この2点をお願いします。

○産業創生課長（森山業君）

お答えいたします。

レストハウスの中にございます「神輿」の件でございます。こちらの神輿につきましては、当時、祭り等で今まで狭野神社等にありました、この神輿を復活させることで、磨いたりをしてお披露目をしてきた神輿。そして、神輿の裏の方にいつできたかと経緯等も書いてあります。非常に宮崎神宮等にありますが神輿と対で作られた非常に由緒あるもので、日光が余り当たらないと言いますか、レストハウスに今保存している形でございます。今後、この神輿につきましては、今、祭りですね。この10月に予定している祭りのほうで、宮崎神宮等のほうと何かできないかという形で今、計画を進めております。

これに伴いまして、この保存場所、あるいは日頃人に見られるようにするのかとか。そういうことを総合的にこの祭り等と協議をしながら、有効活用をしていくことを含めて考えていきたいと思っております。

以上です。

○総合政策課長（馬場倫代君）

先程、これまでも何度か前原議員のほうから御提案をいただいているところなのですが、実際、例えば沿線の周辺美化活動等は、限られた団体の方で行っていただいている状態です。

吉都線につきましてもサポーターも以前、募集をしております、たくさんいらっしゃいますので、先程、御提案いただいた沿線沿いに花を植えるとか、みんなで取り組めることについては、また促進協議会等でも提案しながら、取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○9番（前原淳一君）

吉都線ですけれども、私の意見として聞いていただきたいのですけれども。やはり昔の国鉄とは違って、JRは民間企業になったわけで。やはり民間は、黒字を目指してやっているわけですよ。それでも、地域のために赤字覚悟で運営をされている。そういったこともしっかり考えて協議をしていっていただきたい。

突拍子もないことを言いますが、私の個人の考えとすれば、JRと協議をして無償でも払い下げをしていただいて、バス専用路線にするとか、そういった考えも今後必要になってくるのかなあと気がしております。やはりそうしないと、もうJR自体が持たないことも想定されますので、今後、ぜひ頭の片隅にでも置いていただいて、協議会の中で出していただければ幸いかなと思います。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ただいまの御意見は意見とありましたけれども、要望ということでよろしいですか。

ほかにございませんか。

ないようですので、次に、議案第22号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第23号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第24号について許します。質疑はありませんか。

○9番（前原淳一君）

1点だけ伺います。国民健康保険の今後の見通しなのですけれども。高齢化がどんどん進む中で、医療費の高騰も年々増えていっております。令和4年度では税率も据置きで評価するところなのですけれども。こういった据置き、あるいは法定外繰入れ、こういったことがいつぐらいまで継続していける見込みなのか、そこら辺の説明をお願いします。

○町民福祉課長（水町洋明君）

前原議員の御質問にお答えいたします。

国民健康保険特別会計の今後の見通しでございますが、令和4年度につきましては、コロナ禍における影響を勘案いたしまして、税の据置きといたした次第でございますが、県が令和5年度以降の県の納付金の算定をしております。あくまでもこれ現在までの推計値でございますが、毎年度上昇する形で、令和5年度以降の県の納付金の算定がされております。

そういったことから判断いたしますと、令和4年度におきましては、税は据置きでございますが、それ以降につきましては実際、これまでも申し上げてまいりましたが、国においては、法定外繰入れは、認めない方向で検討をされております。

実際、本町におきましても計画を今策定しております、毎年度、毎年度1,000万円ずつ法定外を下げた形で計画をしております。ですから令和4年度におきましては、上限は1,000万円でございますが、来年度はもうその上限が半分以下になります。

そういたしますと、あと財源と言いますと、基金積立金と、あと税によるものと2つしかなくなつてまいりますので、基金につきましても令和4年度において1,700万円程取り崩す予定としております。そうなりますと、残りが二千何百万円位しかありませんので、なかなか厳しいような状況になってくるものと思われまます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほか質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

今回は昨年度同様、税率を据え置くことで、コロナ禍で苦しむ国保世帯に対しての配慮とっております。また、就学前の子供について、この4月から国が半分を負担する。それに併せて残りを町が負担することで、これについては高妻町長が子育て支援に力を入れていることの反映で、高く評価をしたいと思っております。

そうした中で、医療費をいかに抑制していくことが重要になってくることから、力を入れているのが、特定健診の受診アップだと思うのですけれども、40%ちょっとで毎年、受診者が決まっていたり、また隔年ごとに受診したりする方もいらっしゃると思うのですけれども。そうした中で、一度も受診していらっしゃらない方々への受診を進めることが、重要だと思うのですけれども。その辺の取組についてお伺いをしたいと思います。

○町民福祉課長（水町洋明君）

中村議員の御質問にお答えいたします。

特定健診の一度も受けていらっしゃらない方への対応でございますが、これまで民間会社に委託をいたしまして、それぞれのケース、先程言われました、何年か前に受けて現在受けていらっしゃらない方とか、一回も受けていらっしゃらない方、毎年度受けていらっしゃる方についても、一応、勧奨はするのですけれども、そういった対象者をグループ分けした勧奨を行っている状況ではございますが、昨今は、コロナ禍においてなかなか特定健診も開催できていない状況なのですけど。令和4年度以降については、またそういった取組を強化しながら進めていってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○4番（中村昇君）

その推進体制ですね。それと受診者の保健指導、これも重要かと思うのですよね。地区担当制が決まっていますよね、今、保健師さんの。そういうことからこの医療費の抑制につながると思うのですよ。ですからその辺の取組が進んでいるのか、保健指導も含めて。今難しくなってきたりとか。もちろんコロナ禍ですから、訪問指導とかもいろいろ問題があったりすると思うのですけれども。やはりそういったことをやっていかないと、医療費の抑制は図られないと思うのですよね。

特にこの高原町は、毎年度県内では上位のほうに位置する医療費ですから、特に力を入れて推進を図っていく必要があると思うのですけれども。その辺についてお伺いをいたします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

保健指導についてでございますが、令和3年度から、本格的に地区担当制を進めようと考えて

いたところでございますけれども。議員御指摘のとおりコロナ禍におきまして、思うように地域に出向いて保健指導を実際行うことは、計画どおりにはいかなかったところでございます。ただ、個別指導は要望があった場合、電話等、そして特に個人宅に出向いて指導は行ったところでございます。今年度におきまして、途中コロナがちょっと沈静化した時期においては、積極的に外に出向いて保健指導の方を行ったところなのですけれども。年末に向けてまたコロナが拡大したことで、現状としては思うようにいかなかったもので、令和4年度については、コロナの状況を見ながら可能な限り、個別指導の形で取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○4番（中村昇君）

直接面談しての指導は難しいと思うのですけれども。電話等で保健指導を徹底して行って私も、保健指導を受けておりますけれども。積極的な指導をできる限りのことをやっていただきたいと要望をしておきます。

○議長（温谷文雄君）

ただの要望として、はい。ほかに質疑はありませんか。

次に、議案第25号について許します。質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

先程の補正予算でも居宅介護事業が9,000万円の減と補正がありましたけれども、それと関連するかどうかは分かりませんが、社会福祉協議会でやってこられたホームヘルスサービス居宅介護事業ですよね。これをぜひ、再開をしていただきたいと思います。やはり身近な町内の事業所からとえば、サービスが受けられやすくなりますし、また雇用の確保にも繋がると思うのですけれども。そのあたりについてお伺いをいたします。

○ほほえみ館長（久徳信二君）

御質問にお答えいたします。

高原町社会福祉協議会の居宅介護支援事業所におけます、介護ヘルパーの事業でございますけれども。私も、社会福祉協議会のほうに3年派遣されておまして、その間におきまして、非常に難しい問題でございました。議員おっしゃるとおり、ヘルパーの雇用が非常に大きな問題でございまして、処遇とか大きな問題がございまして、

そして、社会福祉協議会の居宅介護支援事業所のほうにつきましては、一回、以前廃止をした経緯があったわけなのですけれども再度、再開いたしまして、今、引き続き事業のほうを行っているところでございます。ただ、その中におきまして、介護ヘルパーの人員の不足問題もございまして、規模は縮小したような感じで見受けられるところでございまして、実際、ヘルパーにつきましては、どこの事業所もだと思うのですけれども、非常に確保が難しいと

聞いております。

また、コロナ禍において影響もあるのではないだろうかと思っておりますので、社会福祉協議会に限らず、町内の各施設と様々な情報等を共有しながら、このヘルパー確保については、可能な限り取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○4番（中村昇君）

ケア労働者の処遇改善で、介護とか保育士の収入を3%程度アップするような取組も始まってはおりますけれども、やはり処遇改善がなされないと重労働だと思うのですよね。介護する仕事というのは。ですからやはりほかの職種と見比べても、それに見合った処遇でないと募集にも応じられないことだと思うのですよね。

ですから、やはりその辺を考えて、ヘルパーの募集とかをかけていただきたい。今そういう町内のホームヘルパーさんが、町内事業所がないことで、市外の民間の事業所から町内のホームヘルプサービスを行っていることだと思うのですよ。

ですから、やはりその辺を配慮してぜひこのホームヘルプサービス事業の充実を図っていただきたいことの要望をしておきたいと思えます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はございませんか。

次に、議案第26号について許します。質疑はございませんか。

○6番（福澤卓志君）

委員会で聞けませんのでこの場で伺えればと思って質問をします。

後期高齢者、マッサージ・はり・きゅうの施術の助成、これ1回当たり幾らで何名を計画されたか伺いたいと思えます。

○町民福祉課長（水町洋明君）

御質問にお答えいたします。

1人24回までを上限といたしまして、1回1,000円の10人で計上いたしております。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

次に、議案第27号について許します。質疑はありませんか。

○5番（温水宜昭君）

先程、陣議員からも質問がありましたけれども、病院の（発言する者あり）ごめんなさい。すみません。

○議長（温谷文雄君）

いいですか。

○5番（温水宜昭君）

はい、申し訳ない。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はございませんか。

次に、議案第28号について許します。質疑はありませんか。

○5番（温水宜昭君）

すみませんでした。

先程、陣議員からも質問があったのですが、病院事業の令和4年度を見てみますと、患者さんも少なくなるし、収入も約15%近く、1億近く減になっているのですが、その辺の考え方ですね。今年は補正の中では、不採算地区病院運営費で基準外ではないとのことでありましたので、何とか基準外あれをせんでもいいということで事務長のほうから答弁がありましたけれども。令和4年度の数字を見てみますと、大分厳しい感じに受け取っております。その辺の考え方をお伺いしたいと思います。

○高原病院事務長（花牟禮秀隆君）

まず、陣議員から御質問がありましたその補正の関係でございますが、予算書の14ページを見ていただきたいと思っております。

令和3年度の病院事業の予定損益計算書でございます。この中で医業収益、医業費用、医業外収益、以外費用の形でこちらのほうにありますけれども。これらの医業収益と医業外収益を加算いたしますと、9億1,438万656円。医業費用と医業外費用を加算いたしますと10億6,309万11円で、令和3年度、今年度はですね、経常収支でございますが、9,192万8,355円のいわゆる赤字の予定でございます。

この9,100万円とのことなのでございます。令和3年度でございますが、9,192万8,355円なのでございますけれども。この中のまた今後、4,000万円程補助金が今後入ってくる予定でございます。これには計上しておりません。それを引きますと約4,000万円程度の実質の赤字になってくると。決算でそのような見込をいたしておるところでございます。

令和4年度でございますけれども、確かに収入も医業収益としまして1億1,000万円程度の14.99%減ってまいります。

来年度でございますが、恐らく補助金も、本年度で終わりではないかと見込んでおるところでございます。今のところその前に総務課長から説明がありましたけれども、基準内の不採算地区の1億5,000万円を合わせましても1億7,000万円程度資金が足りないところを今

見込んでいるところでございます。

以上でございます。

○5番（温水宜昭君）

予算ですので、私たちも細かいところまでは分からない部分もあるのですが、やはり相当気を引き締めるだけでは、なかなか厳しい感じがしております。

私たちは、文教厚生常任委員会の方に入れませんので、細かい事はまだ聞きたいことはありますけれども、その辺で予算としては非常に苦しい予算の組み方としか受け取れないのですが、そこ辺について町長の方から何かございましたらお願いします。

○町長（高妻経信君）

令和4年度のこの当初予算につきまして、これまでと予算の組み方が変わってきている中身になっていると、お気づきだと思いますけれども、より実数見込みに近いような計上の仕方をいたしております。

ですので、今後、コロナの補助金は当然、見込まない状態で組んでおりまして。ですので、今後、この病院としてさらにこの経営削減というのは非常に難しくなっております。

ですので、やはりこの医業収入を、今後医師の確保も含めて上げていくことにまず努力してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○4番（中村昇君）

不採算地区病院運営経費については昨年度に引き続いて、今年度も来年度も30%増になっていると思います。今後、これが恒常的なものになるのか分かりませんが。

それと診療報酬の改定が5回連続マイナス改定と。全体を見て改定となったわけですが、この報酬改定の病院への影響についてどのように考えていらっしゃるのか。

それと、再三質問しますが、医師に確保ですね。厳しい厳しいといいつつながらその内容がほとんど伝わってこないのです。働かれる医師、町内出身の医師もいらっしゃると思うのですが、どの段階にきているのか。もうその方についてまだずっと要請をしているのか。それとももう断念しているのか。その医師の確保についてどのあたりまでできているのか、そのあたりが見えないものですから心配しているわけですが、それについて伺いたします。

○町長（高妻、経信君）

まず、私のほうから、ただいま御質問のありました医師の確保についてお答えをさせていただきますが。

お願いをしていることは続けておりますので。ただ、そのお医者さんの個人にかかわるものでございますので、個人名とかは申し上げられませんが、今後、議会にも進捗等が報告できる時期があれば報告をさせていただきたいと。現状では、厳しいと御理解いただいてよろしいかと思えます。

以上です。

○高原病院事務長（花牟禮秀隆君）

2点お答えいたします。

まず、不採算地区でございますが、不採算地区につきましては、この前総務課長が申しましたとおり、1億5,000万円程度の限度でこれからもそのような形で考えております。

あと、令和4年度から改正される診療報酬の影響でございますけれども。今回の診療報酬でございますけれども、診療報酬はプラス0.43%引き上げ、薬価等でマイナス1.37%引き下げとなっております。全体で0.94%の引下げとなっております。

改定率の主な内容でございますけれども、看護職員の処遇改善と不妊治療の保険適用でございます。看護職員の処遇改善は病院につきましては、救急搬送件数が200件以上と急性期の病院に限定されておりますので、また不妊治療を行う産婦人科もないことから当院には大きく影響しないと考えております。

以上でございます。

○4番（中村昇君）

町長から答弁が医師の確保でありましたけれども。現状では厳しいとの答弁だったのですけれども。常勤の退職者が出るわけですけれども、その見通しですね、よくまだはっきり言えないところがあると。分からないことでもないと思うのですけれども。見通しとしては、出てくると。確保ができる可能性は大きいとか、確保に向けて見えてこないわけです。答弁の中で。もう医師の確保が現状では難しいと言いつつも、どのように医師の確保を図っているのかその辺が具体的なものが見えないものですから、「大丈夫なのだろうか」という思いが。議員の皆さんそう思っているんじゃないかと思うのですよね。言える範囲の中で、見通しを示していただきたいと思えますけれども。

○町長（高妻経信君）

言える範囲でと質問でありましたけれども。高原町ゆかりの方に、話をしている段階で、状況は現状では、厳しい状況でございます。

今後、やはりこの高原病院にとって必要な医師を確保することは、一般会計補正の分でも私のほうから説明させていただきましたけれども、これは最重要課題と捉えておりますので。また今、中村議員からありましたけれども、今後、どうしても来年度中に、上半期中には確保が前提と

なろうかと思しますので、また随時報告をさせていただきたいと思います。

また、町民の方にもそういった情報を、今お聞きすることもやっておりますので、また議員さん方からも情報があればぜひ、お繋ぎいただきたいと思いますと考えておりますのでよろしく願い申し上げます。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

3点ほど質疑いたします。

一般会計からの繰入について、今年度末から特段の配慮をいただくことで、病院に対しては、今までになかった特別な配慮がされているので、現場においても経営改善に向けて、真摯に取り組んでいただきたいと思いますところでもありますけれども。

まず、職場環境の各職員さんが働きやすい環境を作れば自然と患者さんもいい環境のところでは診療を受けたいとのことで戻ってくると思うのですが、そういった環境を作るのは現場の管理職であり、事務長なり係長の仕事であると思うのですが、そういった点についてどう考えていらっしゃるかの点を一点お伺いしたいと思います。

それから、今常勤医師の確保の話がありましたけれども、診療科目の設定についてなのですが、私はいろんな診療科目を、多数設定することに対してはどちらかというと否定的な見方をされていて、損益をちゃんと考慮して、新たな設定をするのであれば、それはまだだ思うのですが、そういった考え方について、どうこれまで取り組んでいただいたか。これからの取組について両方お伺いしたいと思います。

それから、3点目ですけれども、鹿児島大学に対する研究委託費ですか、300万円なのですが、名目上は、鹿児島大学から医師に来ていただくような協力金という形かと思うのですが、この名目が現状、機能しているのかどうか、鹿児島大学からどれだけの医師が非常勤でもいいので招聘で来ているのか、実情を伺いしたいと思います。

以上です。

○高原病院事務長（花牟禮秀隆君）

陣議員から3点のお尋ねがありました。

まず1点目ですが、職場環境についてでございます。このことにつきましては、先般、町長も壇上から申し上げました。陣議員からの御意見もございまして、「職場を語る会」あるいは「各部署の会議」等を今、月1ペースで開催しております。そういう形とあと、いわゆるコロナ会議の中でいろんな話をしながらやっている状況でございます。

あと、常勤医師の診療科目の設定でございますが、今回、この時期のガイドラインの構成としましては、公立病院経営強化プランといたしまして、令和4年度あるいは令和5年度中に策定と計画があります。その中で、まず、第一の救急を見ると、救急というか、地域の患者さんを診ることはやはり総合診療医。そういった方の確保を目指して下さいとのことで、そういったところも含めてなのですけれども、検討してまいりたいと。どのような形で分からないのですけれども、そういう方がいらっしゃれば当たっていきたいと思っております。

3番目の鹿児島大学の医師の300万円でございますが、土日も宿直・日直あるいは肝臓内科の先生がいらしているところでございますが、令和4年度から外科の先生が、水曜日の当直から木曜日の午前中に日勤で、昼から日直で働いていただく形になっているところでございます。以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午後 3時20分 休憩

午後 3時20分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

議事を継続し、質疑を続行いたします。

○高原病院事務長（花牟禮秀隆君）

今、どのように取り組んできた結果が見えてこないとの話なのですけれども。こういった形で見えていないのか、ちょっと私存じないのですけれども。各職員と会計年度職員さんを含めて、お話する機会を作っているところでございます。

あと2番目の診療科目でございますけれども、診療科目につきましては、この前の中村議員さんもおっしゃいました。今のところ、内科、外科、リハビリテーション科に整形外科という形と、循環器内科の先生方がいらっしゃいます。その先生方の患者さんが、その先生方に対して、それで来られている現状を見ますと、これからも必要ではないかと考えております。

以上でございます。

○1番（陣圭介君）

最初の質疑と2点目の質疑についてもう1回聞きますけれども。取り組んできてどう結果が見えてこないと言って、働いている皆さんの雰囲気が良いであるとか、気持ち良く仕事しているであるとか、そういったものは現場の人間でないと感じ取れないと思っているので、そこを伺っているのですけれども。こういった取組をしたなどのところは、私は別に関係ないと思っ
ていて。気持ち良く皆さんが仕事できる環境にあるかどうか否かを聞いているのですけれども、

その辺を答弁いただきたいと思います。

それから2点目なのですが。非常勤医師の診療科目の選定に関して、損益がちゃんと見えた形で選択がなされているか否かを私は聞いているのですけれども、必要か否かの話ではなくて、そういうところ、経営上の分析がちゃんとできているか否かについて最初から聞いたつもりなので、その旨答弁ください。

○高原病院事務長（花牟禮秀隆君）

1点目を申し上げます。

1点目につきましては、先程も申しました私がどのように取り組んだかの話であるかとの話でございますが。職場環境については、それぞれ私については、今の環境、大分変わってきたのではないかと考えております。

2点目について、経営の損益よりも、患者さんのニーズの形で今のところ取り組んでいることで、損益につきましては、今のところ分析は進めておりません。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

次に、議案29号について許します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これをもって、総括質疑を終結します。

お諮りします。ただいま、議題となっております「議案第21号」から「議案第29号」までの議案9件につきましては、お手元に配付の「委員会付託一覧表」のとおり、所管の常任委員会に付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

異議なしと認めます。よって、「議案第21号」から「議案第29号」までの議案9件につきましては、お手元に配付の「委員会付託一覧表」のとおり、所管の常任委員会に付託の上、審査することに決定しました。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれにて散会いたします。

○

◎ 散 会

午後 3時25分 散会

令和4年 第1回 高原町議会定例会会議録 (第5日)

令和4年3月23日 (水曜日)

議事日程 (第5号)

令和4年3月23日 午前10時00分開議

- 日程第 1 議案第30号 第6次高原町総合計画の策定について
- 日程第 2 議案第31号 特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 3 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算
- 日程第 4 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 日程第 5 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
- 日程第 6 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算
- 日程第 7 議案第25号 令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算
- 日程第 8 議案第26号 令和4年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第 9 議案第27号 令和4年度高原町水道事業会計予算
- 日程第10 議案第28号 令和4年度高原町病院事業会計予算
- 日程第11 議案第29号 令和4年度高原町工業用水道事業会計予算
- 日程第12 総務経済常任委員会の閉会中の所管事務調査の件
- 日程第13 文教厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査の件
- 日程第14 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 議案第30号 第6次高原町総合計画の策定について
- 日程第 2 議案第31号 特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 3 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算
- 日程第 4 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 日程第 5 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
- 日程第 6 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算

- 日程第 7 議案第 25 号 令和 4 年度高原町介護保険事業特別会計予算
 日程第 8 議案第 26 号 令和 4 年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
 日程第 9 議案第 27 号 令和 4 年度高原町水道事業会計予算
 日程第 10 議案第 28 号 令和 4 年度高原町病院事業会計予算
 日程第 11 議案第 29 号 令和 4 年度高原町工業用水道事業会計予算
 日程第 12 総務経済常任委員会の閉会中の所管事務調査の件
 日程第 13 文教厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査の件
 日程第 14 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件

出席議員（10名）

1 番 陣 圭介君	2 番 反田 吉巳君
3 番 松元 茂春君	4 番 中村 昇君
5 番 温水 宜昭君	6 番 福澤 卓志君
7 番 末永 充君	8 番 入佐 廣登君
9 番 前原 淳一君	10 番 温谷 文雄君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局長 中嶋 秀一君	書記（事務局次長） 中嶋 雄二君
	書記（副主幹） 古川 裕子君

説明のため出席した者の職氏名

町長	高妻 経信君	副町長	横山 安博君
教育長	西田 次良君		
総合政策課長	馬場 倫代君	総務課長	内村 秀次君
税務課長	平川 昌知君	町民福祉課長	水町 洋明君
環境保全対策監	高原 寿志君	ほほえみ館長	久徳 信二君
産業創生課長	森山 業君	農政林務課長	上村 洋二君
農畜産振興課長	田中 博幸君	建設水道課長	入佐 和彦君
会計管理者兼会計課長	酒匂 政利君	高原病院事務長	花牟禮 秀隆君

教育総務課長

末永 恵治君

◎ 開議・日程

午前10時00分 開議

○議長（温谷文雄君）

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりです。

○

◎ 日程第1 議案第30号 第6次高原町総合計画の策定について

○議長（温谷文雄君）

日程第1、「議案第30号、第6次高原町総合計画の策定について」を議題とします。

当局からの提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

おはようございます。それでは、提案理由の説明を行います。

議案第30号、第6次高原町総合計画の策定について、御説明申し上げます。

追加議案の1ページをお開きください。

第6次総合計画におきましては、総合計画審議会に諮問した内容につきまして、3月8日に、本町の進むべき方向として妥当との答申を頂いたところでございます。

第6次高原町総合計画の内容につきましては、少子高齢化による人口減少や、地球規模の環境問題、高度情報化の進展、そして新型コロナウイルス感染症への対策等、本町を取り巻く現状が、大きく変化することを踏まえつつ、また、将来人口推計や各種統計データなど整理した上で、策定しております。

本計画では、まちの誇るべき地域資源である「水とみどりと神話」を生かした「神武の里づくり」を通して、誰もが健康で住み続けたいと思える、魅力あるまちづくりを目指すという、基本理念のもと、『みんなで つなぐ「神武の里」水とみどりと神話が輝く 健幸なまち』をまちの将来像とし、その目指す姿を実現するため、各種施策に取り組んでいくことといたしております。

また、基本構想に描かれた理念や将来像を実現するために、5つの基本目標を定めました。

一つ目が「みんなが健康で生きがいを持ち 豊かに暮らすまち」、二つ目が「活力ある産業を創出し 人が集うまち」、三つ目が「町民が共に支え合う 協働のまち」、四つ目が「自然と調和した 安全で安心な環境で暮らせるまち」、五つ目が、「生涯にわたり学び ふるさとを愛し続けるまち」以上、5つの目標のもとに基本計画を位置づけ、その基本計画を構成する基本施策において、分野ごとの現状と課題や、施策の展開、成果指標を定めています。

また、国連サミットで採択された2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」の理念を踏まえ、基本計画の施策ごとにSDGsが掲げる17の目標アイコンを紐づけ、

議事を継続し、質疑を続行いたします。

○5番（温水宜昭君）

先程の質問で、議員が今回委員の中に入っていない質問については、取消しをいたします。

以上です。

○総合政策課長（馬場倫代君）

お答えいたします。

パブリックコメントにつきましては、2月1日から1か月間、実施したところでございますけれども、1件も御意見等はございませんでした。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第30号を採決します。

議案第30号は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第30号は原案のとおり可決されました。

○

◎ 日程第2 議案第31号 特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例

○議長（温谷文雄君）

日程第2、「議案第31号、特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び町長等の給与の

特例に関する条例の一部を改正する条例」を議題とします。

当局から提案理由の説明を求めます。

○町長（高妻経信君）

〔登壇〕

議案第31号、特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

追加議案書2ページをお開きください。

報告第1号におきまして、説明いたしました特別障害者手当について、職員の不適正な事務処理により、相手方に適正に手当が支給されない事態を招いてしまいました。この件について、

※特別障害者手帳の申請者御本人や、その御家族、関係機関、町民の皆様にご迷惑をおかけし、町に対します信用、信頼を著しく失墜いたしましたことは、誠に申し訳なく、心から深くお詫びを申し上げる次第であります。私の統括権限を自戒し、その責を正すために給与の減額を致すものでございます。※このページの下段に訂正発言

今後は、職員一人ひとりが全体の奉仕者の自覚を持ち、社会的責任を深く認識いたし、より一層の綱紀粛正に努め、職員指導を徹底してまいります。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

〔降壇〕

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前10時17分 休憩

午前10時17分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続いたします。

○町長（高妻経信君）

一部修正をさせていただきます。

先ほど特別障害者、正しくは特別障害者手当の申請者でございますけども、私は特別障害者手帳と申し上げました。「特別障害者手当」に修正をさせていただきます。

○議長（温谷文雄君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

○6番（福澤卓志君）

今回のこの条例の改正の提案ですけども、本会議が開会される前に、新聞で拝見いたしました。この上程のタイミングなのですけども。なぜこのタイミングになったのかをお伺いすると同時

に、今回のこの件に関しまして、各課内の連携、相当数見直されないと恥ずかしい状態にあることが露呈されたわけですが、その点の2点お考えを伺いたしたいと思います。

○町長（高妻経信君）

この追加議案としての、今回、提案に至った訳でございますけれども、今回相手方との関係、いわゆる説明、そしてまた弁護士等での処理の相談。

そして今度は、今回の不適正な処理事務に至った職員との説明、こういったものを含めて、あるいはマスコミへの報道。こういったものの進めてまいったと。経緯の中での今回のこの議案としては、本日の追加議案の提案となったと御理解いただきたいと思えます。

それと、今回のことを踏まえまして、副町長を中心に、こういった事務処理に至った経緯等を職員の全員が情報を共有、こういったことも課長会で説明し、そしてまた、今後こういうことがないように。事務処理の今回は案件であったことを考えれば、この係あるいは課長等の日頃の事務のチェック、あるいは職員同士の職務上のコミュニケーションといえますか、そういったものについて一層徹底をするように。それぞれ2名、通知をもって職員に、そういった状況を、今の環境をない様に注意を致したところでございます。

以上でございます。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（陣圭介君）

1点だけお伺いしますけれども。職員の全体的な指揮監督の権限をお持ちだとのことで、一度は責任を取る必要はあると思うのですけれども。町長の中での責任の取り方の整理の仕方についてお伺いしたいのですが。

一人の職員が、時期を同じくして、複数の不適正な事務処理を行っていた場合と、同一の職員が、時期を異にして、別々の不適正な事務の処理を行った場合の責任の取り方は、私は一人の職員がやった事案としては、責任の取り方は1回でいいと考えているのですけれども。今回、この議案を上げる必要が正直あったのかと思っております。整理の仕方について、町長のお考えをお伺いしたいと思います。

○町長（高妻経信君）

お答えいたします。

これまでこういった同様の案件に伴います、私の給与の削減という議案を提出してまいりました。これは私自身、今回のケースを見てみますと、やはり長期に及ぶ案件でありましたし、それなりに調査もしてまいって、時間もかなり経過をしたのもあります。

私はやはり、この責任の取り方という分においては、それは私自身が、やはりその案件の内容、

あるいは直接その職員個人にどの程度の責任があったのか。あるいは、周りの職員の日常的な事務管理がどうだったのか。あらゆる面を考慮して、自分として、私が自分で決めることですので、それは明確なそういった基準があるわけではありませんで、それはもう私の自己判断と御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これで討論を終わります。

これから議案第31号を採決します。

議案第31号は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第31号は原案のとおり可決されました。

○

-
- ◎ 日程第3 議案第21号 令和4年度高原町一般会計予算
 - ◎ 日程第4 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
 - ◎ 日程第5 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算
 - ◎ 日程第6 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算
 - ◎ 日程第7 議案第25号 令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算
 - ◎ 日程第8 議案第26号 令和4年度高原町後期高齢者医療特別会計予算
 - ◎ 日程第9 議案第27号 令和4年度高原町水道事業会計予算
 - ◎ 日程第10 議案第28号 令和4年度高原町病院事業会計予算

◎ 日程第11 議案第29号 令和4年度高原町工業用水道事業会計予算

○議長（温谷文雄君）

日程第3、「議案第21号、令和4年度高原町一般会計予算」から、日程第11、「議案第29号、令和4年度高原町工業用水道事業会計予算」までの議案9件を一括議題とし、前回の議事を継続します。

ただ今、議題となりました各案は、付託の常任委員会から審査報告書が提出され、その写しをお手元に配付しております。

これより各常任委員会 委員長の報告を求めます。

まず、一般会計予算・決算常任委員会 委員長報告願います。

○一般会計予算・決算常任委員会 委員長（前原淳一君）

〔登壇〕

本委員会に付託された案件は、議案第21号の1件です。

読み上げて報告します。

委員会審査報告書。

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 議案第21号、令和4年度高原町一般会計予算

2 審査の経過 令和4年3月15日、16日、17日、22日、委員会審査、3月15日現地調査

令和4年度の高原町一般会計予算の総額は、歳入歳出それぞれ58億7,900万円と定めています。令和3年度と比較すると、1億9,600万円、3.4%の増となっています。

歳入の主なものですが、町税は、市町村民税、固定資産税など、7億5,697万6,000円が計上されています。令和3年度と比較すると1,165万3,000円、1.6%の増となっています。地方消費税交付金は税増収に伴う交付金の増により、1億8,000万円が計上されています。令和3年度と比較すると500万円、2.9%の増となっています。地方交付税は、国の地方財政対策等に基づき算定し、24億2,300万円が計上されています。令和3年度と比較すると、1億1,200万円、4.8%の増となっています。国庫支出金は、6億7,921万6,000円が計上されています。令和3年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金の減額等により、920万1,000円、1.3%の減となっています。県支出金は、4億5,416万3,000円が計上されています。令和3年度と比較すると西の原、板橋遺跡発掘調査事業の県委託金の皆減等により、2,963万1,000円、6.1%の減となっています。寄附金は、2億5,000万3,000円が計上さ

れています。令和3年度と比較すると、ふるさと納税寄附金の増加を見込み、3,000万1,000円、13.6%の増となっています。繰入金は、3億7,011万6,000円が計上されています。令和3年度と、比較すると減災基金やふるさと振興基金、財政調整基金、「神武の里たかはる まち・ひと・しごと推進基金」等の増により8,800万円、31.2%の増となっています。諸収入は、1億3,176万2,000円が計上されています。令和3年度と比較すると、765万7,000円、5.5%の減となっています。町債は、4億2,620万円が計上されています。令和3年度と比較すると、臨時財政対策債の減等により550万円、1.3%の減となっています。

次に、目的別歳出の主なものですが、総務費は、12億3,232万9,000円、令和3年度と比較すると、地域おこし協力隊員の増員や、ふるさと納税特産品贈呈事業のほか、電子計算管理費や徴税費の機器やシステムの更新、戸籍住民基本台帳費の法改正によるシステム改修等による増が影響し、9,600万4,000円、8.4%の増となっています。民生費は、17億6,816万7,000円、令和3年度と比較すると、町社会福祉協議会運営補助金や国民健康保険特別会計への繰出金、擁護措置委託事業、高原町支援対象児童等見守り強化事業、放課後児童健全育成事業、公立保育所指定管理業務委託事業等の増により※3,660万8,000円、2.1%の増となっています。※222ページに訂正発言
衛生費は、5億4,248万1,000円、令和3年度と比較すると、霧島美化センターの工事費用や、高原病院への繰り出し基準の見直しによる病院整備費の増により、2,841万円、5.5%の増となっています。農林水産業費は、4億4,852万7,000円で、令和3年度と比較すると、県営畑地帯総合整備事業や、農地耕作条件改善事業等の増により、1,108万8,000円、2.5%の増となっています。土木費は、3億7,622万5,000円、令和3年度と比較すると、通学路対策を中心とした単独の道路舗装事業や、社会資本総合整備交付金事業、街路事業、公営住宅の改修や一部解体等の増により、6,523万4,000円、21.0%の増となっています。消防費は、9,896万1,000円で、令和3年度と比較すると、消防団員の出勤報酬や、消防ポンプ自動車購入事業、総合型ハザードマップ作成事業等により、3,260万6,000円、49.1%の増となっています。教育費は、5億2,124万1,000円、令和3年度と比較すると、高原中学校の管理棟屋根改修工事等の増があるものの、西の原・板橋遺跡本調査事業の皆減等により、4,109万6,000円、7.3%の減となっています。公債費は、5億5,958万7,000円、令和3年度と比較すると、高原中学校に係る起債や、県の貸付金などの償還が終了したことにより、3,242万1,000円、5.5%の減となっています。

次に、性質別歳出の主なものですが、内訳については数字のみの報告といたします。

人権費は、11億9,273万2,000円、令和3年度と比較すると、3,280万3,000円、2.8%の増となっています。物件費は、10億7,354万4,000円、令和3年度と比較すると、3,229万4,000円、2.9%の減となっています。補助費等は、8億2,558万6,000円、令和3年度と比較すると、1億5,314万2,000円、22.8%の増となっています。公債費は、5億5,958万7,000円、令和3年度と比較すると、3,242万1,000円、5.5%の減となっています。積立金は、1億2,962万8,000円、令和3年度と比較すると、1,874万1,000円、16.9%の増となっています。投資的経費は、5億6,613万4,000円、令和3年度と比較すると、9,437万6,000円、20.0%の増となっています。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定 理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見、「町民の誰もが住み続けながら、豊かさと幸せを実感できるまちづくりを基本理念とした令和4年度の当初予算案である。新たな変異株も報告される中、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、農林畜産業や商工業の振興、観光、移住定住、子育て支援及び高齢者支援等重要施策である14項目の事業が提案されている。中でも、地域商社の事業開始などが予定されているほか、小学校建設においても基本設計等、事実上事業がスタートした。予算の執行にあたっては、厳しい財政状況等を踏まえ、さらなる行財政改革を徹底し、歳入の確保と歳出の経費節減に努められたい。

令和4年3月23日 一般会計予算・決算常任委員会 委員長 前原淳一 高原町議会議長殿
民生費ですけれども、私は3,660万8,000円と申し上げたようですけれども、正しくは3,669万8,000円、2.1%の増が正解ですので訂正をお願いします。 [登壇]

○議長（温谷文雄君）

次に、総務経済常任委員会 委員長 報告願います。

○総務経済常任委員会委員長（温水宜昭君） [登壇]

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 議案第22号 令和4年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算

2 審査の経過 令和4年3月17日、22日 委員会審査

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ50万4,000円であります。

歳入の主なものは、貸付金元利収入の48万円です。

歳出は、住宅費・住宅新築資金等貸付事業費の中の住宅新築資金未償還の抵当権実行に伴う法的措置費用の手数料及び委託料42万2,000円が主なものです。

なお、令和4年3月末現在の債務残高は1,443万6,369円となっています。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定 理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見 なし

令和4年3月23日 総務経済常任委員会委員長 温水 宜昭 高原町議会議長 殿
委員会審査報告書。

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 議案第23号 令和4年度高原町農業集落排水事業特別会計予算

2 審査の経過 令和4年3月17日 22日 委員会審査

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ2,507万3,000円で、対前年度比620万9,000円、19.8%の減となっています。

歳入は、使用料及び手数料549万7,000円、一般会計繰入金は1,449万円、繰越金115万5,000円、町債390万円が主なものです。

歳出の農業費・農業集落排水事業費は、1,162万9,000円で、維持管理に係る経費と公営企業会計への移行に伴う委託料837万1,000円が計上されています。また、公債費は、元金として1,247万7,000円、利子として96万7,000円が計上されています。なお、令和4年1月末現在の区域内戸数は287戸で、加入戸数は前年度より8戸増の223戸、加入率は、77.7%となっています。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定 理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見 なし

令和4年3月23日 総務経済常任委員会 委員長 温水 宜昭 高原町議会議長殿
委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 議案第27号 令和4年度高原町水道事業会計予算

2 審査の経過 令和4年3月17日、22日委員会審査 3月15日現地調査

業務の予定量は、給水件数4,410件、年間総給水量120万8,880立法メートル、1日平均給水量3,312立法メートルであります。

収益的収入及び支出は、収益的収入が前年度比0.1%減の1億9,899万5,000円、収益的支出が前年度比0.4%増の1億9,433万1,000円です。

収入における営業収益は1億7,649万5,000円と、営業外収益2,224万5,000円が主なものです。

支出については、営業費用が1億7,429万5,000円、営業外費用1,993万4,000円が主なものとなっています。

次に、資本的収入及び支出ですが、収入は、企業債2,000万円、他会計負担金758万9,000円など合計2,759万2,000円が計上されています。

支出は、建設改良費5,010万円及び企業債償還金5,509万3,000円が主なものです。資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額7,760万2,000円は、当年度分損益勘定留保資金6,531万8,000円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額466万4,000円及び建設改良積立金773万円で補填することになっています。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定 理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見 なし

令和4年3月23日 総務経済常任委員会 委員長 温水 宜昭 高原町議会議長 殿

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 議案第29号 令和4年度高原町工業用水道事業会計予算

2 審査の経過 令和4年3月17日、22日委員会審査

業務の予定量は、給水能力1日最大1,200立法メートルですが、令和4年度も工業用水使用の予定はありません。

資本的収入及び支出は、収入支出それぞれ201万3,000円です。

収入は、全額一般会計からの補助金で、支出は、建設改良費31万3,000円と企業債償還金170万円です。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定 理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見 なし

令和4年3月23日 総務経済常任委員会 委員長 温水 宜昭 高原町議会議長 殿

[降壇]

○議長（温谷文雄君）

次に、文教厚生常任委員会 委員長 報告願います。

○文教厚生常任委員会 委員長 （末永 充君）

[登壇]

委員会審査報告書

本委員会に付託された案件は、議案第24号、議案第25号、議案第26号及び議案第28号の4件です。

順次、読み上げて報告いたします。

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 議案第24号 令和4年度高原町国民健康保険特別会計予算

2 審査の経過 令和4年3月17日、18日、22日 委員会審査

令和4年2月末時点の国保加入状況は、世帯数が、前年度と比較して46世帯減の1,571世帯、被保険者数が、前年度と比較して93人減の2,467人となっています。

予算の総額は、歳入歳出それぞれ14億9,781万円で、前年度と比較して732万8,000円、0.5%の減となっています。

歳入のうち国民健康保険税は2億7,178万2,000円で、前年度と比較して3,145万8,000円、10.4%の減となっています。県支出金は、県補助金の10億7,778万円が計上されています。

一般会計繰入金は1億2,986万1,000円で、前年度と比較して3,105万2,000円、31.4%増となっています。基金繰入金は、1,708万9,000円が計上されています。

歳出の主なものは、保険給付費が10億5,498万5,000円で、前年度と比較して2,098万円、1.9%の減、国民健康保険事業費納付金が3億8,070万4,000円で、前年度と比較して837万7,000円、2.2%の増、保健事業費が2,456万9,000円で、前年度と比較して59万1,000円、2.5%の増などとなっています。

3 決定及びその理由 決定 「可決すべきもの」と決定 理由 妥当と認む

4 少数意見の留保 なし

5 委員会の意見

令和4年度予算編成は、コロナ禍において被保険者への影響を勘案して、昨年度と同様に税率等について、据置きされ、また、子育て世帯の負担軽減措置として、令和4年度から未就学児の均等割額に国と併せて、町独自の減額を行うこととされている。

本町の医療費は、令和3年3月から令和3年10月までの8か月間において、一人あたり31万1,936円で、県内では7番目と高い順位にある。今後、高原町健康づくり推進条例に基づき、町民への運動や食生活などの生活習慣の改善、健康診査受診等の取組や、職場環境の改善の推進を行い、今後も医療費抑制に努められたい。

また、厳しい経済状況の中、国民健康保険税徴収には、負担の公平性を確保し、財政健全化を図るためにも、なお一層取組強化を望む。

令和4年3月23日 文教厚生常任委員会 委員長 末永充 高原町議会議長 殿

委員会審査報告書

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 事件名 ^{*}議案25号 令和4年度高原町介護保険事業特別会計予算

※228ページに訂正発言

2 審査の経過 令和4年3月17日、18日、22日 委員会審査

まず、保険事業勘定ですが、歳入歳出それぞれ14億2,418万8,000円で、前年度比1,686万8,000円、1.2%の減となっています。

歳入の主なものは、保険料が2億1,552万1,000円で、前年度比295万9,000円、1.4%の減、国庫支出金が3億9,842万円で、前年度比360万9,000円、1.0%の減、支払基金交付金が3億6,903万2,000円で、前年度比379万4,000円、1.0%の減、県支出金が1億9,121万2,000円で、前年度比213万7,000円、1.1%の減、繰入金が2億4,966万7,000円で、前年度比432万2,000円、1.7%の減となっています。

歳出の主なものは、総務費が2,176万円で、前年度比195万9,000円、8.3%の減、保険給付費が13億3,759万6,000円で、前年度比1,306万5,000円、1.0%の減、地域支援事業費が6,168万円で、前年度比213万8,000円、3.4%の減となっています。

次に、介護サービス事業勘定ですが、予算の総額は歳入歳出それぞれ577万9,000円です。

歳入の主なものは、サービス収入が576万4,000円です。

歳出の主なものは、サービス事業費577万7,000円です。

3、決定及びその理由。決定、「可決すべきもの」と決定。理由、妥当と認む。

4、少数意見の留保。なし。

5、委員会の意見。本町では、令和4年1月現在、第1号被保険者として、要支援者85人、要介護者472人、計557人が認定され、第2号被保険者は要支援者6名、要介護者5名、計11名が認定されている。

年々、高齢化社会が進む中、第8期介護保険事業計画に基づき、利用者の多様化するニーズに沿うべき、^{*}きめ細かなサービス提供に努められたい。※228ページに訂正発言
令和4年3月23日。文教厚生常任委員会委員長、末永 充。高原町議会議長 殿。
委員会審査報告書。

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記。

1、事件名。議案第26号、令和4年度高原町後期高齢者医療特別会計予算。

2、審査の経過。令和4年3月17日、18日、22日、委員会審査。

令和4年2月末時点の後期高齢者の被保険者数は、前年度と比較して28名、1.4%の減の1,951人となっています。

予算の総額は、歳入歳出それぞれ2億7,744万2,000円で、前年度と比較して3,404万3,000円、10.9%の減となっています。

歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料が7,222万6,000円で、前年度と比較して1,136万6,000円、13.6%の減、繰入金が1億8,461万6,000円で、前年度と比較して2,258万7,000円、10.9%の減、諸収入が2,059万6,000円で、前年度と比較して90万9,000円、4.6%の増となっています。

歳出の主なものは、後期高齢者医療広域連合納付金2億5,444万7,000円で、支出総額の91.7%を占めています。新規事業として、後期高齢者あんま・はり・きゅう施術料助成事業の予算が措置されています。

3、決定及びその理由。決定、「可決すべきもの」と決定。理由、妥当と認む。

4、少数意見の留保。なし。

5、委員会の意見。なし。

令和4年3月23日。文教厚生常任委員会委員長、末永充。高原町議会議長殿。

委員会審査報告書。

本委員会に付託の事件は、審査の結果次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定によ

り報告します。

記。

1、事件名。[※]議案28号、令和4年度高原町病院事業会計予算。

※229ページに訂正発言

2、審査の経過。令和4年3月17日、18日、22日、委員会審査。

令和4年度の業務の予定量について、病床数は17床の休床を予定し、一般病床39床、入院患者数は、前年度と比較して4,114人減の年間延べ1万585人、1日平均29人、外来患者数は、前年度と比較して5,240人減の年間延べ2万9,800人、1日平均100人となっています。

収益的収入及び支出については、病院事業収益が6億9,372万5,000円で、前年度と比較して1億2,105万9,000円、14.9%の減、病院事業費用が10億1,938万8,000円で、前年度と比較して6,437万5,000円、5.9%の減となっています。

資本的収入は2,645万5,000円で、その主なものは他会計負担金の2,645万2,000円です。資本的支出は5,160万9,000円で、その主なものは、建設改良費の69万円及び企業債償還金の5,091万8,000円です。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額2,515万4,000円は、過年度分損益勘定留保資金2,514万8,000円及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額6,000円で補填するものとされています。

3、決定及びその理由。決定、「可決すべきもの」と決定。理由、妥当と認む。

4、少数意見の留保。なし。

5、委員会の意見。高原病院は地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保のため、重要な役割を果たしているが、依然として厳しい病院経営が予想され、公立病院として必要な医療を継続するため、医師確保と地域医療提供体制を整備し、さらなる健全経営を目指されたい。

令和4年3月23日。文教厚生常任委員会委員長、末永充。高原町議会議長殿。

訂正させていただきます。

議案第25号の令和4年度高原町介護保険事業の特別会計予算でございますが、私が「議案25号」と「第」を挿入していただきたいと思いますが。「第25号」と訂正させていただきます。

それから、同じく介護保険事業特別会計予算でございますが、委員会の意見で、「きめ細やかな」というのを、「きめ細かな」というふうに言いました。「きめ細やかな」で訂正させていただきます。

それから、病院事業の会計予算でございますが、これも「議案第28号」のところを、私、「議案28号」と読みました。「議案第28号」ということでお願いしたいと思います。以上でございます。 [降壇]

○議長（温谷文雄君）

これをもって報告を終結します。

これより、各常任委員会委員長報告に対する質疑を行います。

まず、議案第21号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第22号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第23号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第24号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

暫時休憩いたします。

午前11時09分 休憩

午前11時22分 再開

○議長（温谷文雄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議事を継続し、質疑を続行いたします。

議案第24号ですが、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第25号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第26号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第27号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第28号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第29号について許します。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これをもって、各常任委員会委員長に対する質疑を終結します。

これより討論を行います。

まず、議案第21号について許します。

反対の討論はありませんか。

○4番（中村昇君）

ただいま議題となっております議案第21号、令和4年度高原町一般会計予算に反対の立場から討論いたします。

本予算は歳入歳出それぞれ58億7,900万円と定めるものであります。本予算には子育て支援として、子ども医療費助成や小中学校給食費半額補助、福祉では新型コロナウイルス感染症対策事業、消防では団員の指導報酬支給、また国保特別会計へ法定外繰入れがなされているなど、町民の暮らしや福祉教育の充実、農業などの産業の振興を図る予算であり、その多くを評価するものであります。

しかし、働くお母さんたちの支援として必要な病児保育がなされておられません。また、南海トラフ地震が想定される中で、入居者の命を守ることが何より大事なのに、耐震性のない町営住宅の建替えが先送りされております。交通安全対策も不十分であります。

以上の理由で賛成できません。

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

○9番（前原淳一君）

私は議案第21号、令和4年度高原町一般会計予算案に賛成の立場で討論をいたします。

全体としては、一部に不服もあります。が、予算案の中で特に地域商社の設立については、町民の関心も高く、新商品や特産品の開発をすることによって、町民の所得向上や町全体の活性

化につながると思っています。

また、観光は本町の活性化においては、欠かすことのできない大事な産業の一つであり、天孫降臨の町として、御池・皇子原公園をはじめ、温泉や神話、伝統芸能などをコラボさせることによって、新しい種を芽生えさせ、さらには若者を中心に多くの知恵を出し合い、新しい高原を構築していかれることを大いに期待をするものです。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第22号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第23号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第24号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

○4番（中村昇君）

ただいま議題となっております議案第24号、令和4年度高原町国民健康保険特別会計に賛成の立場から討論いたします。

本予算は、歳入歳出それぞれ14億9,781万円と定めるものであります。保険税は昨年同様据置きとされ、また未就学児の均等割を国と合わせて町独自でゼロにしました。こうした今回の予算措置は、コロナ禍で苦しむ町民に心を寄せ、また多子世帯に対して子育ての経済的負担軽減を図り、子育てを支援するものとして、高く評価するものであります。

よって、本予算に賛成いたします。

○議長（温谷文雄君）

反対の討論はありませんか。

原案に賛成の方の発言を許します。

○9番（前原淳一君）

私は議案第24号、令和4年度高原町国民健康保険特別会計に賛成の立場で討論をいたします。

私はこれまで反対をしてきましたけれども、令和4年度も令和3年度と同様、税率等について据置きをされ、また、未就学児の均等割額において町独自の減額を行う。これを高く評価し、賛成をいたします。

以上です。

○議長（温谷文雄君）

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第25号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第26号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第27号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第28号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

次に、議案第29号について許します。

反対の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

原案に賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（温谷文雄君）

これをもって、討論を終結します。

これより各案の採決を行います。

まず、議案第21号の採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第21号は委員長報告のとおり決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第21号は委員長報告のとおり可決されました。
次に、議案第22号の採決を行います。
本案に対する委員長の報告は可決です。
議案第22号は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第22号は委員長報告のとおり可決されました。
次に、議案第23号の採決を行います。
本案に対する委員長の報告は可決です。
議案第23号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第23号は委員長報告のとおり可決されました。
次に、議案第24号の採決を行います。
本案に対する委員長の報告は可決です。
議案第24号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第24号は委員長報告のとおり可決されました。
次に、議案第25号の採決を行います。
本案に対する委員長の報告は可決です。
議案第25号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第25号は委員長報告のとおり可決されました。
次に、議案第26号の採決を行います。
本案に対する委員長の報告は可決です。
議案第26号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第26号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第27号の採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第27号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第27号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第28号の採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第28号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

起立多数です。よって、議案第28号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第29号の採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第29号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（温谷文雄君）

総員起立です。よって、議案第29号は委員長報告のとおり可決されました。

○

◎ 日程第12 総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査の件

◎ 日程第13 文教厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査の件

◎ 日程第14 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件

○議長（温谷文雄君）

日程第12から日程第14までの各委員会の事務調査について3件を一括議題といたします。

各委員会の事務調査については、総務経済常任委員会委員長、文教厚生常任委員会委員長及び議会運営委員会委員長から閉会中の継続調査申出書が提出され、その写しをお手元に配付しています。

お諮りします。

各委員会の事務調査については、総務経済常任委員会委員長、文教厚生常任委員会委員長及び議会運営委員会委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（温谷文雄君）

異議なしと認めます。よって、各委員会の事務調査についての3件については、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

以上で、今期定例会に付議されました案件は全部終了しました。

ここで、町長より発言の申し入れがありましたので、発言を許可いたします。

○町長（高妻経信君）

[登壇]

ただいま議長より発言の許可をいただきました。令和4年第1回高原町議会定例会の閉会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

今回の議会では、3月9日から本日までの15日間の会期において、一般会計ほか9会計の令和4年度予算案件、損害賠償の額を定めたことについての専決処分の報告案件1件、固定資産評価審査委員会委員の選任に伴う同意案件が1件、人権擁護委員の候補者の推薦に伴う諮問案件が3件、一般会計補正予算の専決処分に伴う承認案件が4件、国民健康保険条例の一部を改正する条例ほか条例改正等案件が15案件、そして一般会計補正ほか補正予算案件が5件、追加議案としまして高原町第6次総合計画の策定についてほか2件、合計40案件につきまして、慎重審議により全て原案どおり決定をしていただきありがとうございました。

各案件の審議において、議員各位から賜りました御指導に対しましては、真摯に受け止めながら、今後の事務の執行に努めてまいります。

また、5名の議員から出されました一般質問につきましては、新型コロナウイルス感染症対策、住民サービスについて、地域産業の育成と振興について、産業について、公共施設についてなど、いずれも高原町にとって喫緊の課題であり、また町民の福祉向上にとって取り組んでいくべき内容であると認識いたしております。

改善すべき点は早急に改善し、今後の町政運営に反映させてまいりますので、これからも御指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

宮崎県では新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置は3月6日までで解除されましたが、第六波では本町でも多くの感染者が発生し、本町初めてとなるクラスター感染も発生しております。

まん延防止等重点措置の解除を受けて、県は独自の感染拡大緊急警報を3月31日まで継続しております。これからも町民に感染防止の気持ちが途切れることがないよう基本的な感染防止対策の徹底を呼びかけてまいります。

令和4年度当初予算におきましては、各会計とも厳しい財源の中で事業の精査や将来の財政運営に配慮をしながら編成に当たってまいりました。予算は町民の貴重な税が財源となっていることを職員一人一人が自覚し、可能な限り多様化している町民ニーズに応えながら、高原町の

発展と町民の幸せを実現するため、その執行に当たってまいります。

また、今議会において決定いただきました第6次高原町総合計画は、少子高齢化による人口減少、地球規模の環境問題、高度情報化、感染症対策など、本町を取り巻く現状を踏まえつつ、令和4年度からの本町の進むべき方向を示した指針であり、本町の将来像実現に向けて、町課題の解決のため様々な施策を展開いたしてまいります。人口減少という厳しい現状の中にあっても、これからも私と職員が一丸となり、高原町民の誰もが住み続けながら、豊かさと幸せを実感できるまちづくりを目指してまいります。

議員各位の御理解を賜りますようよろしくお願いしまして、今定例会の閉会に当たり、私の挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

[登壇]

○議長（温谷文雄君）

これにて、令和4年第1回高原町議会定例会を閉会いたします。

○

◎ 閉 会

午前11時43分 閉会

令和4年第1回定例会

署名

高原町議会議長

温谷文雄

高原町議会議員

松元茂春

高原町議会議員

中村昇